

# Enterprise Vault™

## 導入/計画

12.3

# Enterprise Vault™: 導入/計画

最終更新日: 2018-03-09。

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、ベリタスがオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100040095](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095)

## マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

[evdocs@veritas.com](mailto:evdocs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

# 目次

第 1 章	本書について .....	10
	このマニュアルについて .....	10
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....	11
	Enterprise Vault トレーニングモジュール .....	13
第 2 章	概要 .....	14
	Enterprise Vault の概要 .....	14
	アーカイブの処理方法 .....	15
	アーカイブ内のアイテムへのアクセス方法 .....	16
	分類について .....	19
	レコード管理について .....	20
	Compliance Accelerator と Discovery Accelerator .....	21
	Enterprise Vault アドオンについて .....	21
	Enterprise Vault の動作 .....	22
	単一インスタンスストレージについて .....	26
	Enterprise Vault のインデックスについて .....	30
	インデックスサーバーグループについて .....	34
	Enterprise Vault 管理コンソールについて .....	37
	Enterprise Vault サイト、ディレクトリ、ディレクトリデータベースについ て .....	37
	Enterprise Vault タスクについて .....	39
	Enterprise Vault サービスについて .....	43
	Enterprise Vault Outlook アドインについて .....	49
	Enterprise Vault アーカイブへの IMAP アクセスについて .....	51
	Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアントについて .....	51
	Microsoft Exchange フォームについて .....	52
	OWA Extensions について .....	52
	OWA 2013 以降と Outlook 2013 以降の Office Mail App について .....	53
	Notes 用 Enterprise Vault 拡張機能について .....	53
	Enterprise Vault 検索について .....	54
	Enterprise Vault の監視とレポートについて .....	55
	FIPS 140-2 コンプライアンス .....	55

<b>第 3 章</b>	<b>Enterprise Vault の管理</b>	56
	Enterprise Vault の管理について	56
	管理コンソールのアーカイブ設定	57
	管理アカウントと役割	57
	PST ファイル内容のアーカイブ方法	58
	NSF ファイルの内容のアーカイブ方法	58
	アーカイブ済みアイテムのエクスポート方法	59
	Welcome メッセージとその他の通知	59
	Enterprise Vault のレポートと監視について	60
	Enterprise Vault Reporting	61
	レポートモード	62
	イベントと診断のログ	62
	管理コンソールでのシステムの状態	63
	Enterprise Vault Operations Manager	63
	イベントとパフォーマンスの自動監視	64
	メッセージキューの監視	64
	Enterprise Vault の監査	65
	管理タスクでのスクリプトの使い方	65
	日常の管理タスクのチェックリスト	66
<b>第 4 章</b>	<b>Exchange Server のアーカイブ</b>	68
	Exchange Server アーカイブとユーザーメールボックスについて	68
	Exchange プロビジョニングタスク	69
	Exchange メールボックスアーカイブタスク	69
	Exchange のアーカイブ対象	70
	Exchange メールボックスポリシー	71
	Exchange デスクトップポリシー	72
	Exchange アーカイブのフィルタ	72
	Exchange Server とジャーナルメールボックスのアーカイブ	73
	Exchange Server とジャーナルのフィルタ	74
	Compliance Accelerator および Exchange のジャーナリング	74
	Exchange Server アーカイブでアーカイブするアイテムの種類	74
<b>第 5 章</b>	<b>Exchange パブリックフォルダアーカイブ</b>	76
	Exchange パブリックフォルダタスク、対象、ポリシー	76
	Exchange パブリックフォルダタスクのアーカイブ方法	77
	Exchange パブリックフォルダのアーカイブへのユーザーアクセス	79
<b>第 6 章</b>	<b>ファイルシステムアーカイブ</b>	80
	ファイルシステムアーカイブについて	81
	ファイルアーカイブのポリシーについて	82

ファイルシステムアーカイブによるショートカットファイルについて .....	82
ファイルシステムアーカイブの設定について .....	86
クラスタ環境でのファイルシステムアーカイブ .....	88
ファイルシステムアーカイブの処理 .....	90
ファイルシステムアーカイブによる古いバージョンのアーカイブファイルの処 理 .....	92
ファイルシステムアーカイブによる権限の同期 .....	92
ファイルシステムアーカイブレポート .....	92
ファイルシステムアーカイブによるファイルの復元方法 .....	93
FSAUtility について .....	94
ファイルシステムアーカイブを使ったショートカットファイルのバックアップと スキャンの設定方法 .....	95
ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー 呼び戻し .....	95
保持フォルダとファイルシステムアーカイブ .....	96
FSA レポート .....	97

## 第 7 章      Microsoft SharePoint サーバーのアーカイブ ..... 99

Microsoft SharePoint サーバーのアーカイブについて .....	99
SharePoint アーカイブの設定方法 .....	100
SharePoint アーカイブタスク .....	100
アーカイブ対象 SharePoint .....	101
SharePoint のアーカイブレポート .....	102
SharePoint アーカイブポリシー .....	102
アーカイブした SharePoint 文書へのアクセス方法 .....	103
SharePoint での Enterprise Vault ショートカットについて .....	103

## 第 8 章      Domino メールボックスアーカイブ ..... 104

Domino メールボックスアーカイブと Enterprise Vault について .....	104
Domino プロビジョニンググループ .....	107
Domino メールボックスアーカイブタスク .....	108
Domino メールボックスアーカイブポリシー .....	109
Domino メールボックスアーカイブの保持フォルダ .....	109
Domino メールボックスアーカイブのデスクトップポリシー .....	110

## 第 9 章      Domino ジャーナルアーカイブ ..... 112

Domino ジャーナルアーカイブについて .....	112
Domino ジャーナルアーカイブのポリシー .....	112
Domino ジャーナルアーカイブのデータベースの注意事項 .....	113
Domino ジャーナルアーカイブの設定方法 .....	113
クラスタ化された Domino ジャーナルデータベースのサポート .....	114

第 10 章	SMTP アーカイブ .....	115
	Enterprise Vault SMTP アーカイブについて .....	115
	SMTP アーカイブコンポーネント .....	117
	セキュリティと認証 .....	119
	拡張性とディザスタリカバリ .....	120
第 11 章	Skype for Business アーカイブ .....	121
	Skype for Business アーカイブについて .....	121
	Skype for Business アーカイブのライセンスについて .....	122
	Skype for Business アーカイブの概要 .....	122
	Skype for Business アーカイブのコンポーネント .....	123
第 12 章	Enterprise Vault Accelerators .....	126
	Enterprise Vault Accelerators について .....	126
	2 つの Enterprise Vault Accelerator の相違点 .....	127
	Compliance Accelerator について .....	127
	Compliance Accelerator コンポーネント .....	128
	Compliance Accelerator クライアントアプリケーション .....	130
	Compliance Accelerator 設定データ .....	133
	Discovery Accelerator について .....	133
	Discovery Accelerator の分析機能 .....	134
	Discovery Accelerator コンポーネント .....	134
	Discovery Accelerator クライアントアプリケーション .....	137
	Discovery Accelerator 設定データ .....	139
第 13 章	耐性のある構築 .....	140
	Enterprise Vault と VCS について .....	140
	サポートされる VCS 設定とソフトウェア .....	140
	Enterprise Vault と VCS GenericService エージェントについて .....	141
	VCS クラスタでの一般的な Enterprise Vault 構成 .....	141
	Enterprise Vault と Windows Server フェールオーバークラスタについて .....	142
	サポートされる Windows Server フェールオーバークラスタの構成 .....	143
	Windows Server フェールオーバークラスタでの共通の Enterprise Vault の設定 .....	143
	Enterprise Vault ビルディングブロックについて .....	144
	ビルディングブロックと高可用性 .....	145

<b>第 14 章</b>	<b>コンポーネントのインストール計画</b>	147
	コンポーネントのインストール計画について	147
	Enterprise Vault サーバーの有効なコンピュータ名について	148
	インストールを計画する場合の Enterprise Vault コンポーネントの前提条件	148
	Enterprise Vault コンポーネントの配備を計画する場合の考慮事項	148
	Enterprise Vault ディレクトリサービスのインストール計画	149
	Enterprise Vault のサービスとタスクの設定先	149
	Exchange メールボックスアーカイブタスクのインストールの計画方法	154
	Exchange ジャーナルタスクのインストールの計画方法	154
	Exchange パブリックフォルダタスクのインストールを計画する方法	155
	Dominio ジャーナルタスクとメールボックスアーカイブタスクのインストールを計画する方法	155
	アーカイブ移動タスクのインストールの計画方法	155
	ストレージサービスのインストールを計画する方法	155
	インデックスサービスのインストールを計画する方法	156
	ショッピングサービスのインストールを計画する方法	157
	ファイルシステムアーカイブのインストールを計画する方法	158
	SharePoint アーカイブのインストールの計画方法	158
	SMTP アーカイブのインストールを計画する方法	158
	Accelerator サービスのインストールを計画する方法	159
	Enterprise Vault データベースとそのインストールの計画	159
	ボルトストアグループとボルトストアインストール計画	161
	管理コンソールのインストール	163
	クライアントコンポーネントのインストール計画	163
	Outlook Web App (OWA) のためのインストール計画および HTTP コンポーネント上の RPC	163
<b>第 15 章</b>	<b>アーカイブ戦略の計画</b>	164
	アーカイブ戦略について	165
	Enterprise Vault サイトのデフォルト設定先	165
	ユーザーに柔軟性を許容する方法	167
	アーカイブするアイテムの種類の計画方法	167
	ユーザーメールボックスに対するアーカイブポリシーの定義方法	167
	メールボックスの有効化の計画方法	169
	デスクトップの外観の制御を計画する方法	169
	ジャーナルメールボックスに対するアーカイブポリシーの計画方法	170
	Exchange パブリックフォルダのアーカイブ戦略の計画方法	170
	パブリックフォルダの有効化の計画方法	171
	FSA のアーカイブ戦略の計画方法	171



SharePoint アーカイブの戦略を計画する方法 .....	172
保持カテゴリの設定を計画する方法 .....	173
保持計画について .....	174
アーカイブ済みアイテムの自動削除の計画方法 .....	175
PST の移行を計画する方法 .....	175
NSF 移行を計画する方法 .....	176
共有アーカイブの計画方法 .....	177
ボルトストアおよびパーティションの計画方法 .....	177
セーフコピーの処理を計画する方法 .....	178
セーフコピーの場所を選択する方法 .....	178
単一インスタンスストレージの計画方法 .....	179
Enterprise Vault のレポートについて .....	180
Enterprise Vault Reporting の機能 .....	181

# 本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [このマニュアルについて](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

## このマニュアルについて

このマニュアルでは、Veritas Enterprise Vault のインストールとその計画について説明します。

このマニュアルは順番に読み進めていくように構成されています。マニュアルの前半では、さまざまな Enterprise Vault コンポーネントの機能とアーキテクチャについて説明します。ここでは、Enterprise Vault システムを計画し設定するときに必要となる情報を提供します。マニュアルの後半では、Enterprise Vault の設定に備えて決定しておく必要のある計画の決定事項について説明します。

Enterprise Vault を設定するには、次の製品の使用経験が必要です。

- Microsoft Windows Server
- Microsoft SQL Server
- Microsoft Message Queue Server
- Microsoft Outlook
- IIS (Internet Information Services)

Microsoft Exchange Server や Microsoft SharePoint Portal Server とともに Enterprise Vault を使う場合は、これらの製品についての実用的な知識も必要です。

# Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

表 1-1 に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li> <li>■ 管理コンソールの[ヘルプ]メニューで[Enterprise Vault のヘルプ]をクリックします。</li> </ul>
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。

マニュアル	コメント
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

# 概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault の概要](#)
- [Enterprise Vault の動作](#)
- [FIPS 140-2 コンプライアンス](#)

## Enterprise Vault の概要

Enterprise Vault は、集中管理されるアーカイブに、メッセージデータとファイルシステムデータを自動的に格納することを可能にするアプリケーションです。Enterprise Vault クライアントを使うと、ユーザーは選択したアイテムを必要に応じて簡単かつ迅速に取り込むことができます。

Enterprise Vault では、次の種類のデータをアーカイブできます。

- Microsoft Exchange ユーザーメールボックスのアイテム
- Microsoft Exchange ジャーナルメールボックスのアイテム
- Microsoft Exchange パブリックフォルダのアイテム
- Domino メールファイルのアイテム
- Domino ジャーナルデータベースのアイテム
- ネットワークファイルサーバーに保存されているファイル
- Microsoft SharePoint サーバーに保存されているアイテム
- インスタントメッセージと Bloomberg メッセージ
- 他のメッセージサーバーの SMTP メッセージ

Enterprise Vault によるアーカイブが可能なプラットフォームとオペレーティングシステムの詳細な一覧について、またアーカイブ済みアイテムのクライアントアクセスがサポートさ

れているオペレーティングシステムの詳細な一覧については、[Compatibility Charts](#) を参照してください。

## アーカイブの処理方法

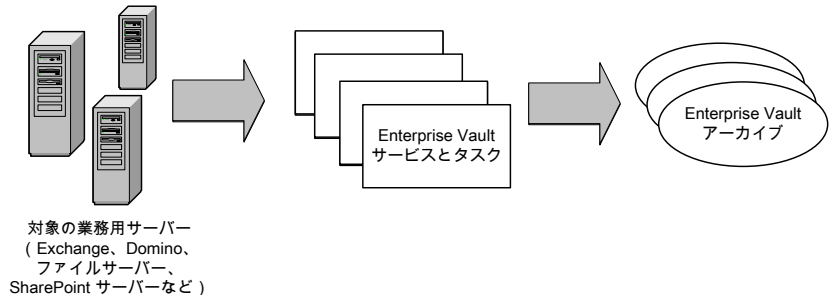
Enterprise Vault アーカイブ処理では、スケジュールされた日時になると、アーカイブするアイテムの対象サーバーがチェックされます。そして、該当するアイテムが Enterprise Vault のアーカイブに格納されます。

検索と取り込みが迅速に行えるように、Enterprise Vault によってアーカイブ済みアイテムのインデックスが作成されます。管理者は、必要なインデックスレベルを設定できます。

アイテムがアーカイブされると、そのアイテムには保持カテゴリが自動的に割り当てられます。これには保持期間が定義されています。管理者は、各種のデータに対してさまざまな保持カテゴリを定義できます。Enterprise Vault では、アーカイブを監視し、保持期間が終了したアイテムを削除できます。

図 2-1 に、Enterprise Vault のタスクとサービスがアーカイブにデータを格納する方法を示します。

図 2-1 Enterprise Vault のタスクとサービスがアーカイブにデータを格納する方法



元のアイテムは、アーカイブされたコピーへのショートカットに置き換えることができます。この結果、ユーザーのコンピュータとサーバー上の一次記憶域の空き領域を増加することができます。エンドユーザー側からすると、以前と同様にアイテムへのアクセスが可能です。

管理者は、さまざまな設定オプションを使って、アーカイブ処理をカスタマイズし制御できます。

設定オプションの一部を次に示します。

- アーカイブ実行の時期と頻度。
- アーカイブ対象。アーカイブ対象ファイルを定義するために使える属性には、ファイルの場所、ファイルが作成されてからの期間、ファイルの種類、サイズなどがあります。

- 特定のアーカイブ済みアイテムを格納する場所。
- 利用可能な保持カテゴリ。
- 必要なインデックスレベル。
- ショートカット作成の要、不要とショートカットの内容。
- アーカイブ済みアイテムに対してどのようなアクセスをユーザーに許可するか。

## PST ファイルと NSF ファイルの概要

多くの組織では、Exchange Server メールボックスの内容をバックアップするために PST ファイルを使っています。Enterprise Vault を使って Exchange Server メールボックスをアーカイブすると、これらの PST ファイルを使う必要がなくなります。古い情報をすべて確実にアーカイブするために、Enterprise Vault には、PST ファイルを Enterprise Vault のアーカイブにインポートするための PST 移行ツールが組み込まれています。

Enterprise Vault には、Domino ファイルと Notes NSF ファイルの内容をインポートする移行ツールも含まれます。

## アーカイブのメリット

自動アーカイブとアーカイブ管理には、次のような重要なメリットがあります。

- コンプライアンス規定や企業方針によって指定された期間中、メッセージとマニュアルを確実に保持します
- データを損失することなく、Exchange Server メールボックス、パブリックフォルダ、Domino メールファイルのサイズを簡単に制御できます
- プライマリディスク領域の使用量が減少します

## アーカイブ内のアイテムへのアクセス方法

従来のアーカイブアプリケーションの主なデメリットの 1 つは、記憶域からアイテムを検索して取り込むのに大きい負荷がかかる点です。Enterprise Vault では、アイテムのプロパティと内容のインデックスを作成することによって、アーカイブ済みアイテムの迅速な検索が可能になります。

Enterprise Vault は、アーカイブ済みアイテムの元の場所 (Exchange Server メールボックス、パブリックフォルダ、PST ファイル、Domino メールファイル、ファイルシステムフォルダ、SharePoint サーバー) にショートカットを作成するように設定できます。ショートカットによって、アイテムのテキストまたは HTML プレビューが表示されます。ユーザーがショートカットをダブルクリックすると、Enterprise Vault の設定に従って、関連付けされているアプリケーションを使って元のアイテムが表示されるか、またはショートカットの内容が表示されます。ユーザーは、アイテムをローカルコンピュータに保存するか、または Enterprise Vault クライアントのオプションを使って、与えられている権限に応じてアイテムを元の場所または指定した場所に復元できます。



SharePoint アーカイブを使って、SharePoint ドキュメントライブラリからソーシャルコンテンツアイテム以外のアイテムを復元できます。

ユーザーがアーカイブにアクセスしたり、アイテムを検索したり、アーカイブ済みアイテムを管理できるように、次の Enterprise Vault クライアント機能を利用できます。

- **Enterprise Vault Outlook** アドインと Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアントをユーザーのデスクトップにインストールすると、ユーザーはメールボックスアーカイブの検索やアーカイブ済みアイテムの管理を行うことができます。  
Enterprise Vault Outlook アドインは仮想ボルト機能を含んでいます。仮想ボルトを有効にすると、ユーザーは[Outlook ナビゲーションペイン]のアーカイブにアクセスできます。ユーザー側には、アーカイブはメールボックスまたは個人用フォルダと同じように表示されます。
- ユーザーはIMAP が有効になっているデバイスとアプリケーションから Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブにアクセスできます。
- OWA のEnterprise Vault コンポーネントは Exchange Server で設定することができ、OWA ユーザーはメールボックスとパブリックフォルダのアーカイブ済みのアイテムを管理できます。OWA ユーザーは、Enterprise Vault Outlook アドインをデスクトップコンピュータにインストールする必要はありません。  
Exchange Server メールボックスへの MAPI over HTTP および RPC over HTTP 接続は、Enterprise Vault でもサポートされています。RPC over HTTP ユーザーは、Enterprise Vault Outlook アドインをデスクトップコンピュータにインストールする必要があります。
- Notes クライアントと iNotes クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能。
- ユーザーが前述のメールクライアントまたは直接 Web ブラウザから起動でき、アーカイブを参照してアーカイブ済みのアイテムを検索できるさまざまなブラウザベースのコンポーネント。

Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアントを除くすべてのクライアント機能は、現在次の言語で利用可能です。

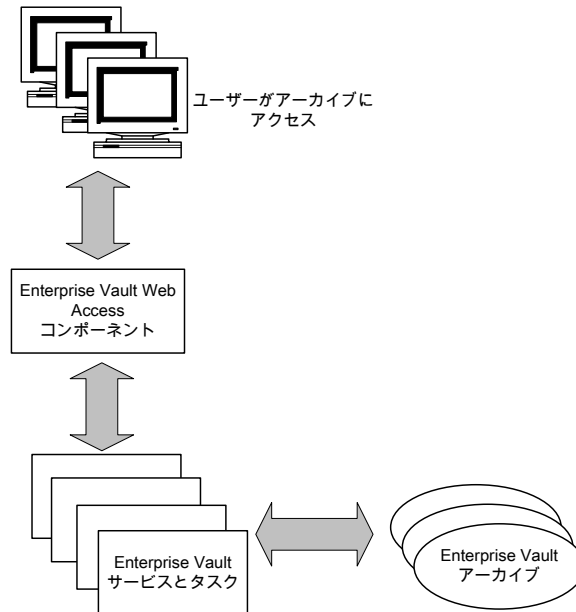
- |              |          |           |
|--------------|----------|-----------|
| ■ ブラジルポルトガル語 | ■ フランス語  | ■ 韓国語     |
| ■ 中国語 (簡体字)  | ■ ドイツ語   | ■ ポーランド語  |
| ■ 中国語 (繁体字)  | ■ ヘブライ語  | ■ ロシア語    |
| ■ デンマーク語     | ■ ハンガリー語 | ■ スペイン語   |
| ■ オランダ語      | ■ イタリア語  | ■ スウェーデン語 |
| ■ 英語         | ■ 日本語    |           |

Mac OS X 用の Enterprise Vault クライアントは、現在英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、日本語でのみ利用可能です。

アーカイブ済みアイテムのショートカットを開くなど、Enterprise Vault のクライアント機能がサポートされているオペレーティングシステムの一覧について詳しくは、「Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)」を参照してください。

図 2-2 は、ユーザーが Enterprise Vault クライアントを使って、Enterprise Vault のアーカイブにアクセスする際のプロセスの概要を示しています。

図 2-2 ユーザーが格納されているアイテムにアクセスする方法



たとえば、ユーザーがアーカイブに格納されているアイテムを検索する場合などです。要求は Enterprise Vault のタスクとサービスに渡され、これらによって検索が実行されてユーザーに検索結果の一覧が返されます。ユーザーがこのリンクをクリックすると、必要なアイテムが表示されます。この要求は、Enterprise Vault のタスクとサービスに再び渡され、システムで設定されている方法に従って、アイテムは HTML 形式または元の形式でユーザーに戻されます。

アイテムの検索と表示以外にも、ユーザーはアイテムを復元でき、許可されている場合はアーカイブからアイテムを削除できます。

管理者は、ユーザーに許可する機能を制御できます。

## 分類について

堅固な情報ガバナンス計画の基本的な要素である分類によって、情報を分析し、何を保持して何を削除すべきか情報に基づいて決定できます。Enterprise Vault の分類機能を通じて、次の内容を実行できます。

- すべてのアーカイブ済み内容を自動的に分類する
- 一意の保持を個別のアイテムに割り当てる
- 迅速に検索、発見、監督レビューを行うためにアイテムにタグ付けする
- 変更される保持要件に合わせるために、アーカイブ全体または個々のアーカイブ済みアイテムを再分類する

Enterprise Vault のこのリリースでは、コンテンツ分類エンジンを 2 つの分類エンジンから選択できます。

- **Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI)**。FCI は、最近の Windows Server エディションに組み込まれ、FSRM (File Server Resource Manager) インターフェースを通じて制御する分類フレームワークです。

アイテムが特定の分類値を適用されるために一致する必要がある基準を定義するには、FSRM を使用してルールを作成します。Enterprise Vault には分類ルール例のセットが用意されています。このセットを FSRM にインポートしてカスタマイズすることで、独自のルールセットを簡単に作成できます。

この機能について詳しくは、Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類に関するガイドを参照してください。

- **Veritas 情報分類子**。このリリースでは、すべての新しいコンテンツと既存のアーカイブ済み内容のための次世代の Veritas 情報分類子エンジンを実装しています。この新しいエンジンは、高度な近接検索、正規表現、デフォルトキーワードやパターン、チェックサム検証を通じて、多面的な分類を実行できます。信頼度やヒット率によって内容を分類することもできます。

Veritas 情報分類子には、50 を超える組み込み分類ポリシーが含まれており、世界の多くのデータ保護規制や企業の基準に対応しています。たとえば、個人識別情報 (PII) を検出するポリシーを通じて GDPR などのプライバシー規制に対応できます。また、カスタムポリシーも作成できます。

この機能について詳しくは、『Veritas 情報分類子を使用した分類』マニュアルを参照してください。

FCI 分類に加えて、またはこれの代わりに Veritas 情報分類子を使用できます。ただし、Veritas 情報分類子の分類オプションは、FCI 分類よりも洗練されているだけでなく簡単に実装できます。そのため、アーカイブコンテンツの分類には Veritas 情報分類子を使用することを推奨します。

## 実装する分類オプションの選択

管理コンソールと PowerShell cmdlet の両方で利用できる機能を通じて、Enterprise Vault サイトで実装する分類オプションを選択できます。これらのオプションを使用すると次の内容を実行できます。

- 分類用のアイテムを送信し、この Enterprise Vault がインデックス作成とアーカイブを行うと同時に結果をタグ付けします。これは、アーカイブボリュームまたはインデックスボリュームのインデックスの再構築を実行する場合も行われます。これによって、Enterprise Vault は関連付けられたアイテムを再分類することになります。
- ユーザーがアイテムを手動で削除した場合、Enterprise Vault によってアイテムが自動的に期限切れになった場合、または任意で Enterprise Vault によってアイテムのインデックス作成とアーカイブが行われた場合に、これらのアイテムの保持カテゴリを更新します。

選択した分類オプションは、保持計画を通じて 1 つ以上のアーカイブに適用されます。

## レコード管理について

Enterprise Vault のレコード管理機能を使うと、選択したアイテムをレコードとしてマーク付けしたり、これらのレコードを検索したり、他の場所への転送用にエクスポートしたりできます。この機能によって、米国国立公文書記録管理局が推奨する電子メール管理方法である Capstone の必要条件を満たすことができます。ただし、この機能は非常に柔軟で、他の記録管理システムの要件も満たせます。

デフォルトでは、Enterprise Vault はアーカイブするアイテムをレコードとしてマーク付けしません。ただし、Enterprise Vault がアーカイブ済みアイテムに割り当てる保持カテゴリを設定することで、この動作を変更することができます。Enterprise Vault がアイテムに保持カテゴリを割り当てると同時に、このアイテムを一部の種類のレコードとしてマーク付けするように各保持カテゴリを設定することができます。(Capstone では、「永続」または「一時」です。)さまざまな一連の保持カテゴリをアイテムに割り当てることにより、各アイテムを適切な種類のレコードまたは非レコードとしてマーク付けすることができます。

Enterprise Vault には、必要な保持カテゴリをアイテムに割り当てることによってアイテムをレコードとしてマーク付けするいくつかの異なる方法が用意されています。たとえば、次の操作を実行できます。

- 1 つ以上の保持計画を作成し、それぞれを異なる保持カテゴリに関連付けます。次に、必要な保持計画を選択したユーザーのメールボックスに適用するためのプロビジョニンググループを複数設定します。
- Enterprise Vault Policy Manager (EVPN) などの機能を使って、ユーザーメールボックスのフォルダごとに異なる保持カテゴリを割り当てます。その後、ユーザーは特定のメールボックスフォルダ内のアイテムをドラッグして別のフォルダにドロップすることで、これらのアイテムをレコードとしてマーク付けすることができます。

- Enterprise Vault 分類機能を使うと、特定の基準と一致するアイテムに適切な保持カテゴリを割り当てることができます。

Enterprise Vault Search の機能により、レコードとしてマーク付けされたアイテムのアーカイブを簡単に検索できます。レコードを米国国立公文書館やその他の場所で長期間保持するために転送する場合、さまざまな PowerShell cmdlet を実行することによってアーカイブからエクスポートできます。

レコードの管理機能について詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。

## Compliance Accelerator と Discovery Accelerator

Enterprise Vault には、法的開示などのためのコンプライアンス監視やデータマイニングに使うアプリケーションもあります。

SEC、NYSE、NASD などの規制機関が定める法によって、金融機関や法的機関が保持する必要がある電子文書や電子データの量は増大しています。金融サービス業以外では、米国企業改革法 (Sarbanes-Oxley Act of 2002) によって、監査用に企業がデータを保持する必要がある期間が延長されています。これらの機関は、Enterprise Vault を使って関連データのキャプチャ、格納、取り込みを行うことができます。Enterprise Vault Accelerator 製品である Compliance Accelerator と Discovery Accelerator は、Enterprise Vault を使ってアーカイブされたデータのキャプチャ、検索、レビューを行うための特別な Web ツールを提供しています。

Compliance Accelerator は、業界規制や会社方針を確実に順守するために従業員のメッセージを監視するためのキャプチャとレビューシステムを提供しています。ジャーナルされた送受信メッセージの無作為なサンプルを毎日キャプチャし、Compliance Accelerator クライアントを使ってコンプライアンス担当者がレビューできます。さらに、コンプライアンス管理者は、特定の基準 (不適切な語句を含むメッセージなど) に合致するメッセージを見つけるために、定期検索を実行できます。

Discovery Accelerator は、訴訟ケースに関連するアーカイブ済みアイテムを見つけるために企業規模で検索を実行できるように、特別に設計されています。Discovery Accelerator クライアントを使って、ケース管理者は関連データの検索を実行できます。その後ケースレビューアは、検索によって戻されたアイテムをレビューし、証拠提示として適切な形式で必要なアイテムを生成できます。

## Enterprise Vault アドオンについて

アーカイブされたデータの収集と移行を管理するため、Enterprise Vault に統合されるストレージ管理アプリケーションの数がさらに多くなりました。これらの統合の詳細と、Enterprise Vault と合わせて各製品を使うための設定方法については、「Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Extension は、Enterprise Vault 管理コンソールで表示および管理される、Enterprise Vault の機能を拡張するパートナーソリューションです。拡張コンテンツプロバイダは、Unix ファイルシステム、テキストメッセージ、ソーシャルメディアコンテンツ、

Web ページなどの追加コンテンツをアーカイブする拡張機能です。拡張機能は、Veritas Technology Ecosystem (VTE) プログラムの認定パートナーから提供されます。

<https://www.veritas.com/vte>

## EnCase Ingest Connector の概要

EnCase® Ingest Connector は、犯跡証拠ファイルからアーカイブにファイルを取り込んで Discovery Accelerator による検索を可能にしたり、これらのファイルを指定したディスク上の場所にファイルを取り込んだりするユーティリティです。

EnCase Ingest Connector は論理的な証拠ファイル、EnCase イメージ、データ定義 (DD) イメージからファイルを取り込みます。EnCase Ingest Connector を使うと、個々のファイルをコピーしたり、メタデータ (ファイル名、ファイル名の拡張子、前回の作成日、修正日、アクセス日など) に基づいてファイルのセットを選択したりできます。

このソフトウェアのインストールと設定方法に関する完全なマニュアルは、ソフトウェアに付属しています。

# Enterprise Vault の動作

このセクションでは、Enterprise Vault コンポーネントを紹介し、基本的なアーカイブ処理と取り込み処理の概要を説明します。Enterprise Vault では、インストール時にさまざまなコンポーネントを選択し、パッケージに含めることができます。

Enterprise Vault のコアコンポーネントには、次のものがあります。

- 主要な機能であるアーカイブ、インデックス作成、格納、復元を実行するためのサービスとタスクで構成される Enterprise Vault サーバーコンポーネント。
- サービス、タスク、インデックス、アーカイブを設定して管理するための Enterprise Vault 管理コンソール。
- ユーザーがアーカイブ内のアイテムにアクセスできるようにするための Active Server Page (ASP) Web アクセスコンポーネント。

Exchange Server アーカイブには、次の追加コンポーネントが提供されています。

- ユーザーが Outlook クライアント内からアーカイブ済みアイテムにアクセスするための Enterprise Vault Outlook アドイン。
- Outlook for Mac 2011 または 2016 ユーザーがアーカイブ済みアイテムにアクセスするための Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアント。
- ユーザーが OWA 2010 クライアント内からアーカイブ済みアイテムにアクセスするための Outlook Web App (OWA 2010) 拡張機能。
- ユーザーがこれらのクライアントからアーカイブ済みのアイテムにアクセスするための OWA 2013 以降および Outlook 2013 以降の Office Mail App。

Domino サーバーアーカイブには、次の追加コンポーネントが提供されています。

- Notes クライアントと DWA クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能。

ファイルシステムアーカイブ、SharePoint アーカイブ、SMTP メッセージアーカイブには、次の追加コンポーネントが提供されています。

- プレースホルダショートカットの作成や FSA レポート用に Windows ファイルサーバーで FSA サービスを提供する FSA エージェント。
- SharePoint サーバー上の文書のアーカイブと復元を行うための Microsoft SharePoint コンポーネント。オプションの Enterprise Vault Web パーツによって、SharePoint ユーザー用のアーカイブ検索機能が提供されます。
- 他社の SMTP メッセージサーバーからメッセージを処理するための SMTP Archiving Components

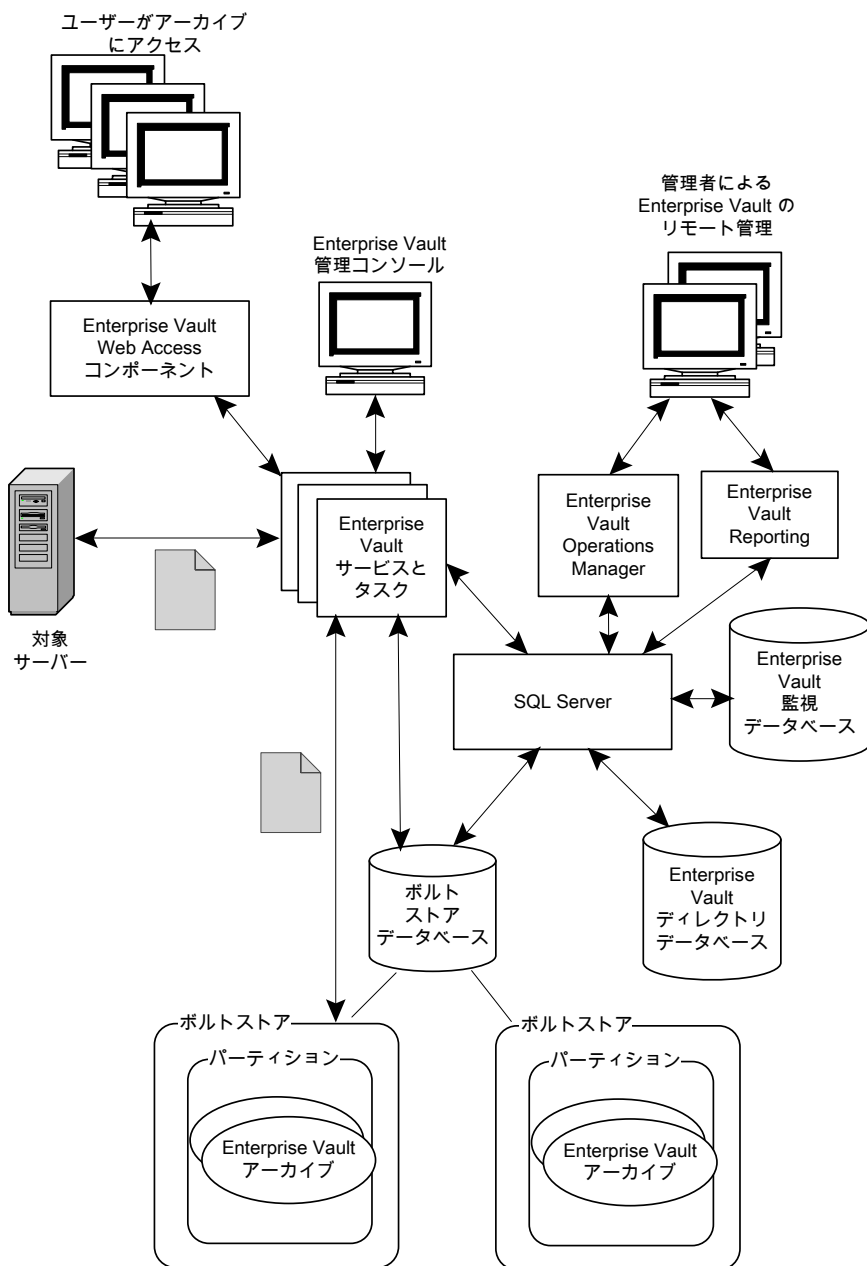
次のオプションのコンポーネントを使うと、管理とレポートの拡張機能が提供されます。

- Enterprise Vault Operations Manager は、Internet Explorer がインストールされている任意のコンピュータから Enterprise Vault の状態をリモート監視できる Web アプリケーションです。
- Enterprise Vault Reporting。Microsoft SQL Server Reporting Services を使ったエンタープライズレベルのレポート。

Enterprise Vault サーバーをインストール、設定した後は、Windows のサービスとタスク、Microsoft SQL Server データベース、Active Server Page (ASP) Web アクセスコンポーネントの組み合わせを構成します。サービス、タスク、アーカイブは、Enterprise Vault 管理コンソールを使って設定されます。これは、MMC (Microsoft Management Console) のスナップインです。

図 2-3 は、インストールされた Enterprise Vault システムの主要なコンポーネントを示しています。図中の対象サーバーは、アイテムのアーカイブ元のサーバーです。この図では、単一インスタンスストレージに含まれているコンポーネントは省略されています。これらのコンポーネントについては、別途説明します。

図 2-3 Enterprise Vault システムのインストール例





Windows のサービスとタスクは、アーカイブ対象アイテムを保持する対象サーバーのスキャン、アーカイブへのアイテムの格納、アイテム属性と内容のインデックス作成、アーカイブからのアイテムの取り込みなどのバックグラウンドタスクを実行します。

Enterprise Vault ディレクトリデータベースとボルトストアデータベースは、Enterprise Vault 設定データとアーカイブについての情報を保存する SQL データベースです。

Enterprise Vault 監視データベースは、Enterprise Vault Operations Manager と Enterprise Vault Reporting コンポーネントで使うための監視データを保存する SQL データベースです。各 Enterprise Vault サーバーの監視エージェントは、Enterprise Vault サービスとアーカイブタスクの状態と、ボルトストア、ディスク、メモリ、CPU のパフォーマンスカウンタの値を監視します。エージェントは数分ごとにデータを収集し、Enterprise Vault 監視データベースにそのデータを記録します。

初めて FSA レポート用に対象のファイルサーバーを設定するとき、Enterprise Vault は FSA Reporting 用データベースを作成します (図には表示されていません)。FSA Reporting 用データベースは、FSA Reporting がファイルサーバーから収集するスキャンデータを保持します。FSA レポートに別の対象ファイルサーバーを設定するとき、ファイルサーバーを既存の FSA レポート用データベースに割り当てるか、または別のデータベースを作成できます。多数のファイルサーバーについて FSA Reporting のデータを入力する場合、複数の FSA Reporting 用データベースで拡張性を高めることができます。

Active Server Page Web アクセスコンポーネントは、インターネットインフォメーションサービス (IIS) サーバー上で実行されます。これによりユーザーは、Enterprise Vault Web クライアントインターフェースを使って、アーカイブ済みアイテムを参照、検索、復元できます。

コンポーネントの物理的な構成は、サイトの必要条件によって異なります。Enterprise Vault の各種のサービスとタスクは、1 台のコンピュータに常駐させることも、または複数のコンピュータに分散させて常駐させることもできます。たとえば、パイロットシステムではほとんどの場合、Enterprise Vault サービス、SQL Server、IIS サーバー、アーカイブ対象サーバーをすべて 1 台のコンピュータに常駐させることができます。

優先的なストレージ (SAN、NAS、NTFS、WORM など) にアーカイブ自体を常駐させることができます。また Enterprise Vault ストレージストリーマ API をサポートするある特定のストレージデバイスを使うこともできます。古いアーカイブを、より安価なメディアに移動して長期間保存できます。Enterprise Vault を使用すると、ボルトストアパーティションから、Amazon Simple Storage Service、Microsoft Azure Blob Storage、Google Cloud Storage などのクラウドのセカンダリストレージの場所にファイルを移行できます。

Hierarchical Storage Management (HSM) の使用もサポートされています。

サポートされるソフトウェアとストレージデバイスについて詳しくは、「Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)」を参照してください。

Enterprise Vault は、「ボルトストア」というエンティティにアーカイブを構成します。次のように、各ボルトストアに多数のアーカイブを保持できます。

- ボルトストアがメールボックスからのアーカイブに使われる場合は、必要に応じてアーカイブを作成でき、**Enterprise Vault** がメールボックスを有効にしたときに自動的にアーカイブを作成できます。これにより、**Enterprise Vault** がアーカイブデータを格納する場所を制御できます。
- ボルトストアがパブリックフォルダからのアーカイブに対して作成されている場合、**Enterprise Vault** はアーカイブするパブリックフォルダごとに 1 つのアーカイブを自動的に作成します。

1 つのボルトストアを多数の「パーティション」に分割し、異なるディスクまたはメディア上に配置できます。ボルトストアが大きくなった場合、パーティションを追加して利用可能な領域を拡張できます。

**Enterprise Vault** の分類機能を使うと、分類機能によるアイテムのタグ付け方法に応じて、各種のアイテムをさまざまなパーティションにアーカイブできます。たとえば、個人識別情報 (PII) を含んでいるアイテムを検出してタグを付けるように分類エンジンを設定した場合は、これらのアイテムを 1 つのパーティションにアーカイブするように選択できます。入札やビジネスの提案など、他の種類のアイテムを別のパーティションにアーカイブできます。これらの分類関連のパーティションは、スマートパーティションと呼ばれます。このパーティションは、以下の点を除き、標準のボルトストアパーティションと同じです。

- **Vault** 管理コンソールを使用すると、選択した分類エンジン (Veritas Information Classifier または Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ) で定義した 1 つ以上の分類タグとスマートパーティションを関連付けることができます。選択したタグを分類エンジンが割り当てたアイテムのみが、スマートパーティションにアーカイブされます。
- 複数のスマートパーティションをアーカイブ用に同時に開くことができます。これは、標準のボルトストアパーティションには当てはまりません。標準のボルトストアパーティションでは、各ボルトストアで開くことができるパーティションは 1 つに限られます。
- 特定の基準が満たされると、**Enterprise Vault** が次の使用可能なパーティションに自動的にロールオーバーするように、標準のボルトストアパーティションを設定できます。このロールオーバー機能は、スマートパーティションでは利用できません。

NTFS ボリュームでは、**Enterprise Vault** は NTFS ファイルセキュリティを自動的に使います。**Enterprise Vault** の一部の要素 (インデックスなど) は FAT ボリュームで設定されますが、FAT ボリューム上ではファイルセキュリティは設定されません。

## 単一インスタンスストレージについて

**Enterprise Vault** の最適化された単一インスタンスストレージを使うと、アーカイブ済みアイテムに必要なストレージ領域を大幅に削減できます。ただし、**Enterprise Vault** サーバーとパーティションをホストするストレージデバイスとの間のネットワークトラフィックが増加する場合があります。

**Enterprise Vault** の単一インスタンスストレージは、次の原則で機能します。

- ボルトストアはボルトストアグループ内でグループ化されます。ボルトストアグループは、単一インスタンスストレージの共有の外部境界を形成します。
- 各ボルトストアには共有レベルが割り当てられます。レベルは、[グループ内で共有する]、[ボルトストア内で共有する]、または[共有しない]です。
- ターゲットのボルトストアの共有レベルが[ボルトストア内で共有する]または[グループ内で共有する]の場合、Enterprise Vault は単一インスタンスストレージを使用してアイテムをアーカイブします。
- ボルトストアの共有レベルによって、ボルトストアの共有境界が次のように決定されます。
  - ボルトストアの共有レベルが[グループ内で共有する]の場合、その共有境界には、この共有レベルが設定されたグループ内のすべてのボルトストアが含まれます。
  - ボルトストアの共有レベルが[ボルトストア内で共有する]の場合、その共有境界にはそのボルトストアのみが含まれます。
  - ボルトストアの共有レベルが[共有しない]の場合、そのボルトストアには共有境界がありません。Enterprise Vault は、このボルトストアに対して単一インスタンスストレージを実行しません。
- Enterprise Vault は、サイズの大きなメッセージ添付ファイルなど、共有に適したアイテムのパーツを識別します。これらのパーツは SIS パーツと呼ばれます。Enterprise Vault は、SIS パーツの最小サイズのしきい値を使用して、想定されるストレージ節約量と、SIS パーツの作成、アーカイブ、取り込みに必要なリソースとのバランスをとります。
- Enterprise Vault は、各 SIS パーツを、ターゲットのボルトストアの共有境界内に 1 回のみ格納します。各 SIS パーツについて、Enterprise Vault はボルトストアグループのフィンガープリントデータベースにアクセスして、フィンガープリントが同じ SIS パーツがボルトストアの共有境界内にすでに格納されているかどうかを判断します。フィンガープリントが同じ SIS パーツは、同一の SIS パーツです。
  - 同一の SIS パーツが共有境界内にすでに格納されていない場合、Enterprise Vault はその SIS パーツを格納し、その SIS パーツのフィンガープリント情報をフィンガープリントデータベースに保存します。
  - 同一の SIS パーツが共有境界内にすでに格納されている場合、Enterprise Vault は格納済みの SIS パーツを参照します。SIS パーツを再度格納することはありません。
- Enterprise Vault はアイテムの残りの部分 (アイテムから SIS パーツをマイナスした部分) を未処理の保存セットファイルとして格納します。未処理の保存セットファイルは、アイテムに関する Enterprise Vault メタデータおよびそれに関する一意の情報 (ドキュメントまたは添付ファイルの場合はファイル名、メッセージの場合は追跡のためのフラグなど) を保持します。

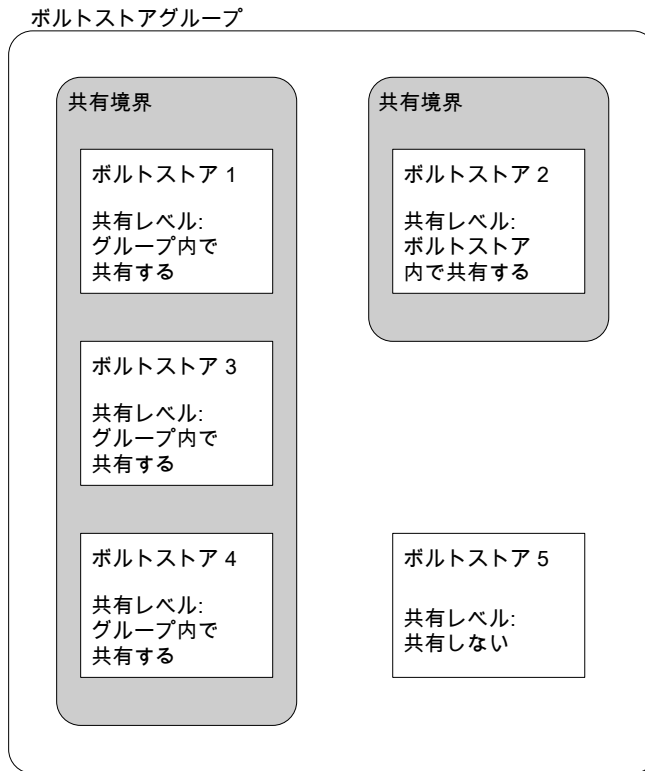
- Enterprise Vault は、アーカイブ済みアイテムのリストア要求を受け取ると、そのアイテムの未処理の保存セットファイルおよび SIS パーツファイルから、そのアイテムを再構成します。

図 2-4 に、次の 5 つのボルトストアを含むボルトストアグループの例を示します。

- ボルトストア 1、3、4 にはすべて、共有レベルとして[グループ内で共有する]が設定されています。これらのボルトストアは、同じ共有境界内にあります。Enterprise Vault は、これら 3 つのボルトストアにアーカイブするアイテム用に、これらのボルトストア全体で SIS パーツを共有します。
- ボルトストア 2 の共有レベルは[ボルトストア内で共有する]であるため、独自の共有境界を持ちます。Enterprise Vault は、このボルトストアにアーカイブするアイテム用に、このボルトストア内で SIS パーツを共有します。
- ボルトストア 5 の共有レベルは[共有しない]です。このボルトストアは、どの共有境界にも含まれません。Enterprise Vault はこのボルトストアにアーカイブするアイテムに対して Enterprise Vault の単一インスタンスストレージを実行しません。

各ボルトストアには、複数のボルトストアを含む共有境界を 1 つのみ含めることができます。

図 2-4 ボルトストアグループの共有境界



単一インスタンスストレージは、複数の方法でストレージ領域を節約できます。

- ジャーナルとメールボックスのアーカイブに個別のボルトストアを使う場合、**Enterprise Vault** はボルトストア間で SIS パーツを共有できます (それらが同じ共有境界内にある場合)。
- 大きなサイズの同じファイルが添付された多数のメッセージを複数の受信者に個別に送信する場合、**Enterprise Vault** は、添付ファイルを 1 回のみ共有境界内に格納します。
- **Enterprise Vault** は SIS パーツを、ファイル名からではなく、内容から識別します。2 つのメッセージの両方に大きなサイズの同じファイルが添付されている場合、それらのファイル名が異なっても、**Enterprise Vault** は添付ファイルを共有できます。
- **Enterprise Vault** は、ファイルサーバーにファイルとしても格納される **Exchange** メッセージの添付ファイルなど、種類が異なるアーカイブから発生する同一の SIS パーツを共有できます。

次の点に注意してください。

- **Dell EMC Centera デバイス上のパーティション。**アイテムが、Dell EMC Centera デバイス上でホストされているパーティションに格納されている場合、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージは実行されません。Enterprise Vault には、Centera デバイスの共有機能を利用するために、個別のデバイスレベル共有オプションが用意されています。
- **スマートパーティション。**Enterprise Vault は、同じスマートパーティション内のアイテム間で SIS パーツを共有しますが、スマートパーティションとその他のパーティション間では SIS パーツを共有しません。  
たとえば、2 人の従業員が、添付ファイルを含む同じ電子メールを受信するとします。コンプライアンス上の理由から、Enterprise Vault では 1 人の従業員の電子メールがスマートパーティションにアーカイブされ、もう 1 人の従業員の電子メールが標準のボルトストアパーティションにアーカイブされます。電子メールとその添付ファイルが最初に標準パーティションにアーカイブされると、その後電子メールがスマートパーティションにアーカイブされるとき、通常添付ファイルは再度アーカイブされません。これは、スマートパーティション上のデータが完全には適合しなくなることを意味します。ただし、この場合 Enterprise Vault では電子メールと添付ファイルの両方が再度アーカイブされます。

## Enterprise Vault のインデックスについて

アーカイブ済みのデータを速く効率的に検索できるようにするために、Enterprise Vault はアイテムをアーカイブすると同時にインデックス付けします。インデックスはアーカイブごとに作成されます。アイテムがアーカイブに追加されるか、またはアーカイブから削除されると、関連付けられたインデックス文書がインデックスに追加されるか、またはインデックスから削除されます。ユーザーがアーカイブ内でアイテムの検索を実行するときに、Enterprise Vault は実際のアーカイブではなくインデックスを検索します。

Enterprise Vault では、必要なインデックス付けレベルを設定できます。必要であれば、ユーザーの異なるグループに対して異なるレベルを設定できます。インデックスのレベルには簡略と完全の 2 種類があります。

- **簡略インデックス。**このレベルでは、ユーザーは作成者、件名、受信者、作成日、ファイル拡張子、保持カテゴリなどのアーカイブ済みアイテムの属性に基づいて検索することができます。簡略インデックスでは、アイテムの内容はインデックス付けされません。
- **完全インデックス。**このレベルでは、簡略インデックスの機能に加え、内容の検索ができます。

インデックスが作成される情報が多いほど、インデックスを格納するために必要なディスク領域が増加します。表 2-1 に、インデックスの概算サイズを、インデックスレベルごとのアーカイブされていないアイテムのサイズに対する割合で示します。

表 2-1 インデックスデータの概算サイズ

インデックスレベル	インデックスの概算サイズ
簡略	4%
完全	12%

Enterprise Vault 10.0 では新しく 64 ビットの検索エンジンが導入されました。64 ビットインデックスは Enterprise Vault 10.0 以降のリリースを使ってインデックス付けされるアイテムのために作成されます。Enterprise Vault の以前のリリースを使って作成されたインデックスは 32 ビットインデックスでした。検索が 32 ビットインデックスと 64 ビットインデックスの両方を含むアーカイブで実行されると、Enterprise Vault は 32 ビットインデックスと 64 ビットインデックスに対して自動的に検索します。Enterprise Vault 管理コンソールには、必要に応じて 32 ビットインデックスを 64 ビットインデックスにアップグレードするための更新ツールが提供されています。このツールについて詳しくは、『管理者ガイド』の『インデックスの管理』を参照してください。

Enterprise Vault インデックスサービスはインデックスを作成、更新、検索するための各種タスクを管理します。これは、ストレージサービスと密接に相互運用して、アイテムが格納されたとき、または後になってから、アイテムをインデックス付けし、ストレージサービスが取り込むためのアイテムを検索します。ストレージサービスは、必要であればアイテムを HTML またはテキストに変換し、この変換された内容がアイテムのインデックス付けに使われます。Enterprise Vault ではテキストまたは HTML 形式に変換できないアイテムの内容のインデックスは作成しないため、このようなアイテムの内容を検索することはできません。たとえば、一部の種類のバイナリファイルでは内容を変換したり、検索したりできません。ただし Enterprise Vault では、変換できないアイテムの属性のインデックスは作成されるため、アーカイブ内でアイテムを検索できます。

すべての Enterprise Vault サーバーにインデックスサービスをインストールする必要はありません。たとえば、Enterprise Vault の大規模な配備では、インデックスおよびストレージサービスをより強力なコンピュータに配置して、検索と取得のパフォーマンスを最適化することができます。関連付けられたストレージおよびインデックスサービスは別のコンピュータに配置することができます。良好なパフォーマンスを維持するには、コンピュータ間の接続が高速である必要があります。

インデックス付けを実行する Enterprise Vault サーバーをインデックスサーバーグループにグループ化して、拡張性と負荷分散を提供できます。

p.34 の「[インデックスサーバーグループについて](#)」を参照してください。

## インデックスボリュームについて

アーカイブのインデックスは、1 つ以上の順次インデックスボリュームで構成されます。各インデックスボリュームには、アーカイブに格納されているアイテムのインデックス文書が格納されます。

一般的に、ユーザーメールボックスインデックスには、1 つまたは 2 つのボリュームのみが必要です。それより大きいアーカイブ (ファイルシステムアーカイブ、ジャーナルアーカイブなど) のインデックスは、複数のボリュームで構成されることがよくあります。

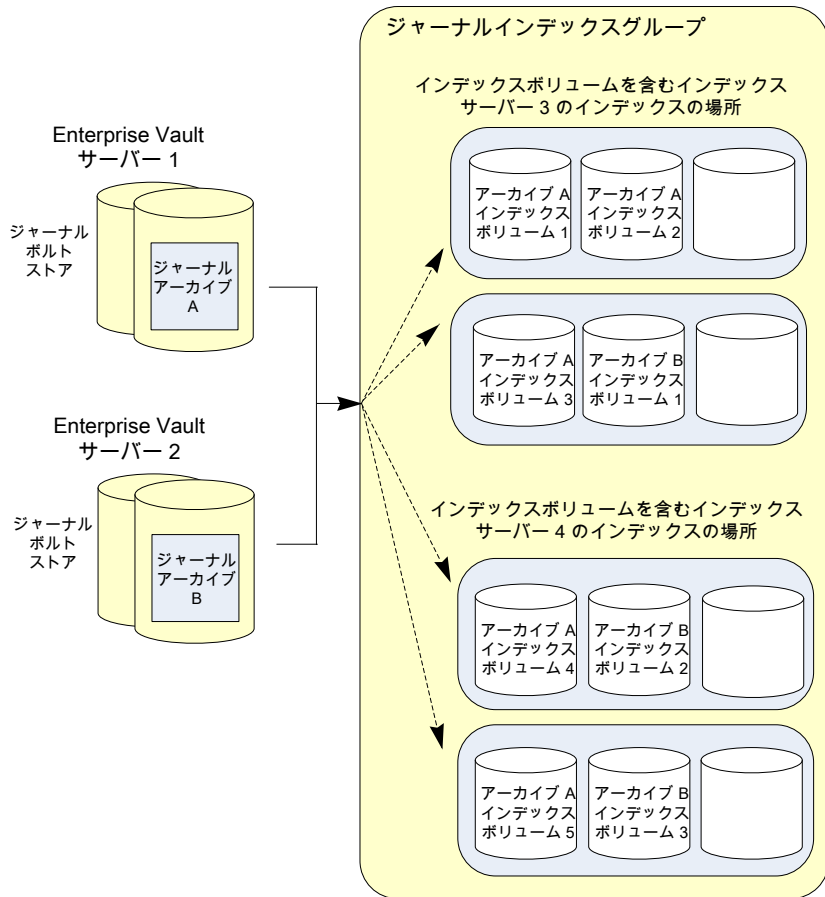
インデックスボリュームがいっぱいになると、インデックスサーバーが自動的に新規インデックスボリュームを作成します。新規インデックスボリューム用に選択される場所は、ボルトストアが単一のインデックスサーバーとインデックスサーバーグループのどちらによって管理されているかに応じて異なります。ボルトストアがインデックスサーバーグループによってインデックス付けされる場合は、[図 2-5](#)に示されているように、アーカイブのインデックスボリュームが複数のインデックスサーバーと場所に分散される可能性があります。一般的に、メールボックスのインデックスがロールオーバーされるときには、可能な限り既存のインデックスサーバーが使われます。インデックスの場所はラウンドロビンアルゴリズムを使って選択され、すべての場所の負荷のバランスがとられます。アーカイブが大きい場合は (ジャーナルアーカイブなど)、新規ボリュームがインデックスサーバーとインデックスの場所に均等に分散されます。

Enterprise Vault 管理コンソールには、インデックスボリュームを管理するためのツールが用意されています。

p.33 の「[インデックスとインデックスボリュームの管理について](#)」を参照してください。



図 2-5 インデックスサーバーグループのインデックスボリュームの分散



## インデックスとインデックスボリュームの管理について

Enterprise Vault 管理コンソールを使って、インデックスサーバー、インデックスサーバーグループ、インデックスの場所を管理します。管理コンソールには、インデックスとインデックスボリュームを管理するためのさまざまなツールが用意されています。インデックスツールを使って次のようなタスクを実行できます。

- アーカイブに関連付けられているインデックスボリュームを参照、管理する。
- インデックスの整合性を検証し、インデックスされていない、またはインデックスから削除されていないアーカイブ済みアイテムをレポートする。
- インデックスが最新であることを確認するためにインデックスを同期する。

- インデックスを最初から再構築する。
- インデックスボリュームの場所を変更する。
- アーカイブインデックスを 32 ビットから 64 ビットインデックスにアップグレードする。
- さまざまなインデックスタスクを監視、管理する。

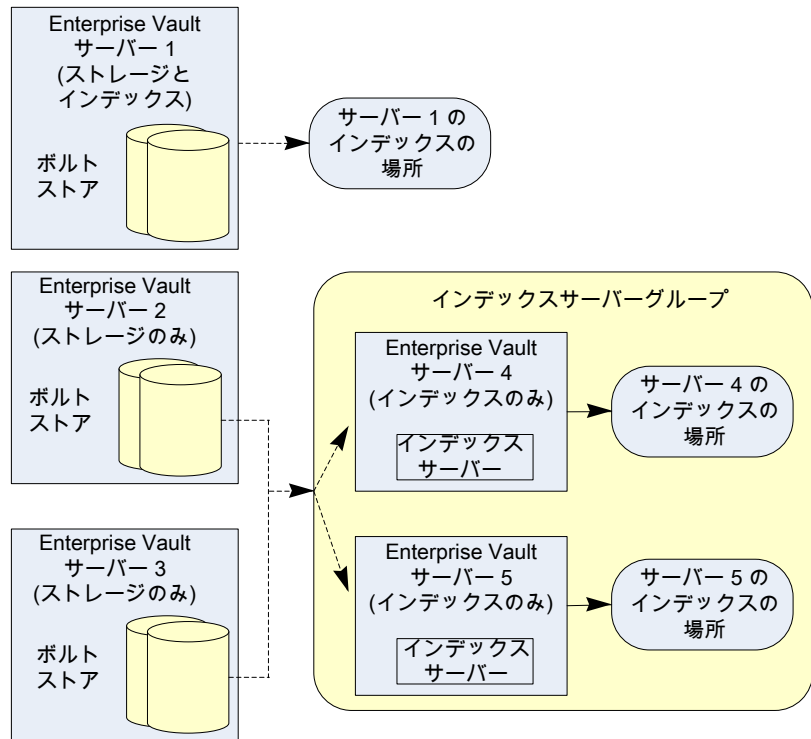
追加の管理機能が PowerShell cmdlet によって提供されます。たとえば、PowerShell cmdlet を使用して、インデックスの場所に割り当てられるインデックスサーバーを一覧表示したり、ボルトストアまたはインデックス場所のバックアップモードを管理することができます。

これらのツールについて詳しくは、『管理者ガイド』の『インデックスの管理』を参照してください。

## インデックスサーバーグループについて

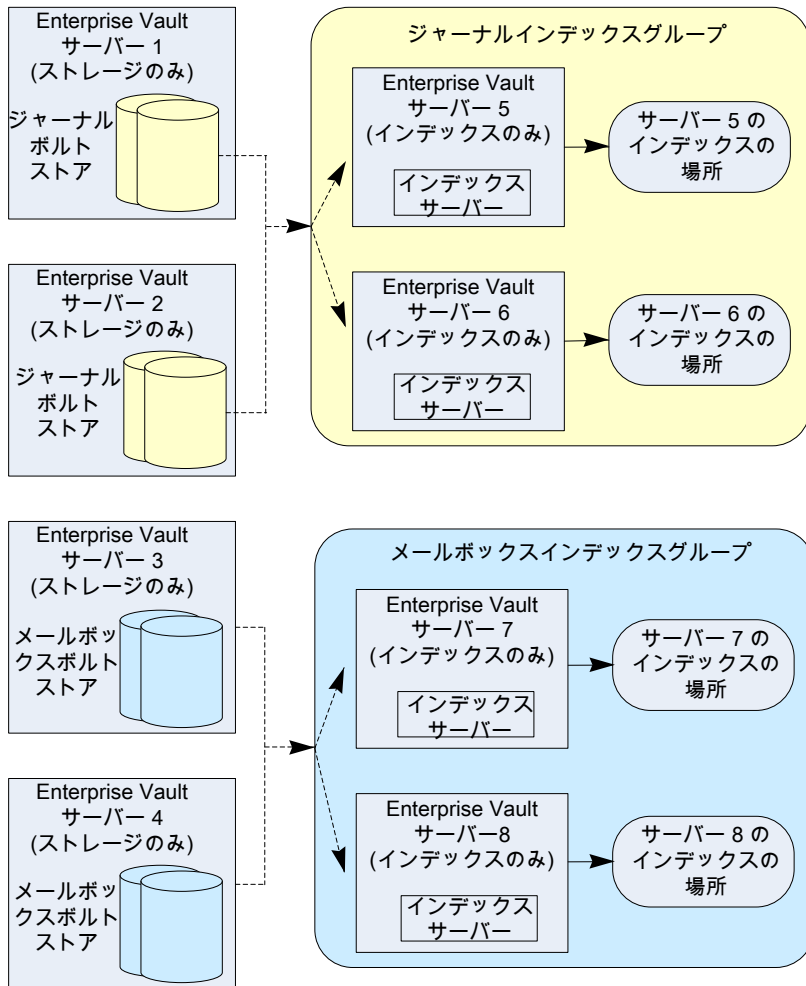
インデックスサーバーは Enterprise Vault インデックスサービスがインストールされた Enterprise Vault サーバーです。インデックスサーバーは、インデックスサーバーグループに追加したり、グループ化を解除したりすることができます。図 2-6 でインデックスサーバーグループは Enterprise Vault サーバー 4 と 5 を含みます。インデックスサーバーをグループ解除できるのは、サーバーにインデックスサービスとストレージサービスの両方がインストールされている場合のみです。

図 2-6 グループ化されていないインデックスサーバー



インデックスサーバーグループは、Enterprise Vault の大規模環境または分散環境に負荷分散されたインデックスサービスを提供します。分散環境では、Enterprise Vault サーバーがストレージサービスをホストすることもあれば、インデックスサービスをホストすることもあります。この環境の例は 図 2-7 で示されています。

図 2-7 分散型の環境のインデックスサーバーグループ



アーカイブをインデックス付けする場合、アーカイブの属するボルトストアは、インデックスサーバーかインデックスサーバーグループに関連付ける必要があります。インデックスサーバーはインデックスの場所にインデックスを作成し、各インデックスサーバーには 1 つまたは複数のインデックスの場所が割り当てられています。グループ内のインデックスサーバーは、グループに割り当てられたボルトストア内のアーカイブに格納されるアイテムのインデックス付けのタスクを共有します。

次のタスクを実行するために Enterprise Vault の管理コンソールを使います。

- インデックスサーバーグループを作成し、各グループにインデックスサーバーを追加します。

- 各インデックスサーバーに物理インデックスの場所を割り当てます。
- スタンドアロンのインデックスサーバーまたはインデックスサーバーグループに各ボルトストアを割り当てます。

## Enterprise Vault 管理コンソールについて

Enterprise Vault ディレクトリおよび Enterprise Vault サイトのすべての各種エンティティは、Enterprise Vault 管理コンソールを使って設定されます。これは、MMC (Microsoft Management Console) のスナップインです。

Enterprise Vault 管理コンソールは、現在、英語、日本語および簡体字中国語で利用できます。

左側のペインのツリー構造に、次のようなサイトエンティティが表示されます。

- アーカイブ
- ボルトストアとパーティション
- Enterprise Vault サーバーおよび各サーバーで実行される Enterprise Vault のサービスとタスク
- インデックスサーバーおよびインデックスサーバーグループ
- アーカイブの対象 (Exchange Server とメールボックス、Domino サーバーとメールファイルなど)
- アーカイブ対象アイテムと実行するアーカイブ処理を定義するポリシー
- 保持カテゴリと保持計画
- 分類ポリシー
- 検索移行型ツールの機能を使う PST 移行の対象のコンピュータとファイル

新しいエンティティを作成したり、ツリーペインと右ペインのどちらかで右クリックのオプションを使用して既存のエンティティのプロパティを変更することができます。

Enterprise Vault 管理コンソールのさまざまなオプションを使用して、企業内のアーカイブを設定して管理し、各種のクライアントインターフェースでユーザーが利用できる機能を定義できます。

## Enterprise Vault サイト、ディレクトリ、ディレクトリデータベースについて

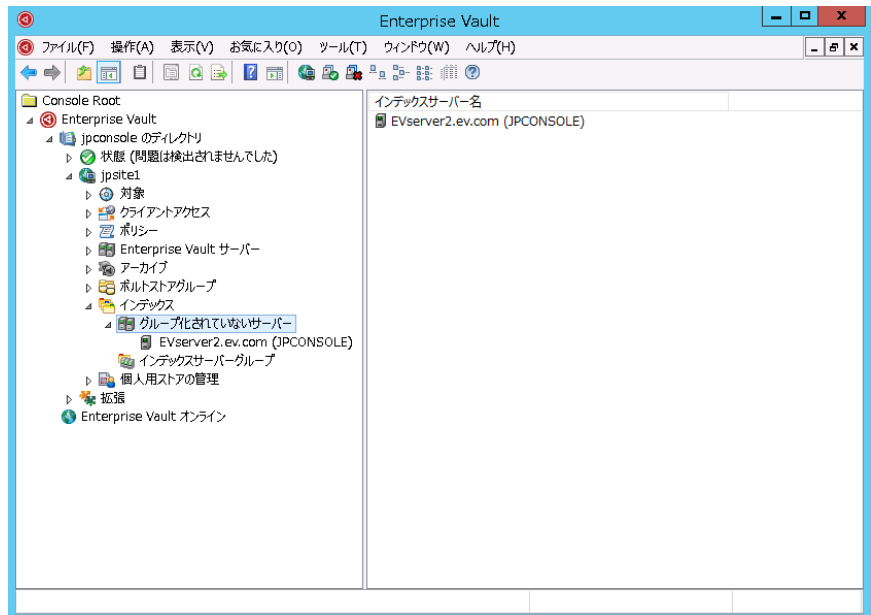
各 Enterprise Vault サーバーは、初期設定時に Enterprise Vault サイトに参加する必要があります。サイトは、指定された対象 (Microsoft Exchange Server、Domino メールサーバー、Microsoft SharePoint サーバー、ファイルサーバーなど) からアイテムをアーカイブするために Enterprise Vault のサービスとタスクを 1 つ以上実行している 1 台以上の Enterprise Vault サーバーで構成されます。

サイトには、ポルトストアのコレクション、インデックスサーバー、アイテムのアーカイブ方法とその時期を定義するアーカイブのポリシー、アイテムを削除するまでの格納期間を定義する保持カテゴリと保持計画もあります。また、PST ファイルを自動インポートする対象コンピュータの一覧が含まれる場合もあります。

Enterprise Vault サイトは、Enterprise Vault サーバーコンピュータ上の Enterprise Vault ディレクトリ内にあります。Enterprise Vault ディレクトリには 1 つ以上のサイトを含めることができます。サイトの階層と、そのサイトに属する Enterprise Vault サーバーは、Enterprise Vault 管理コンソールに表示されます。

図 2-8 は、Enterprise Vault 管理コンソールで Enterprise Vault ディレクトリの内容を表示する方法を示しています。

図 2-8 Enterprise Vault 管理コンソールでの Enterprise Vault ディレクトリの内容の表示



Enterprise Vault サーバーを最初に設定するときに、設定しているコンピュータ上にディレクトリとサイトを作成するか、別の Enterprise Vault サーバーコンピュータ上のディレクトリ内にサイトを参加させることができます。

Enterprise Vault ディレクトリには、ディレクトリサービスからアクセスします。このサービスは、その他の Enterprise Vault サービスやタスクが Enterprise Vault ディレクトリデータベースの設定情報にアクセスするときに使われます。

p.43 の「[ディレクトリサービスの概要](#)」を参照してください。

Enterprise Vault ディレクトリデータベースには、ディレクトリ内の各サイトの設定情報が保存されます。(通常、Enterprise Vault サイト間では設定情報は共有されません。)この SQL データベースは、Enterprise Vault サーバーとは別のコンピュータに配置できます。

Enterprise Vault Directory、サイト、インデックスサーバーグループ、アーカイブ対象、ポリシー、保持カテゴリ、保持計画は、すべて Enterprise Vault Administration Console を使って設定します。SQL データベースを管理するには、Microsoft SQL 管理ツールを使います。

## Enterprise Vault タスクについて

アーカイブと復元の作業は、Enterprise Vault のタスクによって実行されます。アーカイブ対象のデータの種類に応じて、各種のタスクが使われます。Enterprise Vault のタスクはタスク制御サービスによって管理されます。

タスクは、Exchange Server メールボックスまたは Domino メールファイルのアーカイブを設定する場合や、PST ファイルの位置検索とインポートを自動的に行う場合にも使われます。

### プロビジョニングタスクとアーカイブタスクの概要

次の各種のタスクは、Enterprise Vault 管理コンソールを使って作成、管理できます。

- **Exchange** プロビジョニングタスク。このタスクは、アーカイブ用にユーザーのメールボックスを設定するために **Exchange** プロビジョニンググループを処理します。すべての **Exchange** 対象ユーザーのメールボックスは、1 つのプロビジョニンググループ内になければなりません。
- **Exchange** メールボックスアーカイブタスク。このタスクは、ユーザーメールボックスのアイテムをアーカイブします。アーカイブポリシーの変更に応じてメールボックスの設定情報を更新し、メールボックスの権限と関連付けされたアーカイブの権限を同期させます。また、異なるフォルダにショートカットが移動またはコピーされたアーカイブ済みアイテムの場所と保持カテゴリも更新します。
- **Exchange** パブリックフォルダタスク。このタスクは、パブリックフォルダのアイテムをアーカイブします。
- **Exchange** ジャーナルタスク。このタスクは、Exchange Server ジャーナルメールボックスのアイテムをアーカイブします。
- **Domino** プロビジョニングタスク。このタスクは、Domino メールファイルのアーカイブを設定し、アーカイブポリシーの変更に応じてメールファイルの設定情報を更新し、メールファイルの権限と関連付けされたアーカイブの権限を同期させます。すべての **Domino** 対象ユーザーのメールファイルは、1 つのプロビジョニンググループ内になければなりません。
- **Domino** メールボックスアーカイブタスク。このタスクは、Domino メールファイルのアイテムをアーカイブします。

- **Domino ジャーナルタスク**。このタスクは、Domino ジャーナルデータベースのメッセージをアーカイブします。
- **SharePoint タスク**。このタスクは、SharePoint サーバー上のドキュメントライブラリから文書をアーカイブします。
- **ファイルシステムアーカイブタスク**。このタスクは、NTFS ファイルシステム、NetApp® Filer デバイス、Dell EMC Celerra/VNX ファイルサーバーなどのファイルシステムのファイルをアーカイブします。
- **SMTP アーカイブタスク**。Enterprise Vault SMTP サービスは SMTP 保存フォルダに SMTP メッセージを配置します。次に SMTP アーカイブタスクは保存フォルダの SMTP メッセージファイルを検証し、対象の SMTP アドレスを持つメッセージファイルをアーカイブします。
- **SMTP プロビジョニングタスク**。このタスクは、プロビジョニンググループの対象ユーザーに SMTP ポリシーとアーカイブを割り当てます。
- **アーカイブ移動タスク**。このタスクは、アーカイブ移動ウィザードで開始されるアーカイブ移動処理を管理します。
- **クライアントアクセスのプロビジョニングタスク**。このタスクは、選択したプロビジョニンググループの対象ユーザーに Enterprise Vault の検索ポリシーと IMAP ポリシーを適用します。

アーカイブタスクを設定する際には、一連の対象が割り当てられます。各対象にはアーカイブのポリシーが割り当てられています。対象によってアーカイブされるアイテムの場所が定義され、ポリシーによってアーカイブ方法と日時が定義されます。1 つのタスクで異なるサーバー上の異なる対象をアーカイブできます。

ほとんどのタスクをスケジュールできます。アーカイブタスクは、スケジュールに従って設定されているアーカイブ対象をスキャンし、アーカイブ可能なアイテム、つまりアーカイブのポリシーを満たすアイテムを検索します。これは自動アーカイブまたはバックグラウンドアーカイブと呼ばれています。Exchange メールボックスとパブリックフォルダのアーカイブ、Domino メールファイルのアーカイブでは、ユーザーはメールクライアントの[格納先]アーカイブオプションを使って、アーカイブに特定のアイテムを格納することもできます。これは手動アーカイブと呼ばれています。

どちらのアーカイブでも、アーカイブタスクはアーカイブするアイテムを収集し、ストレージサービスに渡します。ストレージサービスによってアイテムが安全に格納されたら、アーカイブタスクは元のアイテムを削除し、アーカイブ済みアイテムへのショートカットを作成します。タスクで元のアイテムを削除するか、ショートカットを作成するかどうかを設定できます。ジャーナルや SMTP アーカイブタスクなど、ショートカットを作成しないアーカイブタスクもあります。

アーカイブ済みコピーが含まれるボルトストアがバックアップされるまで、元のアイテムをセーフコピーとして残すようにアーカイブタスクを設定できます。



Enterprise Vault がアイテムをアーカイブするとき、必要なアーカイブの場所を調べるために Enterprise Vault ディレクトリデータベースにアクセスします。さらに情報はボルトストアデータベースに書き込まれます。

アーカイブタスクがショートカットを作成する場合は、そのタスクはショートカットの自動消去も行います。

ショートカットは、次のような場合に自動的に削除されます。

- 保持期間を過ぎた時点でアーカイブ済みアイテムが自動的に削除されたとき。この削除操作はオプションです。
- アーカイブ済みアイテムへの削除権限を持つユーザーによって、アーカイブアイテムが明示的に削除されたとき。
- アーカイブ自体が削除されたとき。

アーカイブ内のアイテムはストレージサービスによって削除されますが、ショートカットはアーカイブタスクによって削除されます。

アーカイブの種類によっては、自動ショートカット削除機能をアイテムの削除とは別に設定できます。たとえば、1 年後にすべてのショートカットを削除するように設定できます。アーカイブ済みアイテムはアーカイブに保存されているため、必要に応じてアクセスできます。

## 取り込み処理の概要

非表示の取り込み処理は、それぞれのアーカイブタスクに関連付けられています。この処理は、アーカイブからアイテムを取り込んで表示したり、ユーザーが指定した場所に復元したりするために使われます。

取り込み処理は、次のような一連のソースから要求を受け取ります。

- Enterprise Vault Outlook アドインと Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアント (ユーザーがメールボックス内のショートカットからアイテムを表示または復元するとき)
- Notes 用の Enterprise Vault 拡張機能 (ユーザーがメールファイル内のショートカットからアイテムを表示または復元するとき)
- Enterprise Vault Search (ユーザーがアーカイブ内のアイテムを表示または復元するとき)
- ショッピングサービス (ユーザーがブラウザベースの検索を使って復元対象のアイテムを選択するとき)
- FSA ショートカット (ユーザーがショートカットをダブルクリックしてファイルを開くとき)
- SharePoint ショートカットまたはアーカイブされたバージョンリンク (ユーザーがショートカットまたはリンクをクリックして文書を開くとき)

取り込み処理はこの復元要求に応答して、ストレージサービスに対してアーカイブからアイテムを取り込むように指示します。要求されたアイテムがオフラインで格納されている場合には、取り込みに時間がかかることがあります。

## PST 移行タスクの概要

Enterprise Vault には、PST ファイルの内容をアーカイブに移行 (インポート) するために次のツールが提供されています。

- 検索移行型ツール - ユーザーのコンピュータ上で PST ファイルの場所を検索し、それらのファイルを集中管理する場所にコピーしてから移行します。移行する PST ファイルの数が多い場合には、検索移行型ツールを使うと、手動での作業が最小限で済みます。
- クライアント主導型移行 - これは検索移行型ツールと似ていますが、PST ファイルの検索と PST を収集する領域への送信は、Enterprise Vault サーバーのタスクではなく、ユーザーのコンピュータによって自動的に実行されます。
- Policy Manager を使ったスクリプトによる移行 - これは多数の PST ファイルを移行する場合に最適ですが、集中管理する場所に PST ファイルを収集する必要があります。
- PST 移行ウィザードを使った移行 - PST ファイルの数が少ない場合には、ウィザードを使うと Enterprise Vault へ簡単かつ迅速にファイルを移行できます。

検索移行型ツールは、PST ファイルの内容を Enterprise Vault に移行するプロセスの一部を自動化します。検索移行型ツールは、ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルを自動的に検索し、集中型の保管領域に移動して、そこから自動的に移行できるようにします。

検索移行型ツールは、Enterprise Vault の次の種類のタスクで構成されます。

- 検索タスク。このタスクは、ネットワークを検索してコンピュータと PST ファイルを見つけます。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。Enterprise Vault サイトには、1 つの検索タスクのみインストールできます。
- 収集タスク。このタスクは、検索タスクが見つけた PST ファイルを、集中管理する保存用フォルダに移動して移行の準備を完了します。複数の収集タスクを Enterprise Vault サイトにインストールできます。
- 移行タスク。このタスクは、保存用フォルダの PST ファイルの内容を Enterprise Vault のアーカイブに移行します。複数の移行タスクを Enterprise Vault サイトにインストールできます。

これらのタスクは、Enterprise Vault 管理コンソールを使って設定とスケジュールが行われます。

ユーザーが独自の PST 移行を実行できるように、Enterprise Vault Outlook アドインを設定できます。この場合の基礎となる機構は引き続き検索移行型ツールですが、ユーザーは移行する自分の PST ファイルをキューに入れることができます。

## Enterprise Vault サービスについて

Enterprise Vault サーバーには、タスクだけでなく、次の Windows コアサービスもあります。

- ディレクトリサービス
- ストレージサービス
- インデックスサービス
- ショッピングサービス
- タスク制御サービス
- 管理サービス

ディレクトリサービスと管理サービスを除き、Enterprise Vault サービスは管理コンソールに表示されて設定されます。ディレクトリサービスと管理サービスは、Windows サービスの管理コンソールを使って管理されます。

Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントもインストールする場合は、Enterprise Vault SMTP サービスが作成されます。このサービスは Windows サービス管理コンソールに表示されますが、Enterprise Vault 管理コンソールには表示されません。SMTP サービスについては、このガイド内で後述しています。

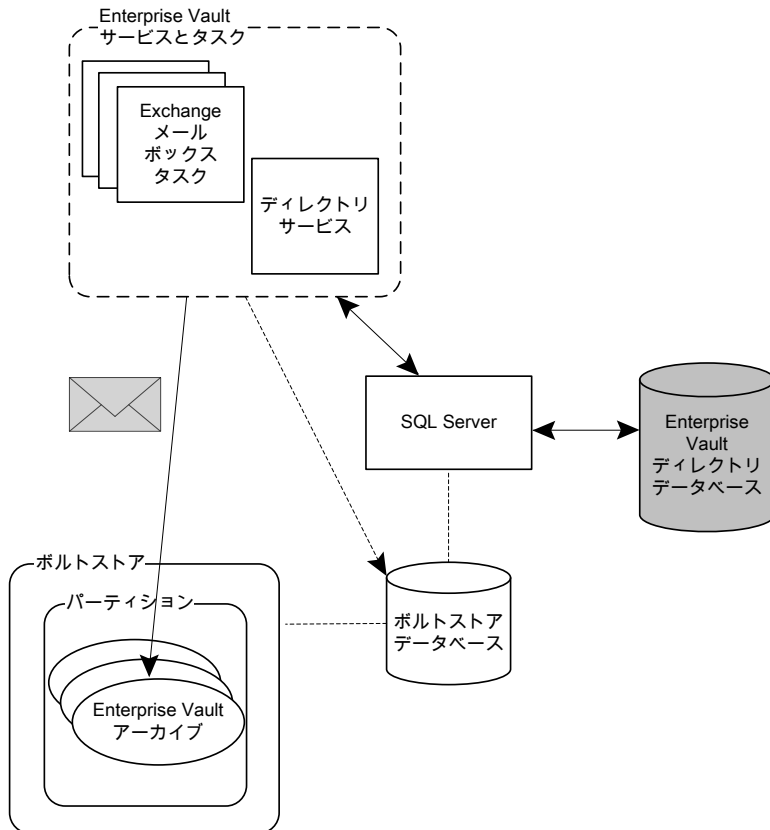
p.115 の「[Enterprise Vault SMTP アーカイブについて](#)」を参照してください。

### ディレクトリサービスの概要

Enterprise Vault ディレクトリには、サイトの設定情報にアクセスするときに Enterprise Vault の他のサービスとタスクが使うディレクトリサービスがあります。ディレクトリサービスは、Enterprise Vault ディレクトリデータベースの設定情報にアクセスするときに Microsoft SQL Server を使います。

図 2-9 は、Exchange メールボックスアーカイブタスクがアイテムをアーカイブするときの動作を示しています。

図 2-9 Enterprise Vault ディレクトリデータベースへのアクセス



Exchange メールボックスアーカイブタスクには、アーカイブの場所、アーカイブに対する権限、接続するインデックスサービスなどの情報が必要であるため、Exchange メールボックスアーカイブタスクは、これらの情報を Enterprise Vault ディレクトリデータベースから取り込むようにディレクトリサービスに指示します。(Exchange メールボックスタスクはボルトストアデータベース内の情報の更新も行います。)

1 つのディレクトリサービスを通じて、1 つ以上の Enterprise Vault サイトの設定情報にアクセスできます。このためディレクトリサービスは、Enterprise Vault サイト内の機能でなく、サイト外部の機能として考えられています。

ディレクトリサービスは Windows サービスであり、Windows サービスの管理コンソールに一覧表示されます。ディレクトリサービスをデータベースと同じコンピュータにインストールする必要はありません。

1 台のコンピュータで複数のディレクトリサービスを実行することはできません。

## ストレージサービスの概要

ストレージサービスは、ストレージサービスが実行されているコンピュータ上のボルトストアとアーカイブを管理します。

ストレージサービスの役割は次のとおりです。

- アーカイブするアイテムをアーカイブタスクから受け入れます。可能であれば、各アイテムをテキストまたは HTML 形式で生成します。これは、インデックスサービスがそのアイテムのインデックスデータをコンパイルするときに使用されます。アイテム (とテキストまたは HTML 形式のアイテム) を圧縮して適切なアーカイブに格納します。

Enterprise Vault のデフォルトのコンテンツコンバータでテキストまたは HTML に変換できない種類のファイルもあります。Enterprise Vault は Windows IFilter をサポートするので、使用環境でデフォルトのコンテンツコンバータが変換できない種類のファイルに適した IFilter を取得できます。また、デフォルトの設定では、非常に大きいファイル (50 MB 超) は変換されません。

アーカイブされる各アイテムの情報は、ボルトストアデータベースに格納されます。

- 取り込みタスクからのアイテム復元要求に応答します。
- ストレージサービスはオープンパーティションを監視し、パーティションのロールオーバー基準を満たしているオープンパーティションを特定します。
- アーカイブ済みアイテムの表示要求に応答します。アイテムのプレビューが可能であれば、アイテムの HTML プレビューも表示します。
- アーカイブ済みアイテムを削除します。削除は、ユーザーが手動で行うか、またはアイテムの保持期間が終了したときに自動で行うことができます。アーカイブタスクはショートカットを削除します。

ボルトストアはその設計上、Veritas NetBackup などのストレージ管理ソフトウェアによる管理に適しています。システムにストレージ管理ソフトウェアがインストールされている場合には、ストレージ管理ソフトウェアはストレージサービスの代わりにセカンダリストレージの場所へのファイルの移行を管理し、セカンダリストレージからファイルをボルトストアに取り込みます。セカンダリストレージには、光ディスクやテープなどのオフラインのデバイス、または Amazon Simple Storage Service、Microsoft Azure Blob Storage、Google Cloud Storage などのクラウドストレージプロバイダを使用できます。

## インデックスサービスの概要

インデックスサービスは、取り込むアーカイブ済みアイテムをユーザーが検索できるようにするために、アーカイブされたデータのインデックスを管理します。インデックスには、簡略、完全の 2 つのレベルがあります。簡略インデックスでは、アイテムの件名と作成者などの情報のみを検索できます。完全インデックスでは、各アイテムの内容も検索でき、フレーズ検索も含まれます。

アクセス可能なアーカイブをユーザーが検索する際、インデックスファイルが検索されます。1 つのアイテムに対してインデックスされる情報が多いほど、アイテムの検索が容易になります。

Enterprise Vault を設定するときに、インデックスの格納先を指定できます。また、サイト全体に適用するデフォルトのインデックスレベルも指定できますが、この設定は、グループまたはアーカイブごとに上書きできます。

インデックスサービスのロールは次のとおりです。

- ストレージサービスからの指示に従って、インデックスサービスはアーカイブされたアイテムのインデックスを作成します。  
インデックスファイルの場所は、インデックスサービスのプロパティとインデックスサーバーのプロパティで指定されます。
- インデックスの期限が切れた場合には、インデックスサービスによりインデックスが自動的に更新されます。
- ユーザーからの検索要求に応答して、インデックスサービスはインデックスを検索し、検索基準を満たすアーカイブ済みアイテムに関する情報を返します。

## ショッピングサービスの概要

ユーザーが、アーカイブの参照と検索にブラウザベースの機能を使って 1 つ以上のアイテムを復元することを選択する場合は、ショッピングサービスがプロセスを管理します。

Exchange Server アーカイブでは、選択されたアイテムは、ショッピングバスケットというコンテナに入れられます。ショッピングサービスは、このショッピングバスケットを管理します。必要に応じて、ショッピングバスケットの内容を保存先から取り込むように取り込み処理に指示します。Domino アーカイブでは、ショッピングサービスが選択されたアイテムの復元を管理しますが、ショッピングバスケットは存在しません。

## タスク制御サービスの概要

Enterprise Vault アーカイブタスクは、このサービスによって制御されます。タスクは自動タスクとして設定されている場合、タスク制御サービスの開始とともに開始されます。

p.39 の「[Enterprise Vault タスクについて](#)」を参照してください。

## 管理サービスの概要

管理サービスには 2 つの主要な機能があります。新しい Enterprise Vault ライセンスキーのインストールと、Enterprise Vault の他のタスクまたはサービスが開始されるたびに自動的に実行される一般的な監視サービスの提供です。他の Enterprise Vault サービスをインストールするときに、管理サービスが自動的にインストールされます。

Enterprise Vault Admin Service によって次の情報が監視されます。

- ローカルハードディスクの空き領域。デフォルト設定では、管理サービスはすべてのローカルハードディスクを監視します。ただし、必要に応じて監視対象を特定のディスクに限定できます。
- 利用可能な仮想メモリの容量。
- システムメッセージキューにあるアイテムの数。

管理サービスには、チェックの種類ごとに警告しきい値と危険しきい値があります。警告しきい値に達すると、管理サービスは **Windows** アプリケーションログに警告メッセージを書き込みます。危険しきい値に達すると、管理サービスは同じコンピュータ上で実行されている **Enterprise Vault** のすべてのタスクとサービスをシャットダウンします。

問題が発生する前に **Enterprise Vault** がシャットダウンされるため、**Enterprise Vault** の安定性の維持につながります。

管理サービスの動作の制御方法について詳しくは **Enterprise Vault** 管理コンソールのヘルプを参照してください。

## アーカイブディスカバリ検索サービスについて

アーカイブディスカバリ検索サービスは、**Enterprise Vault** インストール内の複数のボルトストアとアーカイブを通じてディスカバリタイプの検索を実行する検索クライアントアプリケーションを **Veritas** パートナーが開発できるシンプルな **Web** サービス **API** を提供します。このサービスで利用できる手段によって、クライアントアプリケーションで次の処理を実行できます。

- **Enterprise Vault** アーカイブの検索の作成、送信。
- 検索状態の確認。
- 検索結果の取り込み。
- 検索をキャンセルし、再送信。
- 検索を閉じて検索結果を廃棄し、ディスク容量を再生。

アーカイブディスカバリ検索サービスは、任意の **Enterprise Vault** サーバーにインストールできます。検索を実行するには、このサービスのライセンスが必要です。

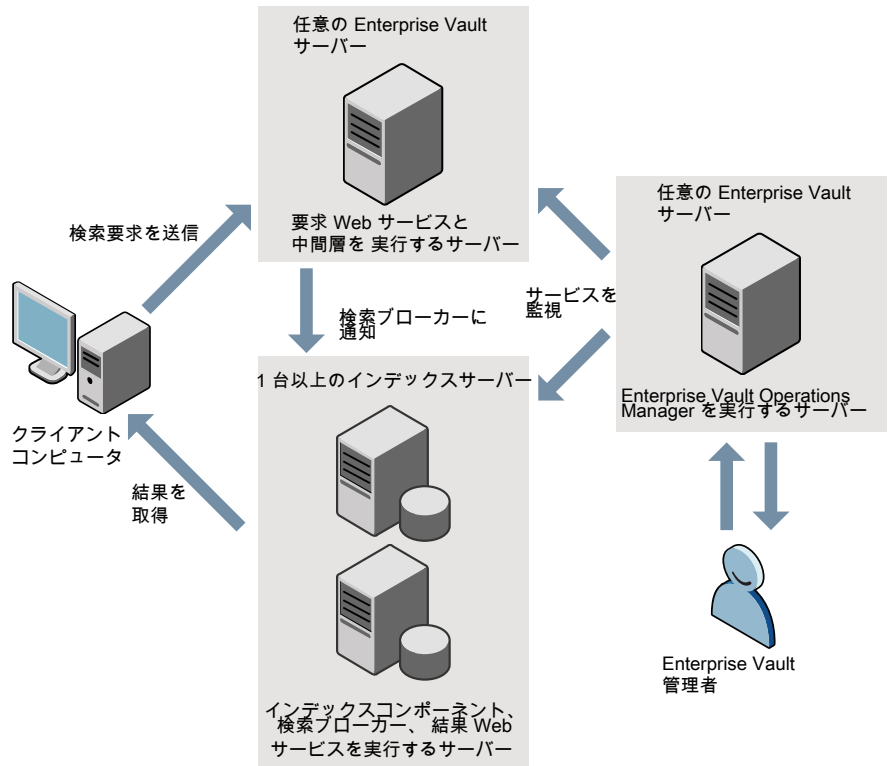
次の点に注意してください。

- アーカイブディスカバリ検索サービスは、大量のアーカイブを対象とする同時検索に最適化されています。少量のアーカイブに対する大量の同時検索を目的に設計されてはいません。
- **Enterprise Vault** ビルディングブロック環境ではこのサービスの使用はサポートされていません。ただし、**VCS (Veritas Cluster Server)** と **Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC)** 環境の両方でサービスを使用できます。

## アーカイブディスカバリ検索サービスのコンポーネントについて

図 2-10 に、典型的なアーカイブディスカバリ検索サービス環境のコンポーネントを示します。

図 2-10 アーカイブディスカバリ検索サービス環境のコンポーネント



クライアントアプリケーションは、アーカイブディスカバリ検索サービスの要求 Web サービスをホストしている Enterprise Vault サーバーに検索要求を送信します。要求 Web サービスは Microsoft IIS (インターネットインフォメーションサービス) でホストされている Web アプリケーションです。これは、アーカイブディスカバリ検索サービスシステムのエントリポイントになります。

要求 Web サービスは、すべての検索を管理し検索結果を集計する中間層にすべての呼び出しを転送する、軽量のコンポーネントです。中間層は常に、要求 Web サービスと同じ Enterprise Vault サーバーで動作します。複数の Enterprise Vault サーバーがある場合は、そのうちの 1 台にこれらのコンポーネントをインストールする必要があります。

中間層の働きの 1 つに、Enterprise Vault インデックスサーバー上で実行されている検索ブローカーとの連携があります。アーカイブディスカバリ検索サービスの環境では、イ



ンデックスサーバーごとに専用の検索ブローカーがあります。検索ブローカーには、検索の結果を取り込み、ディスクに XML ファイルとして格納する役割があります。また、各インデックスサーバーは、クライアントアプリケーションの検索結果の取り込みを可能にする結果 Web サービスをホストします。

Enterprise Vault Operations Manager をいずれかの Enterprise Vault サーバーにインストールすると、これを使ってアーカイブディスカバリ検索サービスを監視できるようになります。アーカイブディスカバリ検索サービスを利用するには Operations Manager をインストールする必要がありますが、Operations Manager によるデータコレクションを有効にする必要はありません。

## Enterprise Vault Outlook アドインについて

Enterprise Vault Outlook アドインによって Outlook クライアントに Enterprise Vault 機能が提供されるため、ユーザーはアーカイブにアクセスして Exchange Server のアーカイブ済みアイテムを管理できます。Exchange Server メールボックスへの RPC over HTTP 接続もサポートされています。

Enterprise Vault Outlook アドインは、Enterprise Vault のリリースメディアで Windows Installer (.msi) パッケージとして提供されます。

また、Outlook アドインの代替として、または Outlook アドインに加えて、Office メールアプリケーションを Outlook 2013 以降のユーザーに対して有効にできます。

IMAP クライアントまたは POP3 クライアントを使って Exchange Server メールボックスにアクセスするユーザーは、Enterprise Vault 管理コンソールでカスタマイズしたショートカットを設定できます。

## Outlook アドインの概要

Outlook アドインをユーザーのコンピュータにインストールすると、Enterprise Vault のメールボックスアーカイブにアクセスできます。Enterprise Vault のボタンとメニューオプションが Outlook に追加されます。また、Outlook アドインは Outlook に Enterprise Vault のヘルプも追加します。

Outlook アドインは仮想ボルト機能を含んでいます。仮想ボルトを有効にすると、ユーザーは、他のメールボックスフォルダや個人フォルダと同じように [Outlook ナビゲーションペイン] のアーカイブにアクセスできます。

Outlook アドインを使うと、ユーザーはさまざまな方法でメールボックスアーカイブにアクセスして管理できるようになります。次のような方法があります。

- 手動によるアイテムのアーカイブ。ユーザーは、アーカイブ先とアイテムの保持カテゴリを選択することができます。
- アイテムの削除 (必要な権限を持っている場合)。
- ショートカットを使ったアイテム表示。

- アイテムの復元。
- アーカイブの検索。
- Enterprise Vault Search へのアクセス。

管理者は、Enterprise Vault 管理コンソールで、ポリシーの設定を使ってユーザーに許可する機能を制御できます。特に、管理者は完全モードまたは簡易モードで動作するように Outlook アドインを設定できます。完全モードでは、Outlook アドインの動作に機能的な制限はありません。ライトモードでは、次の制限が適用されます。

- フォルダの Enterprise Vault プロパティにアクセスできません。
- 手動アーカイブの実行時に、アーカイブ先と保持カテゴリを指定できません。
- アーカイブされたアイテムを復元するときに、宛先フォルダを選択できません。Outlook アドインはショートカットがあるフォルダにのみアイテムを復元します。

Enterprise Vault では、Outlook アドインをインストールしなくても自動アーカイブを実行できますが、ショートカットの設定によっては、ユーザーがショートカットを使えない場合やアーカイブ設定を修正できない場合があります。ただし、ユーザーはスタンドアロンのブラウザセッションで Enterprise Vault Search 機能を使ってアーカイブ済みアイテムにアクセスできます。

## オフラインユーザーの概要

Enterprise Vault Outlook アドインでは、オフラインで作業するユーザーの個人用オフラインボルトキャッシュを保守できます。

ボルトキャッシュの利点を次に示します。

- ユーザーが企業内ネットワークに接続していない場合でも、アーカイブ済みアイテムへ簡単にアクセスできます。
- 通常のオンラインアーカイブとともに使うものであり、オンラインアーカイブに代わるものではありません。
- ノートパソコンを使ってオフラインで作業するユーザーにとって便利です。オフラインフォルダとオンラインフォルダの同期に役立ちます。
- 一般のオフィス環境で帯域幅の節約やパフォーマンスの改善が必要な場合に便利です。アーカイブ済みアイテムの取り込みはローカルコンピュータで行われます。

オフラインユーザーが Outlook を起動すると、Enterprise Vault クライアントによりユーザーの同期済みフォルダがスキャンされ、次のアイテムが検索されます。

- メールボックスからすぐにアーカイブされるアイテム - これらのアイテムのショートカットがユーザーのメールボックスに作成された時点で、アイテムがボルトキャッシュに存在するように、これらのアイテムがコピーされます。これらのアイテムは Outlook の同期処理ですでにダウンロードされているため、ユーザーのコンピュータでコピーされるときにはダウンロードは不要です。

- Enterprise Vault ショートカット - 対応するアイテムがボルトキャッシュにない場合には、クライアントによりこれらのアイテムがダウンロード一覧に追加されます。

ユーザーは、仮想ボルト、ショートカットなどの機能を使ってボルトキャッシュのアイテムにアクセスして管理できます。Windows デスクトップサーチを使って、ボルトキャッシュのアイテムを検索することもできます。

## Enterprise Vault アーカイブへの IMAP アクセスについて

Enterprise Vault の IMAP 機能により、IMAP クライアントが既存の Exchange のメールボックスアーカイブと、他のメールサービスを使用するユーザー用の新しいインターネットメールアーカイブにアクセスできるようになります。

ユーザーが IMAP アクセスが設定され、IMAP デバイスとクライアントを設定すると、Enterprise Vault ポリシーの範囲内でユーザーはアーカイブの内容にアクセスして管理できます。たとえば、ユーザー自身のクライアントルールを使って新しい内容を手動と自動の両方でアーカイブできます。

Exchange アーカイブの場合、アーカイブと保持の既存の設定が引き続き有効になります。インターネットメールユーザー用に作成される新しいアーカイブの場合、ユーザーが作成する IMAP ポリシーによって指定された保持は、IMAP アクセスをプロビジョニングして有効にしたときにユーザーに適用されます。

IMAP アクセスの設定と、IMAP のデバイスとクライアントからアーカイブにアクセスできるようにする設定方法について詳しくは、『IMAP のセットアップガイド』を参照してください。

## Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアントについて

Mac OS X 用の Enterprise Vault クライアントは、Enterprise Vault の機能を Microsoft Outlook for Mac 2011 または 2016 のユーザーに提供します。

Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアントのインストーラキットは、Enterprise Vault 配布メディアのディスクイメージファイル(.dmg)として利用できます。ユーザーによるクライアントのインストール後、[Veritas Enterprise Vault クライアント]メニューがメニューバーに表示されます。デフォルトでは、ユーザーが電子メールクライアントを起動すると、Enterprise Vault ツールバーも表示されます。ツールバーは省略可能なオプションで、ユーザーは、[Veritas Enterprise Vault クライアント]メニューでコマンドを選択することによって、このオプションを表示したり非表示にしたりすることができます。

メニューとツールバーのオプションを使って次のようなアーカイブの処理を行うことができます。

- アーカイブからのアイテムのダウンロードと、元の形式でのオープン。
- アーカイブ内のアイテムへの返信とアイテムの転送。
- 手動によるアイテムのアーカイブ。
- アーカイブからのアイテムのリストア。

- アーカイブからのアイテムの削除 (許可されている場合)。
- アーカイブの検索。

管理者は、Enterprise Vault 管理コンソールで、Exchange デスクトップポリシーの設定を使って、ユーザーに許可する機能を管理できます。

## Microsoft Exchange フォームについて

Exchange Server のアーカイブでは、Enterprise Vault Exchange フォームにより、Enterprise Vault で必要なフォームが含まれるように Microsoft Exchange フォームライブラリを拡張します。

フォームは現在、次の言語で利用可能です。

- |               |          |           |
|---------------|----------|-----------|
| ■ ブラジルのポルトガル語 | ■ フランス語  | ■ 韓国語     |
| ■ 中国語 (簡体字)   | ■ ドイツ語   | ■ ポーランド語  |
| ■ 中国語 (繁体字)   | ■ ヘブライ語  | ■ ロシア語    |
| ■ デンマーク語      | ■ ハンガリー語 | ■ スペイン語   |
| ■ オランダ語       | ■ イタリア語  | ■ スウェーデン語 |
| ■ 英語          | ■ 日本語    |           |

Microsoft Exchange フォームを Microsoft Exchange Server コンピュータにインストールすると、そのコンピュータにメールボックスがあるユーザーや、コンピュータに Enterprise Vault Outlook アドインをインストールしているユーザーが、Enterprise Vault の機能を使えます。

Enterprise Vault サーバーコンポーネントをインストールすると、Microsoft Exchange フォームが Enterprise Vault コンピュータにコピーされます。Outlook の個人用フォームライブラリにフォームを自動的にコピーするように Outlook アドインを設定するか、または Exchange Server の組織フォームライブラリにフォームをインストールできます。

## OWA Extensions について

ユーザーが OWA 2010 クライアント内からアーカイブへのアクセスとアーカイブ済みアイテムの管理を行えるようにするには、Enterprise Vault OWA Extensions を Exchange Server 2010 CAS コンピュータにインストールする必要があります。OWA 2013 以降のクライアントから Enterprise Vault にアクセスできるようにするには、OWA Extensions ではなく Enterprise Vault Office Mail App を使います。

OWA クライアントでは、必要な権限があれば、アーカイブの検索、アイテムのアーカイブ、表示、復元、削除を行えます。Enterprise Vault のボタンとメニューアイテムをクライアントに追加できます。Enterprise Vault 管理コンソールでは、OWA のユーザーが使用できる機能を管理者が設定できます。

OWA ユーザーは、Enterprise Vault Outlook アドインをデスクトップコンピュータにインストールする必要はありません。

## OWA 2013 以降と Outlook 2013 以降の Office Mail App について

OWA 2013 以降では、Enterprise Vault Office Mail App はアーカイブ済みアイテムへのアクセスを提供します。また、Outlook アドインの代替として、または Outlook アドインに加えて、Office Mail App を Outlook ユーザーに対して有効にできます。Office Mail App の設定方法によって、次の Enterprise Vault 機能をユーザーが利用できるようにします。

- ショートカットからのアーカイブ済みアイテムの表示
- アイテムの手動アーカイブ
- アーカイブ済みアイテムの復元
- アーカイブ済みアイテムの削除
- 処理の取り消し
- Enterprise Vault 検索を開く

Office Mail App について詳しくは、『Exchange Server アーカイブの設定』ガイドを参照してください。

## Notes 用 Enterprise Vault 拡張機能について

これらの拡張機能を使うと、Notes メールクライアントおよび Domino Web Access クライアントで Enterprise Vault の機能を実行できます。この拡張機能は、対象となる Domino メールサーバーにインストールするテンプレートファイルとデータベースファイルで構成されています。現在、次の言語で利用可能です。

- |               |          |           |
|---------------|----------|-----------|
| ■ ブラジルのポルトガル語 | ■ フランス語  | ■ 韓国語     |
| ■ 中国語 (簡体字)   | ■ ドイツ語   | ■ ポーランド語  |
| ■ 中国語 (繁体字)   | ■ ヘブライ語  | ■ ロシア語    |
| ■ デンマーク語      | ■ ハンガリー語 | ■ スペイン語   |
| ■ オランダ語       | ■ イタリア語  | ■ スウェーデン語 |
| ■ 英語          | ■ 日本語    |           |

これらの拡張機能によって、ユーザーは、メールファイルのアーカイブへの完全な管理アクセスを許可されます。ユーザーは次の機能を実行できます。

- 手動によるアイテムのアーカイブ。
- アイテムの削除 (必要な権限を持っている場合)。
- ショートカットを使ったアイテム表示。

- アイテムの復元。
- アーカイブの検索。

## Enterprise Vault 検索について

Enterprise Vault による検索では、クライアントユーザーは、アーカイブを参照して検索し、簡易または高度な検索を実行できます。また、ユーザーは次の内容も実行できます。

- 頻繁に使うメールボックスフォルダと検索クエリーにワンクリックでアクセスして再利用できるように、お気に入りに入れて保存します。
- アーカイブされたアイテムおよびその添付ファイルをプレビューします。
- アーカイブ外、アーカイブ内のアーカイブ済みアイテムをコピーして移動したり、別のアーカイブにアーカイブ済みアイテムをコピーして移動します。
- アーカイブ済みアイテムを復元します。
- アーカイブの種類と検索ポリシーに基づいて、アーカイブされたアイテムを .nsf、.pst、.zip ファイルにエクスポートします。
- アーカイブ済みアイテムを削除します。
- アイテムの保持カテゴリを変更します。

Enterprise Vault による検索は、エンドユーザー向けの検索ツールとして設計されており、Veritas Discovery Accelerator などの eDiscovery アプリケーションによって提供される機能は含まれません。たとえば、Enterprise Vault による検索は、ケース管理、レビュー、リーガルホールド、レポート、または監査には使用できません。

## Enterprise Vault モバイル検索について

Android、iOS、Windows Mobile デバイスで利用するために設計された Enterprise Vault モバイル検索では、スマートフォンの Web ブラウザでアーカイブにアクセスできます。Enterprise Vault モバイル検索で利用可能な検索機能は、デスクトップとタブレットで実装された Enterprise Vault 検索の検索機能に非常によく似ています。デスクトップおよびタブレットの Enterprise Vault 検索で利用可能な機能の中には、現在 Enterprise Vault モバイル検索で利用できない機能もあります。たとえば、モバイルユーザーは次のことができません。

- Exchange メールボックス、Exchange のパブリックフォルダおよびインターネットメール以外の種類のアーカイブにアクセスすること。
- 複数のアーカイブを一度に検索すること。
- 検索クエリを再利用するために保存すること。
- アーカイブしたアイテムをエクスポートすること。

- 復元されたアイテムフォルダ以外の任意のメールボックスのフォルダにアーカイブされたアイテムを復元すること。

Enterprise Vault モバイル検索はブラウザベースのアプリケーションであり、Microsoft Internet Information Services (IIS) を利用したイントラネットまたはインターネットアクセスに展開できます。Enterprise Vault を不要なセキュリティリスクにさらさずにユーザーにインターネットへのアクセスを提供したい場合は、プロキシサーバーに必要なコンポーネントをインストールできます。プロキシサーバーは、Enterprise Vault サーバーからリソースを要求する Enterprise Vault 検索クライアントからの要求の仲介者として機能します。

## Enterprise Vault の監視とレポートについて

Enterprise Vault Operations Manager と Enterprise Vault Reporting は、いずれもオプションでインストール可能な機能で、Enterprise Vault サーバーのリモート監視とリモートレポートをブラウザベースで実行できます。

これらの機能をインストールしない場合でも、Enterprise Vault 監視データベースを設定する必要があることに注意してください。

p.61 の「[Enterprise Vault Reporting](#)」を参照してください。

p.63 の「[Enterprise Vault Operations Manager](#)」を参照してください。

## FIPS 140-2 コンプライアンス

連邦情報処理標準 (FIPS) 140-2 は、コンピュータシステムの暗号モジュールの標準です。

Enterprise Vault と FIPS 140-2 標準への準拠、FIPS 140-2 準拠環境での Enterprise Vault の使用について詳しくは、Veritas の企業/法人向けサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

[https://www.veritas.com/content/support/en\\_US/doc/ev\\_12\\_FIPS\\_00](https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/ev_12_FIPS_00)

# Enterprise Vault の管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault の管理について](#)
- [管理コンソールのアーカイブ設定](#)
- [管理アカウントと役割](#)
- [PST ファイル内容のアーカイブ方法](#)
- [NSF ファイルの内容のアーカイブ方法](#)
- [アーカイブ済みアイテムのエクスポート方法](#)
- [Welcome メッセージとその他の通知](#)
- [Enterprise Vault のレポートと監視について](#)
- [管理タスクでのスクリプトの使い方](#)
- [日常の管理タスクのチェックリスト](#)

## Enterprise Vault の管理について

このセクションでは、Enterprise Vault の管理について説明します。

Enterprise Vault の管理では、その大半において Enterprise Vault 管理コンソールを使用します。これは MMC (Microsoft Management Console) のスナップインです。

管理タスクによっては、Enterprise Vault の PowerShell コマンドレットを使用できます。利用可能な Enterprise Vault コマンドレットの詳しいリストについては、『PowerShell コマンドレットガイド』を参照してください。

権限の付与やイベントログの表示などの管理作業は、他の Windows の標準ツールでも実行できます。SQL データベースを管理するには、Microsoft SQL Server Management Studio や Microsoft SQL Enterprise Manager を使います。



Operations Manager や Enterprise Vault Reporting 機能など、監視とレポート用のツールが多数提供されています。

## 管理コンソールのアーカイブ設定

管理コンソール内において、Enterprise Vault のアーカイブ設定は、大きく次のように分類されます。

- **タスク** - Enterprise Vault が実行するアーカイブ作業のジョブ。たとえば、特定の Exchange Server コンピュータ上のメールボックスからのアーカイブなどがあります。
- **ポリシー** - タスクの実行方法を指定します。たとえば、メールボックスからのアーカイブ時に、アイテムをアーカイブする時期やアーカイブされたアイテムへのショートカットを作成するかどうかなどを指示します。
- **対象** - タスクの対象となるオブジェクト。たとえば、タスクの種類に応じて、Domino メールファイル、ディスクボリューム、Exchange Server パブリックフォルダなどがあります。

さらに、Enterprise Vault の一般動作とすべてのタスクに影響を与える設定があります。これらの設定は、Enterprise Vault ディレクトリとサイトのプロパティで編集可能です。

## 管理アカウントと役割

最も重要な Enterprise Vault アカウントはボルトサービスアカウントです。Enterprise Vault をインストールする前に、ボルトサービスアカウントを設定して、適切な権限を指定する必要があります。Enterprise Vault を設定する場合は、このアカウントを使って Enterprise Vault 設定ウィザードを実行する必要があります。

Enterprise Vault のサービスとタスクは、Enterprise Vault データベースにアクセスするときにボルトサービスアカウントを使います。Exchange Server のアーカイブでは、Enterprise Vault タスクは Microsoft Exchange Server に接続するときにボルトサービスアカウントを使います。

Enterprise Vault タスクはボルトサービスアカウントで実行できます。また、必要に応じて、タスクごとに別のアカウントを指定することもできます。

ボルトサービスアカウントの作成について詳しくは、『インストール/設定』ガイドを参照してください。

Enterprise Vault には、他の Enterprise Vault 管理者に割り当てることができる管理役割も用意されています。これらの役割は、管理コンソールを使って指定された管理タスクを実行できるようにする制限付きの権限をユーザーに提供します。特定の管理タスクに対して複数の役割が事前に設定されています。

## PST ファイル内容のアーカイブ方法

Outlook PST ファイル (個人用フォルダファイル) の内容を Enterprise Vault に移行 (インポート) できます。また、ユーザーのメールボックス内にショートカットを作成することもできます。このショートカットを開くと、アーカイブ済みアイテムを直接表示できます。

管理者は、次の方法で PST ファイルの内容を Enterprise Vault に移行できます。

- ウィザードを使った移行 - PST ファイルの数が少ない場合には、ウィザードを使うと Enterprise Vault へ簡単かつ迅速にファイルを移行できます。
- スクリプトによる移行 - この機能は、Enterprise Vault Policy Manager によって提供されています。多数の PST ファイルを移行する場合に最適な方法です。この方法は、移行ウィザードを使うよりも柔軟性に優れています。
- 検索移行型ツール。このツールは、ユーザーのコンピュータ上で PST ファイルの場所を検索し、それらのファイルを集中管理する場所にコピーしてから移行します。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。検索移行型ツールは、ユーザーのコンピュータから PST ファイルを収集する時間を最小限に抑えるように設計されており、手動での作業が最小限で済みます。
- クライアント主導型移行 - Enterprise Vault Outlook アドインを設定して、ユーザー独自の PST 移行を実行できます。この場合の基礎となる機構は検索移行型ツールですが、ユーザーは移行する自分の PST ファイルをキューに入れることができます。たとえば、ノートパソコンを使い、週に 1、2 回しか出社しないため、他の方法によって自分の PST ファイルを取得することが難しいユーザーがいる場合などに便利です。

PST の移行を支援するため、ユーザーが Outlook を起動するときにデスクトップクライアントがメールプロファイルに一覧表示されている各 PST ファイルにマーカーを書き込むように、デスクトップクライアントを設定できます。後でマーク付けされた PST ファイルがインポートされる際、マーカーは所有しているメールボックスを示します。

PST 移行は『PST 移行』ガイドで詳細に説明されています。

## NSF ファイルの内容のアーカイブ方法

Domino および Notes NSF ファイルの内容を Enterprise Vault に移行 (インポート) できます。また、ユーザーのメールファイルのショートカットを作成し、このショートカットを開くことでアーカイブ済みアイテムに直接移動することもできます。

Enterprise Vault を使うと、管理者は次の方法で NSF ファイルの内容を Enterprise Vault に移行できます。

- ウィザードを使った移行 - NSF ファイルが少数の場合は、この方法で Enterprise Vault への移行をすばやく、簡単に実行できます。

- スクリプトによる移行 - この機能は、Enterprise Vault Policy Manager によって提供されています。多数の NSF ファイルを移行する場合に最適な方法です。この方法は、移行ウィザードを使うよりも柔軟性に優れています。

NSF 移行については『Veritas Enterprise Vault™ NSF 移行』ガイドで説明しています。

## アーカイブ済みアイテムのエクスポート方法

Enterprise Vault には、管理者向けのアーカイブ済みアイテムをエクスポートするウィザードが組み込まれています。

このウィザードを使って Enterprise Vault Domino アーカイブをエクスポートすることはできません。Domino アーカイブからアイテムをエクスポートする場合は、『ユーティリティ』ガイドの Domino Archive Exporter に関する説明を参照してください。

このウィザードでは、次のエクスポートを実行できます。

- PST ファイルへのアーカイブのエクスポート。
- 元の Exchange Server メールボックスへのアーカイブ
- 任意の Exchange Server メールボックスへの 1 つのアーカイブ

次の種類のアーカイブをエクスポートできます。

- Exchange Server メールボックスとジャーナルアーカイブ
- ファイルシステムアーカイブ
- 共有アーカイブ。(共有アーカイブは、ユーザーが作成でき、かつ作成したユーザー以外の複数のユーザーがアクセスできる特殊なアーカイブです。このアーカイブにはフォルダは含まれません。)

出力には、日付と保持カテゴリによってフィルタをかけることができます。たとえば、保持カテゴリが「Business」でアーカイブされたもので、経過期間が 1 年未満のアイテムをエクスポートするように設定できます。

PST ファイルへエクスポートしたアーカイブを、Enterprise Vault へ再度インポートできます。この機能は、メールボックスとそのアーカイブ済みアイテムを他の Enterprise Vault サイトへ移動する場合などに便利です。

## Welcome メッセージとその他の通知

Exchange Server メールボックスまたは Domino メールファイルのアーカイブを有効にすると、Enterprise Vault によってユーザーに Welcome メッセージが自動的に送信されます。このメッセージには、ユーザーに対する指示が含まれ、Enterprise Vault を使い始めるために実行する必要がある操作が説明されています。

ユーザーが実行する必要がある操作は、Enterprise Vault の設定方法によって異なります。したがって、Enterprise Vault の設定内容に関する適切な情報をユーザーに通知するために、提供されているテンプレートメッセージを送信前に編集する必要があります。

Enterprise Vault の各クライアント言語に対して、Welcome メッセージのテンプレートがあります。

同様に、Exchange Server メールボックスまたは Domino メールファイルのアーカイブを無効にすると、Enterprise Vault によって Goodbye メッセージが自動的に送信されます。この場合も、提供されたテンプレートを適切に編集する必要があります。

PST ファイルと NSF ファイルが移行された場合およびユーザーの Exchange Server メールボックスのアーカイブのサイズが限度に近づいた場合（アーカイブサイズの限度が設定されている場合）に送信される通知メッセージもあります。これらのメッセージも編集可能です。

## Enterprise Vault のレポートと監視について

Enterprise Vault は、操作のレポートと監視ができる多くの機能を提供します。次の機能が含まれます。

- Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting 機能。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。  
p.61 の「[Enterprise Vault Reporting](#)」を参照してください。
- レポートモードで Enterprise Vault タスクを実行するオプション。このモードでは、アイテムをアーカイブせずに、Enterprise Vault を特定の設定で実行する場合の動作をテストできます。  
p.62 の「[レポートモード](#)」を参照してください。
- 3 つの Windows イベントログ内の Enterprise Vault の重要なイベントと情報のイベントを表示する機能。  
p.62 の「[イベントと診断のログ](#)」を参照してください。
- 管理コンソールから Enterprise Vault システムの健全性を監視できるシステム状態機能。  
p.63 の「[管理コンソールでのシステムの状態](#)」を参照してください。
- Internet Explorer がインストールされているコンピュータから Enterprise Vault をリモート監視できるようにする、ブラウザベースの Enterprise Vault Operations Manager アプリケーション。  
p.63 の「[Enterprise Vault Operations Manager](#)」を参照してください。
- Enterprise Vault の重要なイベントと警告を監視するために Microsoft Operations Manager (MOM) または Microsoft System Center Operations Manager (SCOM)

を使うオプションを含む、Enterprise Vault イベントとパフォーマンスを自動的に監視する機能。

p.64 の「[イベントとパフォーマンスの自動監視](#)」を参照してください。

- コンポーネントの間で情報を転送するために Enterprise Vault が使う Microsoft Message Queue (MSMQ) のパフォーマンスを監視する機能。  
p.64 の「[メッセージキューの監視](#)」を参照してください。
- Enterprise Vault サーバーごとに各種イベントの監査を有効にするオプション。  
p.65 の「[Enterprise Vault の監査](#)」を参照してください。

## Enterprise Vault Reporting

Enterprise Vault Reporting 機能によって、Enterprise Vault にエンタープライズレベルのレポートが提供されます。この機能では、レポート機構として Microsoft SQL Server Reporting Services が使われます。管理者は、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションを使って、レポート内容の管理とレポートの表示を行います。

このレポートには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- Exchange と Domino メールボックスのアーカイブ状態、健全性、傾向。
- ボルトストアあたりのアーカイブされるアイテムのボリューム。
- Enterprise Vault アーカイブの状態。
- ユーザーあたりのアーカイブクォータの使用状況。
- アーカイブ済みアイテムのアクセス傾向。
- アーカイブまたは課金用アカウント別のボルトストアの使用状況。
- Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによるストレージ削減。
- 保存セットと収集の数。
- コンテンツプロバイダに付与されたライセンスの使用容量と取込履歴。

管理者は、次の操作を実行できます。

- レポートで提供されるパラメータを使ったレポート内容のカスタマイズ
- PDF、XLS、HTML、TIFF など、さまざまなレポートエクスポート形式の選択
- 設定した電子メールアドレスにレポートを送信するため、または共有フォルダに保存するためのスケジュール設定

Enterprise Vault Reporting 機能では、Enterprise Vault 監視データベースで取得したデータを使って、Enterprise Vault サーバーのレポートがいくつか生成されます。

ファイルサーバーに FSA Reporting を設定すれば、そのファイルサーバーとボリュームの FSA レポートも生成できます。

p.97 の「[FSA レポート](#)」を参照してください。

## レポートモード

Enterprise Vault を特定の設定で実行する場合の動作をテストするには、レポートモードでタスクを実行します。このモードでは、アイテムはアーカイブされませんが、通常の実行でアーカイブされるアイテムのレポートが生成されます。

レポートは Reports フォルダのファイルに出力されます。このフォルダは Enterprise Vault インストール先フォルダ内のサブフォルダです。ファイルの各フィールドはタブで区切られているため、表計算プログラム (Microsoft Excel など) にファイルの内容を簡単にインポートできます。

次に、生成される各種レポートの例を示します。

- **Exchange** メールボックスの準備。プロビジョニンググループを処理する際、プロビジョニングタスクはアーカイブ用に準備されたメールボックスと割り当てられたポリシーについて報告します。
- **PST 移行**。検索移行型ツールの場合、各移行フェーズ (位置検索、収集、移行) 別にレポートがあります。
- **ファイルシステムアーカイブ**の処理。
- **SharePoint** アーカイブの処理。
- 管理コンソールにおいて、Vault Store Usage Reporter は、ボルトストアの使用詳細に関するさまざまなレポートを生成できます。

## イベントと診断のログ

Enterprise Vault は、3 つの Windows イベントログにログを出力します。これらのログを参照するには、Windows イベントビューアを使います。また、他社の各種ツールも Enterprise Vault ログのエントリの監視に使うことができます。

Enterprise Vault で使われるログは次のとおりです。

- **Windows Application Event Log** - 重要と判断されたイベントで使われます。サービスの起動とシャットダウン、サイトのプロパティにある統合監視によって発生したイベントなどのログがここに出力されます。たとえば、データベースのバックアップが最近行われていない場合や、アイテムのバックログがアーカイブ保留の状態のままジャーナルメールボックスに残っている場合などがあります。  
Enterprise Vault は、統合監視からのイベントをログに記録するときに、管理コンソールの[状態]ペインにもそのイベントを表示します。[状態]ペインには、Enterprise Vault システムの健全性を簡単に確認できる方法が表示されます。
- **Enterprise Vault Log** - 重要と判断されなかったすべてのイベントで使われます。たとえば、メールボックスやパブリックフォルダのアーカイブの進捗状況に関連するイベントなどがあります。さらに、Windows Application Event Log に出力されたイベント

が Enterprise Vault Log にも出力されます。したがって、Enterprise Vault Log にはすべてのイベントログの完全なレコードが含まれます。

- Enterprise Vault Convertors Log - 文書変換によって発生したイベントが出力されます。

Enterprise Vault サービスごとに、レポートに出力する診断のレベルを選択できます。診断レポートのログは、Enterprise Vault Log に出力されます。

## 管理コンソールでのシステムの状態

Enterprise Vault では、Enterprise Vault システムの健全性を監視するチェックが自動的に実行されます。チェックで問題が検出された場合、Enterprise Vault は管理コンソールの [状態] ペインにアラートを表示します。

スケジュールされたチェックを待たずに、[状態] ペインからチェックを実行することもできます。

サイトプロパティの [監視] タブで、各チェックを設定できます。各チェックに設定できる内容は次のとおりです。

- しきい値レベル。このしきい値を超えると Enterprise Vault はアラートを表示します。
- 頻度。チェックを実行する頻度です。
- 開始時刻。必要な時刻を指定できます。時刻を選択しない場合、監視処理の開始時と、各チェックに定義した頻度に従って統計が収集されます。

[状態] ペインには、Enterprise Vault システムの健全性を簡単に確認できる方法が表示されます。

## Enterprise Vault Operations Manager

Enterprise Vault Operations Manager は、Internet Explorer がインストールされているどのコンピュータからでも Enterprise Vault をリモート監視できるようにする Web アプリケーションです。

Enterprise Vault Operations Manager を使うと、次の情報を監視できます。

- Enterprise Vault の状態; サービス。
- Enterprise Vault の状態; タスクのアーカイブ。
- ボルトストア、ディスク領域、メモリ、CPU のパフォーマンスカウンタ。
- 受信トレイ、アーカイブ保留、失敗した操作 (DL 拡張の失敗など) のメッセージ数を含む、Exchange Server ジャーナルメールボックスのアーカイブ対象のパラメータ。
- 受信トレイ、アーカイブ保留、失敗した操作のメッセージ数を含む、Domino サーバージャーナルのアーカイブ対象のパラメータ。

- アーカイブディスカバリ検索サービスのコンポーネントと、それらを使って行った検索の状態。

各 Enterprise Vault の監視エージェント; サーバーはスケジュールされた間隔でデータを、通常数分ごとに収集します。このデータは監視データベースに格納されます。

Enterprise Vault Operations Manager Web ページは最後に監視されたシステムのデータを表示します。[概略] ページには状態評価が一目でわかるように表示され、詳細なデータを確認すると、問題とボトルネックを識別できます。

## イベントとパフォーマンスの自動監視

Enterprise Vault にはさらに、自動監視に適用できる次の機構があります。

- 管理コンソールで、サイトのプロパティの[監視]タブを使うと、Enterprise Vault の重要な要素であるパフォーマンス監視を有効にできます。監視対象のアイテムがしきい値に達すると、警告が次の場所に記録されます。
  - 管理コンソールの[状態]ペイン
  - Enterprise Vault イベントログ
  - Windows アプリケーションのイベントログ他のツールを使ってログを監視している場合でも、必要に応じて、このようなメッセージが出力された場合に通知を受け取ることができます。
- Microsoft Operations Manager (MOM) または Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) を使っている場合、提供された Enterprise Vault Management Pack を使って、Enterprise Vault の動作とパフォーマンスを監視し、必要に応じて適切な処理を実行できます。

## メッセージキューの監視

Enterprise Vault では、Microsoft Message Queue (MSMQ) Server を使って、Enterprise Vault コンポーネント間で情報を転送します。発生するおそれのある問題を迅速に見つけることができるように、MSMQ キューを監視することが重要です。

Windows のパフォーマンスモニターを使うと、キューのパフォーマンスを監視できます。Windows パフォーマンスモニターを継続的に実行して、すべてのキューのメッセージ数を表示させると便利です。

キューの正常な動作をすぐに把握できるようになるため、過度のバックログにも気づけるようになります。このようなバックログの原因は、すぐに調査してください。

Enterprise Vault の処理で使われるキューについて詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。



## Enterprise Vault の監査

Enterprise Vault には、Enterprise Vault サーバーごとに有効にできる柔軟性の高い監査機能が組み込まれています。監査イベントは SQL Server データベースに書き込まれます。サイトのすべての Enterprise Vault サーバーに対して 1 つの監査データベースを使えます。

たとえば、監査イベントでは次のような情報が記録されます。

- イベント発生時刻
- イベントを開始したアカウント
- アーカイブされているアイテム
- イベントのカテゴリ (View、Archive、Delete など)

たとえば各種イベントの監査を有効にすることで、次のような詳細情報を取得できます。

- 管理コンソールを使って実行された処理
- 検索
- アイテムの参照
- 削除

大半の種類のイベントでは、詳細レベルとして[概略]または[詳細]、あるいはこの両方を指定できます。

- [概略]を指定すると、イベントに関する情報 (日時、使用アカウント、使用ボルトなど) が記録されます。
- [詳細]を指定すると、メッセージの内容の一部 (件名、メールボックスの所有者、フォルダなど) に関する詳細な情報が記録されます。

監査を有効にすると、パフォーマンスがわずかに低下する点に注意してください。

デフォルトでは、監査は無効になっています。

監査を設定する方法については、『監査』ガイドを参照してください。

## 管理タスクでのスクリプトの使い方

Enterprise Vault Policy Manager を使うと、Enterprise Vault のアーカイブポリシーに従うように、Exchange Server メールボックスとアーカイブをスクリプトで修正、制御できます。

また、Policy Manager を使って、PST ファイルと NSF ファイルの内容を Enterprise Vault に移行することもできます。

Policy Manager を使うと、管理コンソールを使う場合に比べ、個々のメールボックスに対してはるかに特有な方法で設定を適用できます。

たとえば、次のような処理を行うスクリプトを書くことができます。

- 1 カ月を経過したアイテムをすべてアーカイブするフィルタを定義
- すべてのメールボックスに **Personal Archive** というフォルダを作成し、新しいフィルタをフォルダに適用
- [個人]保持カテゴリを新しい **Personal Archive** フォルダに適用

**Policy Manager** は、コマンドプロンプトウィンドウで実行します。初期設定ファイルを使って、メールボックスやアーカイブ、**PST** ファイルや **NSF** ファイルの移行に適用します。

追加のプロビジョニング **API** が利用可能です。この **API** は、たとえば、**Web** ページからメールボックスを自動有効化する際に使えます。また、**Enterprise Vault** の **Policy Manager** とともに使うこともできます。

## 日常の管理タスクのチェックリスト

次に、**Enterprise Vault** システムのパフォーマンスを最適に保つために必要な、日常の主な管理タスクのチェックリストを示します。

- 管理コンソールでのシステム状態の確認
- ログのチェック
- **Enterprise Vault** のタスクとサービスの監視
- タスクとサービスの起動または停止
- **Exchange Server** ジャーナルメールボックスと **Domino** ジャーナルデータベースの監視
- ディスク使用状況の監視
- **MSMQ** キューの監視
- **SQL** データベースの保守
- ボルトストアのバックアップ
- 新しい **Microsoft Exchange Server** メールボックスまたは **Domino** メールファイルのアーカイブの有効化
- **PST** ファイル (個人用フォルダファイル) のインポート
- **NSF** ファイルのインポート
- ライセンスの監視
- 多数のユーザーが共有しているアーカイブにアクセスしたユーザーの一覧の修正

これらのタスクを実行する方法について詳しくは、『Veritas Enterprise Vault™: 管理者ガイド』、『Veritas Enterprise Vault™ バックアップと回復』、『Veritas Enterprise Vault™ NSF 移行』、『Veritas Enterprise Vault™ PST 移行』を参照してください。

FSA プレースホルダショートカットのファイルサーバー上での再作成、NTFS デバイスから Dell EMC Centera デバイスへのアーカイブデータの移動、FSA アーカイブポイントの管理など、さまざまなタスクの実行に利用できる多数のユーティリティが用意されています。

詳しくは『ユーティリティガイド』を参照してください。

# Exchange Server のアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Exchange Server アーカイブとユーザーメールボックスについて](#)
- [Exchange Server とジャーナルメールボックスのアーカイブ](#)
- [Exchange Server アーカイブでアーカイブするアイテムの種類](#)

## Exchange Server アーカイブとユーザーメールボックスについて

ユーザーメールボックスには、さまざまな種類の情報（メッセージ、文書、表計算ワークシート、グラフィック、ボイスメールなど）が保存されています。Enterprise Vault ディレクトリのプロパティまたは Exchange メールボックスポリシーで、Enterprise Vault がアーカイブするアイテムの種類（メッセージクラス）を指定できます。

p.74 の「[Exchange Server アーカイブでアーカイブするアイテムの種類](#)」を参照してください。

Enterprise Vault では、ユーザーメールボックスからアイテムをアーカイブするために Exchange メールボックスタスクを作成します。タスクでアーカイブするユーザーメールボックスは、[対象]を使って定義します。Enterprise Vault は、アーカイブするユーザーメールボックスごとに、アーカイブを自動的に作成します。メールボックスのアーカイブ方法は、Exchange メールボックスポリシーに定義されます。

1 つの Enterprise Vault サイトで複数の Exchange ドメイン (Active Directory の Exchange 組織) にサービスを提供できます。ポリシーを使うと、ドメイン内のすべてのユーザーに同じアーカイブ戦略を適用したり、ドメイン内の複数のユーザーグループに個別のアーカイブ戦略を適用したりできます。

Exchange 環境でデータベース可用性グループ (DAG) を使う場合は、DAG のすべてのメンバーにアーカイブを設定してください。

メールボックスのアーカイブでは、ユーザーのコンピュータに格納された PST ファイル内の情報は自動的にアーカイブされません。ただし、管理者は、Enterprise Vault の PST 移行ツールを使って、PST ファイルからユーザーメールボックスのアーカイブにアイテムをコピーできます。

p.58 の「[PST ファイル内容のアーカイブ方法](#)」を参照してください。

## Exchange プロビジョニングタスク

プロビジョニンググループを使って、同じアーカイブポリシーでアーカイブされるユーザーメールボックスをグループ化します。

次のいずれかを使って、プロビジョニンググループに関連付けされたメールボックスを選択できます。

- Windows グループ
- Windows ユーザー
- 配布グループ (Active Directory で「グループの種類」の「配布」のもの)
- 組織単位
- LDAP クエリー
- Exchange Server 組織全体

この場合、プロビジョニンググループは Exchange プロビジョニングタスクによって処理されます。このタスクによって、各メールボックスに正しいポリシー設定が割り当てられます。

たとえば、メールボックスを別の Exchange Server に移動した場合、関連付けされたアーカイブにメールボックスを再リンクするときにもプロビジョニングタスクが使われます。

## Exchange メールボックスアーカイブタスク

管理コンソールでは、[Enterprise Vault サーバー]にある必要な Enterprise Vault サーバーで、アーカイブ対象のユーザーメールボックスがある各 Exchange Server に対する Exchange メールボックスアーカイブタスクを作成できます。これらのタスクはタスク制御サービスによって管理されます。

Exchange メールボックスアーカイブタスクには次の機能があります。

- Exchange プロビジョニングタスクによって処理されたメールボックスを有効にします。Exchange メールボックスアーカイブタスクによって、メールボックスのアーカイブが作成され、アーカイブ対象メールボックスが有効になります。  
作成された新しいメールボックスは、プロビジョニンググループの設定に応じて、手動または自動で有効にできます。

- 各メールボックスにアクセスし、メールボックスのポリシーセットに従ってアイテムをアーカイブします。タスクは、インデックスサービスとストレージサービスと連動して動作します。インデックスサービスはアイテムを変換してインデックスを付け、ストレージサービスは関連付けされたアーカイブにアイテムを圧縮して格納します。  
インデックスサービスとインデックスレベルは、**Enterprise Vault** 管理コンソールツリーのさまざまな場所で使うように指定できます。
- メールボックスフォルダは、関連付けされているメールボックスアーカイブに複製され、フォルダの権限も複製されます。アーカイブタスクは、**Outlook** でのフォルダ権限とアーカイブでのフォルダ権限を同期します。つまり、他のユーザーが **Outlook** フォルダへのアクセスを許可されている場合、そのユーザーはメールボックスアーカイブのそのフォルダへのアクセス権限も持つことになります。  
必要に応じて、複数のユーザーがアクセスできる共有アーカイブを設定できます。たとえば、法務関連スタッフのすべてのメールボックスにケースのフォルダを設定し、各メールボックスで、フォルダを共有アーカイブにアーカイブするように設定できます。  
メールボックスのアーカイブと異なり、共有アーカイブにはフォルダは含まれません。

実際にアーカイブを実行せずに、アーカイブされるアイテム数を見積もるには、レポートモードでタスクを実行します。

**Exchange** メールボックスアーカイブタスクは、**Enterprise Vault** サイトに定義されたスケジュールに従って自動的に実行されます。

## Exchange のアーカイブ対象

[ターゲット]、[Exchange]の順に選択して管理コンソールで、作成したメールボックスの中でアーカイブするメールボックスをアーカイブ対象で定義します。**Active Directory** で **Exchange** 組織として定義した **Exchange** ドメイン全体、**Exchange** 組織内のユーザーグループ、個々のユーザーをアーカイブの対象にできます。**Enterprise Vault** の **Exchange** 組織内には複数の **Exchange** サーバーを加えることができます。**Exchange** サーバーのメールボックスのアーカイブ対象は、プロビジョニンググループを使って定義します。

プロビジョニンググループには、次のような設定を行うことができます。

- アーカイブ対象グループに使う **Exchange** メールボックスポリシーとデスクトップポリシー
- アーカイブするアイテムに使うデフォルトの保持カテゴリや保持計画
- アーカイブを格納するボルトストア
- 使用するインデックスサービス
- メールボックスのアーカイブを自動的に有効化するかどうか
- アーカイブする **PST** ファイルの内容をインポートするポリシー

Exchange メールボックスポリシーとデスクトップポリシーは、各プロビジョニンググループに関連付けられます。それと同時に、これらのポリシーはユーザーグループのメールボックスのアーカイブ方法、利用可能な Enterprise Vault 機能という点から見たユーザーデスクトップエクスペリエンスを定義します。さまざまなユーザーグループにさまざまな設定を使う場合は、管理コンソールで各ユーザーグループのプロビジョニンググループ、各グループの適切な Exchange メールボックスポリシーとデスクトップポリシーを作成する必要があります。

## Exchange メールボックスポリシー

Enterprise Vault 管理コンソールで、[ポリシー]、[Exchange]、[メールボックス]の順に選択して、メールボックスのアーカイブポリシーを作成します。

Exchange メールボックスポリシーは、対象のメールボックスを処理する際、使用するアーカイブタスクについて次のような情報を提供します。

- 使用するインデックスレベル。
- アーカイブ戦略。次のいずれかに基づいて、Exchange メールボックスポリシーのアーカイブ戦略を決めることができます。
  - 経過日数: アイテムは指定した時間変更しないとアーカイブされます。
  - クォータ: アーカイブでは、ユーザーごとに Exchange メールボックスの空き容量の限度の割合が維持されます。
  - 経過日数とクォータ: Enterprise Vault は経過日数に基づくアーカイブを最初に実行します。経過日数に基づくアーカイブで必要なメールボックスの空き容量の限度の割合が確保できない場合は、必要な割合に達するまでクォータに基づくアーカイブが続行されます。
- 元のアイテムの削除やアイテムをアーカイブした後のショートカット作成などのアーカイブ処理。
- ショートカットを作成するかどうかとショートカットに何を含めるか。
- Exchange が管理するフォルダからアイテムをアーカイブするか、Enterprise Vault で Exchange が管理する内容設定に基づく保持設定を使うか。
- アーカイブするアイテムの種類 (メッセージクラス) (管理コンソールのディレクトリプロパティで、メッセージクラスのデフォルト一覧を設定できます。)

ポリシーの設定をロックして、ユーザーが Outlook クライアントで設定を変更できないようにすることができます。これは、メールボックスポリシーのプロパティの[アーカイブ処理]タブで行うことができます。

## Exchange デスクトップポリシー

Exchange デスクトップポリシーで、Enterprise Vault Exchange クライアントを使うときのエンドユーザーの使用範囲を定義します。これらのクライアントで利用可能な Enterprise Vault の機能を制御する設定が含まれます。

デスクトップポリシーの設定には、次のようなオプションがあります。

- [ボルトの検索]、[ボルトに格納]、[ボルトから復元]、[ボルトから削除]などの Enterprise Vault のボタンやメニューオプションを表示または非表示にします。
- ユーザーがショートカットを削除するときの削除の動作をカスタマイズします。
- ユーザーの Web ブラウザのローカルイントラネットゾーンにすべてのサーバーを追加して、ユーザーが自分のアーカイブを検索したり、アーカイブ済みアイテムを表示または復元したりするときにログオン情報の入力を求めるメッセージが表示されないようにする
- ボルトキャッシュの可用性、最大サイズ、利用可能な機能を制御します。
- 仮想ボルトの可用性と動作を制御します。
- Enterprise Vault の Exchange フォームを配備する方法を変更します。

Enterprise Vault Administration Console で、[ポリシー]、[Exchange]、[デスクトップ]の順に選択して Exchange デスクトップポリシーを作成します。プロビジョニンググループを作成するとき、デスクトップポリシーをそのグループに割り当てます。異なるプロビジョニンググループで別のデスクトップポリシー設定を使う場合は、複数のポリシーを作成できます。

## Exchange アーカイブのフィルタ

拡張フィルタ機能を使うと、アーカイブタスクで特定のメッセージを処理する方法をカスタマイズできます。メッセージは、サードパーティアプリケーションによって追加される送信者、受信者、件名、メッセージの方向またはカスタム MAPI プロパティなどのさまざまな属性でフィルタ処理できます。XML 設定ファイルを使って、フィルタのルールを満たすメッセージの必須処理を定義できます。たとえば、異なる保持カテゴリを指定し、異なるアーカイブにアーカイブしている特定のドメインアーカイブからメッセージを送信できると便利です。

カスタムフィルタ機能は、企業がアイテムにカスタム MAPI プロパティを追加して、これらのカスタムプロパティを使ってアーカイブアイテムを検索する場合に有用です。XML 設定ファイルを使って、メッセージをアーカイブするときに Enterprise Vault でインデックス付けするカスタムプロパティを指定できます。

検索インターフェースで利用可能なプロパティを XML 設定ファイルで定義します。専用の検索アプリケーションがインストールされている場合は、これらのプロパティの検索オプションを表示する方法も定義できます。また、Enterprise Vault Search を使ってカスタムプロパティを検索することもできます。



API を使って、専用のアーカイブ検索アプリケーションにカスタムプロパティ検索を追加することもできます。

カスタムフィルタは、特定の種類の Exchange Server アーカイブ (メールボックス、パブリックフォルダ、ジャーナルアーカイブ) に設定できます。必要に応じて、カスタムフィルタを特定のメールボックスに制限できます。

カスタムフィルタとプロパティの設定方法は、『Exchange Server アーカイブの設定』ガイドで説明しています。

このインターフェース用に記述されたカスタムフィルタが必要な場合は、ベリタスソリューションプロバイダに連絡してください。

## Exchange Server とジャーナルメールボックスのアーカイブ

Exchange Server で送受信されたすべてのメッセージのコピーが、受信者のメールボックスだけでなく、ジャーナルメールボックスにも直接送信されるように、Exchange Server を設定することができます。これは特に、会社の電子メール監視ポリシーを実装する場合に役立ちます。また、後日に法的証拠として電子メールを生成しなければならない可能性がある場合は、必須となります。

管理コンソールで Enterprise Vault Exchange ジャーナルアーカイブを設定する場合は、Exchange ジャーナルの対象、ポリシー、タスクを追加します。Enterprise Vault でアーカイブされる Exchange ジャーナルメールボックスごとに、アーカイブを作成することもできます。

アーカイブは Exchange ジャーナルタスクによって実行されます。これらのタスクの中の 1 つで、複数のジャーナルメールボックスを処理できます。Exchange ジャーナルタスクはタスク制御サービスの制御下で実行されます。

Exchange Server ジャーナルメールボックスアーカイブは、ジャーナルメールボックスに送信されたすべての種類のメッセージをアーカイブします。Enterprise Vault Directory のプロパティ内で定義されたメッセージクラスは考慮されません。

ジャーナルメールボックス内のアイテムをアーカイブするか、またはボルトストアをバックアップすると、メールボックスからこれらのアイテムが削除されます。ショートカットは作成されません。ジャーナルアーカイブへのアクセス権限を持つ管理者は、メッセージを検索できます。ジャーナルされたアイテムは機密である可能性があるため、これらのアクセス権は信頼できる少数のユーザーにのみ付与することが重要です。

p.74 の「[Exchange Server アーカイブでアーカイブするアイテムの種類](#)」を参照してください。

Enterprise Vault Exchange ジャーナルタスクは、エンベロープジャーナルが有効な Exchange Server から送信されたすべてのメッセージを自動的に検出して、適切に処理します。

Enterprise Vault でエンベロープジャーナルがどのようにサポートされているかについて詳しくは、『Exchange Server アーカイブの設定』ガイドを参照してください。

ジャーナルされたデータには、Enterprise Vault Accelerator 製品を使うことができます。Discovery Accelerator には法的証拠開示の機能があり、検索、レビューシステム、発行などの機能を使うことができます。Compliance Accelerator には、サンプリング、検索、レビューシステムなどのメッセージ監視機能があります。

ジャーナルを行うと大量のデータが生成されるため、Enterprise Vault を使って Exchange Server のディスク使用容量を制御し、ジャーナルメールボックスの内容を継続的にアーカイブすることができます。

## Exchange Server とジャーナルのフィルタ

ジャーナルの選択とグループ化によって、ジャーナルメールボックスのメッセージの簡易フィルタを設定できます。「外部フィルタ」という特殊なフィルタを設定すると、特定のメッセージの処理方法を定義できます。たとえば、システムメッセージや不在時の自動返信メッセージをアーカイブしないようにしたり、あるユーザーグループから別のユーザーグループに送信されたメッセージを識別したりするようにすると便利です。

カスタムフィルタを設定すると、ジャーナルメールボックスのアーカイブ時に適用可能なさまざまなフィルタルールによって、高度なジャーナルフィルタを利用できます。

p.72 の「[Exchange アーカイブのフィルタ](#)」を参照してください。

## Compliance Accelerator および Exchange のジャーナリング

Enterprise Vault Compliance Accelerator は、Exchange ジャーナルタスクと連携して Exchange ジャーナルメールボックスからアーカイブされているメッセージのサンプルをランダムに取得し、コンプライアンス担当者がレビューするメッセージのセットに自動的に追加します。必要なサンプルのサイズは設定可能です。

# Exchange Server アーカイブでアーカイブするアイテムの種類

Exchange Server では、アイテムはメッセージクラスによって分類されます。Enterprise Vault は、異なるアイテムを識別するため、次の事前定義済みメッセージクラスを備えています。

表 4-1 定義済みメッセージクラス

アイテムの種類	メッセージクラス	デフォルトでアーカイブされるかどうか
カレンダーアイテム	IPM.Appointment	いいえ

アイテムの種類	メッセージクラス	デフォルトでアーカイブされるかどうか
連絡先アイテム	IPM.Contact	いいえ
マニュアル	IPM.Document	はい
メモ	IPM.Stickynote	いいえ
電子メールメッセージ	IPM.Note	はい
履歴メッセージ	IPM.Activity	いいえ
フォルダへの投稿メッセージ	IPM.Post	はい
作業	IPM.Task	いいえ

Enterprise Vault 管理コンソールを利用すれば、アーカイブするアイテムの種類を選択できるようにメッセージクラス一覧をカスタマイズできます。この一覧は、[ディレクトリプロパティ]ダイアログボックスの[メッセージクラス]タブで定義されています。

Enterprise Vault は Exchange ジャーナルアーカイブを除き、メッセージクラスが設定されたアイテムをアーカイブします。Exchange ジャーナルアーカイブでは、設定されたクラスに関係なく、ジャーナルメールボックスに送信されるすべてのアイテムが格納されます。必要に応じて、Exchange パブリックフォルダポリシーまたは Exchange メールボックスポリシーでアーカイブするようにメッセージクラスをカスタマイズすることができます。

# Exchange パブリックフォルダアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Exchange パブリックフォルダタスク、対象、ポリシー](#)
- [Exchange パブリックフォルダタスクのアーカイブ方法](#)
- [Exchange パブリックフォルダのアーカイブへのユーザーアクセス](#)

## Exchange パブリックフォルダタスク、対象、ポリシー

パブリックフォルダのアーカイブを有効にするには、1 つ以上の **Exchange** パブリックフォルダタスクを追加します。**Exchange** パブリックフォルダタスクは、タスク制御サービス上で実行します。

**Exchange** パブリックフォルダタスクは、アーカイブ対象パブリックフォルダをアーカイブします。**Exchange** パブリックフォルダタスクごとに、複数のアーカイブ対象パブリックフォルダを処理できます。アーカイブ対象パブリックフォルダは、それぞれのルートパスを起点に下位層をとまなう単一のパブリックフォルダ階層になります。既存のアーカイブ対象パブリックフォルダのルートパスよりも上位のルートパスを持つアーカイブ対象パブリックフォルダを追加できます。下位のルートパスにはアーカイブ対象パブリックフォルダを追加できません。

アーカイブ対象パブリックフォルダを追加するときに、この対象に使うボルトストアとアーカイブを選択します。このアーカイブはパブリックフォルダアーカイブにする必要がありますが、ボルトストアは、メールボックスアーカイブなど他のアーカイブの種類に使うものと同じものでもかまいません。必要に応じて、複数のアーカイブ対象パブリックフォルダに同じアーカイブを使うこともできます。アーカイブ対象パブリックフォルダのアーカイブ設定を変更するには、パブリックフォルダへの所有者アクセス権が必要になります。

それぞれのアーカイブ対象 Exchange パブリックフォルダには、Exchange パブリックフォルダポリシーが割り当てられます。これは、タスクでパブリックフォルダ内のアイテムをアーカイブする方法を定義します。

Exchange パブリックフォルダタスクは、各対象のルートパスの下にあるすべてのフォルダを処理します。ただし、別の Exchange パブリックフォルダタスクが処理しているフォルダと、アーカイブを禁止にしたフォルダ (これは、Outlook でパブリックフォルダの Enterprise Vault プロパティを使うか、またはアーカイブ対象パブリックフォルダのプロパティで設定できます) を除きます。

必要に応じて、アーカイブ対象のアイテムをパブリックフォルダから選択するようにカスタムフィルタを設定できます。

指定したルートの下の新しいパブリックフォルダは、アーカイブ対象パブリックフォルダを自動有効化として設定することにより、自動的に対象として追加できます。新しいパブリックフォルダを対象ルートの下に追加すると必ず、そのフォルダのアーカイブが自動的に有効になり、そのフォルダとすべてのサブフォルダに対して新しいアーカイブが作成されます。

この機能は、非常に多数のアーカイブが作成される結果を招くことがあるため、注意して使ってください。ただし、新しい訴訟ごとにフォルダを作成する法務部門などの一部の組織では、この機能が役立ちます。

パブリックフォルダの自動有効化は、他のタスクの対象を生成できます。大規模なシステムでは、新しいパブリックフォルダのスキャンに時間がかかることがあります。したがって、新しい対象を他のタスクに渡せば、フォルダの内容の処理がスキャンによって妨げられずに済みます。

## Exchange パブリックフォルダタスクのアーカイブ方法

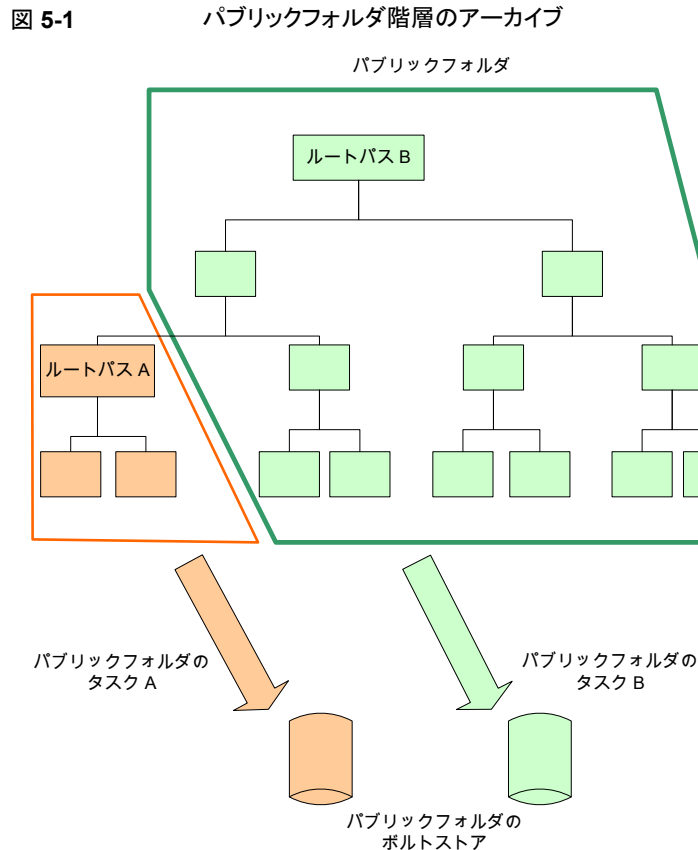
新しい Exchange パブリックフォルダタスクを追加すると、このタスクはスケジュールされた時刻に実行され、それぞれの対象フォルダからアーカイブが作成されます。

各フォルダに対して、Exchange パブリックフォルダタスクは次のように処理します。

- フォルダのアクセス権限と同じ権限を、フォルダのアーカイブに設定します。
- フォルダに明示的な Enterprise Vault アーカイブ設定が与えられている場合、この設定に従って Exchange パブリックフォルダタスクはアーカイブを作成します。このような設定が与えられていない場合、Exchange パブリックフォルダタスクは、Exchange パブリックフォルダポリシーで定めたデフォルト設定を使います。
- フォルダが、別の Exchange パブリックフォルダタスクが処理しているアーカイブ対象パブリックフォルダのルートパスになっている場合、このフォルダとその下位のフォルダはアーカイブしません。
- フォルダにアクセスできない場合、Exchange パブリックフォルダタスクは、このフォルダとその下位のフォルダをアーカイブしません。

他の種類のファイルのアーカイブと同様に、ストレージサービスは、可能ならばパブリックフォルダのアイテムを **HTML** に変換して、アーカイブに格納します。インデックスサービスは、検索を行えるように、アイテムの詳細と内容にインデックスを付けます。パブリックフォルダに使われるアーカイブは、管理コンソール内のプロパティを編集することによって、いつでも変更できます。

図 5-1 では、Exchange パブリックフォルダタスク A と B でアーカイブされるパブリックフォルダの階層を示しています。



タスク B がタスク A のルートフォルダを認識すると、そこから下位のフォルダはアーカイブしません。

既存の Exchange パブリックフォルダタスクによってすでにアーカイブされているルートパスを持つアーカイブ対象パブリックフォルダを追加できないため、ルートパス A のアーカイブが、ルートパス B のアーカイブより前に作成されていることに注意してください。

# Exchange パブリックフォルダのアーカイブへのユーザーアクセス

表 5-1 に、異なるアクセスレベルのユーザーが Exchange パブリックフォルダのアーカイブで実行できるアクティビティを示します。

表 5-1 Exchange パブリックフォルダのアーカイブで許可されているアクティビティ

アクセスレベル	許可されているアクティビティ
Read	<ul style="list-style-type: none"><li>■ アーカイブ済みアイテムの内容を表示します。</li><li>■ パブリックフォルダのアーカイブから自身のメールボックスに復元します。ユーザーは最初に、Outlook にユーザー自身のメールボックスへのショートカットをコピーしておく必要があります。</li></ul>
書き込み	Read の他に次のこともできます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ フォルダの Enterprise Vault の設定を変更します。</li></ul>
所有者	Write の他に次のこともできます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ フォルダから手動でアーカイブします。</li><li>■ アイテムをフォルダに復元します。</li></ul>

Enterprise Vault がルートパスフォルダに配置するマーカーが削除されるので、アーカイブ対象パブリックフォルダを削除する場合は、管理コンソールを使います。

# ファイルシステムアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [ファイルシステムアーカイブについて](#)
- [ファイルアーカイブのポリシーについて](#)
- [ファイルシステムアーカイブによるショートカットファイルについて](#)
- [ファイルシステムアーカイブの設定について](#)
- [クラスタ環境でのファイルシステムアーカイブ](#)
- [ファイルシステムアーカイブの処理](#)
- [ファイルシステムアーカイブによる古いバージョンのアーカイブファイルの処理](#)
- [ファイルシステムアーカイブによる権限の同期](#)
- [ファイルシステムアーカイブレポート](#)
- [ファイルシステムアーカイブによるファイルの復元方法](#)
- [FSAUtility について](#)
- [ファイルシステムアーカイブを使ったショートカットファイルのバックアップとスキヤンの設定方法](#)
- [ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻し](#)
- [保持フォルダとファイルシステムアーカイブ](#)
- [FSA レポート](#)



## ファイルシステムアーカイブについて

Enterprise Vault ファイルシステムアーカイブ (FSA) を設定してネットワーク共有からファイルをアーカイブできます。ユーザーは、Enterprise Vault 検索などの機能を使うか、または元の場所のショートカットを使ってアーカイブされたファイルにアクセスできます。

Enterprise Vault [Compatibility Charts](#) に、Enterprise Vault が FSA に対してサポートする対象プラットフォーム、オペレーティングシステム、プロトコルの詳細な一覧が記載されています。また、アーカイブ済みアイテムへのインターネットショートカットとプレースホルダショートカットを開くなど、アーカイブ済みアイテムのクライアントアクセスがサポートされているオペレーティングシステムの一覧も記載されています。

ファイルシステムからアーカイブすることで、アーカイブするボリュームに関して次のような直接的なメリットを得ることができます。

- ファイルのアーカイブが容易になります。たとえば法律上の必要性から、アーカイブシステムにファイルを追加する場合があります。アーカイブポリシーを作成すると、すべてのファイルを即座にアーカイブできます。
- アーカイブするファイルのインデックスが作成されるため、ファイルの検索が可能になります。
- 以前のバージョンのアーカイブファイルが保持されます。ユーザーがアーカイブファイルの新しいバージョンを作成すると、管理者が定義したルールと一致したときに新しいバージョンがアーカイブされます。それ以前のアーカイブファイルのすべてのバージョンが保持され、検索できます。
- ディスク領域の使用率をすぐに低減できます。

保持フォルダ機能を使って、ファイルサーバー上にフォルダの階層を自動的に作成できます。また、Enterprise Vault で管理し、割り当てられたポリシーに従ってアーカイブできます。たとえば、すべてのユーザーのホームフォルダに保持フォルダの階層を作成することができます。

FSA レポートによって、ファイルサーバー上のアクティブなデータや、そのサーバーからアーカイブされたデータについての概略レポートが提供されます。

別冊のガイドには、Enterprise Vault でファイルシステムアーカイブを実装するためのベストプラクティスの情報も含まれています。Veritas 社のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100007315>

Enterprise Vault でアーカイブされたコンテンツを持つファイルサーバーの移行と統合についての詳細は、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100004422>

## ファイルアーカイブのポリシーについて

Enterprise Vault 管理コンソールで、FSA によってアーカイブするファイルを制御するファイルアーカイブポリシーを定義します。ポリシーはディスク全体 (ボリュームポリシー) に対して適用したり、必要に応じてフォルダとサブフォルダ (フォルダポリシー) に対して適用したりできます。

1 つのポリシーは、Enterprise Vault でアーカイブするファイルの選択条件を定義した 1 つ以上のアーカイブルールで構成されます。必要に応じて任意の順序でアーカイブルールを適用できます。他のポリシー設定と組み合わせると、必要なファイルを正確にアーカイブするための柔軟性の高いメカニズムとして使えます。

たとえば、次の作業を行うアーカイブポリシーを作成できます。

- ボリュームの使用率が **80%** に達するとアーカイブを開始し、**60%** になるまで続けます。
- 隠しファイルとシステムファイル以外の、**30 日**以上経過した古いファイルをすべてアーカイブします。
- **3 日**以上経過した **20 MB** を超える \*.zip ファイルと \*.avi ファイルをアーカイブします。
- 先週アクセスされなかった \*.bak ファイルをアーカイブせずに削除します。
- \*.doc ファイルをアーカイブし、最後に修正されてから **1 カ月**後に各ファイルのショートカットを作成します。

必要なファイルの種類をポリシーにすばやく追加できるように、多数の事前定義済みのファイルグループを利用できます。

ファイルシステムアーカイブでは、すべての種類のファイルをアーカイブできます。ただし、実行可能ファイルや .PST ファイルなど、一部のファイルの種類はファイルアーカイブに適用していません。デフォルトのボリュームポリシーとデフォルトのフォルダポリシーはアーカイブとショートカットの作成から不適切なファイルの種類を除外するために使うことができるアーカイブルールを含んでいます。詳しくは『ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定』を参照してください。

## ファイルシステムアーカイブによるショートカットファイルについて

ファイルのアーカイブ時に、Enterprise Vault はオプションで次のいずれかの種類のショートカットを残すことができます。

- インターネット (URL) ショートカット。これは、アーカイブされたファイルへのハイパーリンクを含む .url テキストファイルです。

- プレースホルダ。これは、元のファイルとまったく同じように見えますが、開くと、**Enterprise Vault** がアーカイブ済みファイルをフェッチする特殊なファイルです。
- フォルダのショートカット。これは、アーカイブフォルダへのハイパーテキストリンクを含んでいる `.url` ファイルです。

インターネットショートカットは、ネットワーク共有上に配置できます。ユーザーがインターネットショートカットをダブルクリックすると、アーカイブファイルが取り込まれ、該当するアプリケーションに表示されます。

インターネットショートカットをアプリケーション内から開くと、アプリケーションはショートカットではなく、アーカイブファイルの内容を開きます。

インターネットショートカットの拡張子は `.url` です。この拡張子はファイルの既存の拡張子に追記されます。たとえば、`document1.docx` という **Word** 文書ファイルのショートカットは `document1.docx.url` となります。元の拡張子が含まれているため、インターネットショートカットが参照する元のファイルの種類を判断できます。

---

**メモ:** **Windows** エクスプローラのオプション[登録されている拡張子は表示しない]を選択しても、**Windows** はインターネットショートカットの元のファイルの種類を表示します。たとえば、インターネットショートカット `document1.docx.url` は `document1.docx` として表示されます。

---

インターネットショートカットには、**Windows** デバイスと **Windows** 以外のデバイスの両方で使えるという利点があります。

プレースホルダショートカットは元のファイルとまったく同じように機能します。プレースホルダショートカットには、ショートカットを作成する元のファイルと同じファイルの拡張子が付けられます。ユーザーがプレースホルダショートカットを開くと、元のファイルが自動的に取り込まれます。

**表 6-1** に、プレースホルダを開くとき、コピーするとき、移動するとき、または削除するときの動作を示します。

表 6-1 プレースホルダショートカットの特性

プレースホルダに対する操作	効果
開く	<p>ファイルがアーカイブから呼び戻されます。</p> <p><b>メモ:</b> パススルー呼び戻しが有効になっている場合は、呼び出し元のアプリケーションで書き込み可能なバージョンが必要なときのみ、Enterprise Vault はファイルをディスクに呼び戻します。</p> <p>p.95 の「<a href="#">ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻し</a>」を参照してください。</p> <p>プレースホルダショートカットはファイルサーバーに呼び戻されたファイルに置き換えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 呼び戻されたファイルが未修正のままの場合は、Enterprise Vault によって、次のアーカイブサービスの実行時にプレースホルダに変換されます。唯一の例外は、アーカイブポリシーのショートカット作成ルールが最終アクセス時刻に基づいている場合です。その場合は、ショートカット作成ルールが満たされているときにだけ、Enterprise Vault によってファイルが元に戻されます。</li> <li>■ 呼び戻されたファイルが修正済みになっている場合は、Enterprise Vault によって、アーカイブポリシーのショートカット作成ルールに従ってファイルがプレースホルダに変換されます。</li> </ul>
コピー	<p>ソースファイルが復元されてからコピーされます。コピー先のファイルは、復元された元のファイルのコピーです。</p> <p><b>メモ:</b> パススルー呼び戻しが有効になっている場合、コピー操作を行ってもソースファイルはディスクに復元されません。</p> <p>p.95 の「<a href="#">ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻し</a>」を参照してください。</p> <p>Enterprise Vault は、次のアーカイブサービスが実行されるときに、復元された元のファイルをプレースホルダに変換し直します。唯一の例外は、アーカイブポリシーのショートカット作成ルールが最終アクセス時刻に基づいている場合です。その場合は、ショートカット作成ルールが満たされているときにだけ、Enterprise Vault によってファイルが元に戻されます。</p>
移動	<p>移動先が同じボリューム上にある場合、プレースホルダが移動されます。</p> <p>移動先が別のボリューム上にある場合、アーカイブファイルが復元された後、移動先に移動されます。</p>

プレースホルダに対する操作	効果
削除	<p>必要に応じて、プレースホルダが削除されたときにアーカイブ済みのファイルが削除されるように <b>Enterprise Vault</b> を設定できます。ファイルサーバーでオプションを設定して、適切な設定のアーカイブポリシーを適用する必要があります。</p> <p>詳しくは『ファイルシステムアーカイブの設定』を参照してください。</p>

プレースホルダショートカットは、NTFS デバイス、NetApp Filer、Dell EMC Celerra/VNX デバイスでサポートされています。正確な必要条件について詳しくは、「Enterprise Vault Compatibility Charts」を参照してください。

**メモ:** NetApp C-Mode Filer では、50 MB を超える大きいファイルの呼び戻しがタイムアウトする場合があります。Vserver のタイムアウト値を増やす方法について詳しくは、NetApp のマニュアルを参照してください。

アーカイブポリシーでは、Enterprise Vault によってショートカットが作成される時間を制御できます。たとえば、Microsoft Office ファイルをアーカイブするルールを作成するとします。そのルールでは、もとのファイルをディスクに残して、後でショートカットを作成します。Enterprise Vault では、次のいずれかに従ってファイルへのショートカットを作成することができます。

- アーカイブ時刻
- 最終アクセス時刻
- 最終更新時刻
- 作成時刻

このようなルールを作成すると、編集をできるようにしながら、安全にファイルをアーカイブできます。ファイルの変更を頻繁に行わなくなった時点で、アーカイブされたコピーへのショートカットが Enterprise Vault で作成されます。

フォルダのショートカットは、ファイルシステムアーカイブタスクでフォルダをアーカイブするときに Enterprise Vault がターゲットフォルダ内に作成する .url ファイルです。ユーザーが .url ファイルをダブルクリックすると、Enterprise Vault の Enterprise Vault Search にアーカイブファイルが元のフォルダ構造で表示されます。Enterprise Vault Search では、全体のフォルダ階層を表示するためのリンクと一緒に、アーカイブ内のフォルダとサブフォルダのみが表示されます。

フォルダのショートカットはデフォルトで無効になります。関連付けられた FSA ボリュームポリシーの設定を編集することによってフォルダのショートカットを有効にすることができます。フォルダのポリシーレベルでフォルダのショートカットを有効にするオプションはありません。

せん。フォルダのショートカットを無効にすると、既存の **url** ファイルは通常どおりに機能し続けます。

フォルダのショートカットには **.url** のファイル拡張子があります。デフォルトのファイル名は **[View Archived Files].url** です。サイトプロパティを編集することによってフォルダのリンクファイルの名前を変更できます。ファイルシステムアーカイブタスクは、今後実行するときに新しい名前で新しいフォルダのリンクファイルを作成します。フォルダショートカット名をカスタマイズした場合は、ファイルシステムアーカイブタスクによって古い **.url** ファイルが削除されないため、複数のフォルダショートカットのファイルが表示される可能性があります。

ファイルシステムアーカイブタスクは、作成および更新されているフォルダショートカットの詳細を **Reports\FSA** のレポートファイルに記録します。

## ファイルシステムアーカイブの設定について

簡単に、ファイルシステムアーカイブを設定するには次のタスクがあります。

- 必要に応じてファイルサーバーを準備してから、対象ファイルサーバーとして追加します。プレースホルダショートカットを残すか、**FSA** レポート用のデータを収集する **Windows** ファイルサーバーに、**Enterprise Vault FSA** エージェントをインストールする必要があります。
- 対象ボリュームからアーカイブする方法と内容を定義するためにボリュームポリシーを作成します。また、任意で特定の対象フォルダのボリュームポリシーを上書きするためにフォルダポリシーを作成できます。
- ターゲットボリュームを追加し、ボリュームポリシーを割り当てます。
- 対象フォルダを追加して、親ボリュームポリシーまたはフォルダポリシーを割り当てます。別のアーカイブに関連付ける各フォルダのアーカイブポイントを定義できます。アーカイブポイントが付いているフォルダはアーカイブの先頭を形成します。フォルダとそのサブフォルダのファイルが、同じアーカイブに格納されます。
- 必要に応じて、保持フォルダ、**FSA** レポートなどの他の機能を設定します。
- ファイルシステムアーカイブタスクを設定して、アーカイブと関連付けられたアクティビティをスケジュールし、アーカイブが動作するモードを判断します。

表 6-2 に、ファイルシステムアーカイブを制御するために使うことができる **Enterprise Vault** 管理コンソールコンテナのプロパティを示します。

表 6-2 管理コンソールによるファイルシステムアーカイブの制御

アイテム	プロパティ
対象ファイルサーバー ([対象]、[ファイルサーバー]内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ファイルサーバーをアーカイブするかどうか</li> <li>■ プレースホルダショートカットのパススルー呼び戻しの設定</li> <li>■ プレースホルダ削除時のアーカイブ済みファイルの削除の設定</li> <li>■ FSA レポートの設定</li> </ul>
対象ボリューム ([対象]、[ファイルサーバー]、<サーバー>内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボリュームをアーカイブするかどうか</li> <li>■ ボリュームを処理するファイルシステムアーカイブタスク</li> <li>■ ボリュームを処理した場合適用するファイルシステムアーカイブポリシー</li> <li>■ NTFS ボリュームの場合、このボリュームのプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻しを有効にするかどうか</li> </ul> <p>対象ボリュームはファイルシステムアーカイブタスクのスケジュールに従って処理されますが、[今すぐ実行]タスクオプションを使って手動で処理できます。</p>
対象フォルダ ([対象]、[ファイルサーバー]、<サーバー>、<ボリューム>内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ フォルダをアーカイブするかどうか</li> <li>■ フォルダのサブフォルダをアーカイブするかどうか</li> <li>■ フォルダを処理した場合適用する FSA ポリシー</li> <li>■ アーカイブの先頭を形成するフォルダを示すアーカイブポイントの場所</li> </ul>
ボリュームポリシー ([ポリシー]、[ファイル]内)	<p>各対象ボリュームには、次の内容を定義するボリュームポリシーを割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NTFS ボリュームにクォータを使うかどうか。</li> <li>■ 残すショートカットの種類 (ショートカットを作成するようにアーカイブルールが指定されている場合)。</li> <li>■ プレースホルダショートカット: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プレースホルダの削除時にアーカイブ済みファイルを削除するかどうか。</li> <li>■ アーカイブから削除されるアイテムのプレースホルダを削除するかどうか。</li> </ul> </li> <li>■ アーカイブ済みファイルに対して使う保持カテゴリまたは保持計画。</li> <li>■ 適用するアーカイブルール。これらのルールはアーカイブするファイルとショートカットを作成するタイミングを判断します。</li> <li>■ 明示的な権限を持つファイルおよびダイナミックアクセス制御の管理下にあるファイルをアーカイブするかどうかこれらのファイルはアーカイブされたときの権限の変更に従います。</li> </ul>

アイテム	プロパティ
フォルダポリシー ([ポリシー]、[ファイル]内)	<p>フォルダポリシーは省略可能です。特定のフォルダに対するボリュームポリシーを上書きする場合に使用します。</p> <p>フォルダポリシーには次の内容を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 残すショートカットの種類 (ショートカットを作成するようにアーカイブルールが指定されている場合)。</li> <li>■ プレースホルダショートカット: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プレースホルダの削除時にアーカイブ済みファイルを削除するかどうか。</li> <li>■ アーカイブから削除されるアイテムのプレースホルダを削除するかどうか。</li> </ul> </li> <li>■ アーカイブ済みファイルに対して使う保持カテゴリまたは保持計画。</li> <li>■ 適用するアーカイブルール。これらのルールはアーカイブするファイルとショートカットを作成するタイミングを判断します。</li> <li>■ 明示的な権限を持つファイルおよびダイナミックアクセス制御の管理下にあるファイルをアーカイブするかどうかこれらのファイルはアーカイブされたときの権限の変更に従います。</li> </ul>
ファイルシステムアーカイブタスク ([Enterprise Vault サーバー]、<サーバー>、[タスク]内)	<p>対象フォルダとボリュームを処理します。タスクプロパティには次の内容を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ レポートモードで実行するか、標準モードで実行するかどうか。</li> <li>■ [今すぐ実行]オプションなどのスケジュール設定。</li> <li>■ 標準モードのレポートと削除レポートの生成を制御する設定。</li> <li>■ 同期スケジュール。</li> <li>■ 削除オプションとスケジュール。</li> </ul>

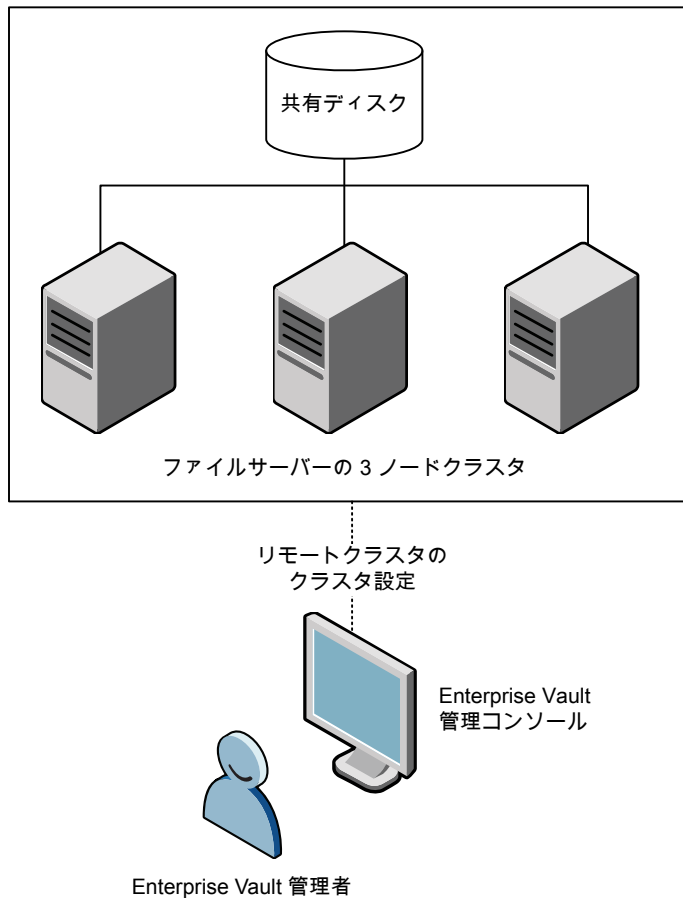
## クラスタ環境でのファイルシステムアーカイブ

Windows ファイルサーバーがクラスタとしてグループ化されている場合、これらのファイルサーバー上で実行されている FSA サービスの高可用性を実現できます。FSA のリソースをクラスタリソースグループまたはサービスグループに追加し、FSA リソースに高可用性を設定します。FSA リソースはオンラインノードの FSA サービスの状態を監視します。オンラインノードの FSA サービスに問題が発生すると、FSA リソースを含むクラスタリソースグループまたはサービスグループは、利用可能な次のノードにフェールオーバーします。

図 6-1 に、3 台のファイルサーバーがクラスタ化されている環境を示します。



図 6-1 FSA クラスタ設定の例



FSA エージェントサービスの高可用性を実現できるのは、共有ディスクリソースが存在する場合のみであることに注意してください。

この FSA クラスタ機能では、次のクラスタソフトウェアを使えます。

- Windows Server フェールオーバークラスタ (以前の *Microsoft Cluster Server (MSCS)*)
- Veritas Cluster Server (VCS)

このソフトウェアのサポート対象バージョンと Windows のサポート対象バージョンについて詳しくは、Enterprise Vault [Compatibility Charts](#) を参照してください。

次の種類のクラスタがサポートされています。

- アクティブ/パッシブクラスタ。高可用性をサポートするため、共有クラスタリソースは一度にクラスタの 1 つのノード上で利用可能になります。アクティブクラスタノードでエラーが発生した場合、共有リソースがパッシブノードにフェールオーバーするため、ユーザーはクラスタへの接続を中断することなく継続できます。
- アクティブ/アクティブクラスタ。負荷分散と高可用性をサポートするため、クラスタリソースが複数のノードに分割されます。クラスタ内の各ノードは、それぞれのリソースの優先的な所有者になります。いずれかのクラスタノードにエラーが発生した場合、そのノードの共有リソースは残りのクラスタノードにフェールオーバーします。

Enterprise Vault はアクティブ/パッシブとアクティブ/アクティブの任意の組み合わせの複数のノードをサポートします。最大 4 つのノードでの設定が検証されています。

クラスタ環境で FSA エージェントサービスの高可用性を実現する方法のガイドラインについて詳しくは、『ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定』ガイドを参照してください。

## ファイルシステムアーカイブの処理

ファイルシステムアーカイブの設定が完了すると、Enterprise Vault がタスクごとのスケジュールに従ってファイルのアーカイブを実行します。Enterprise Vault は、アーカイブルールに定義した基準を満たすファイルを選択します。

ルールは次のようなアイテムを対象にします。

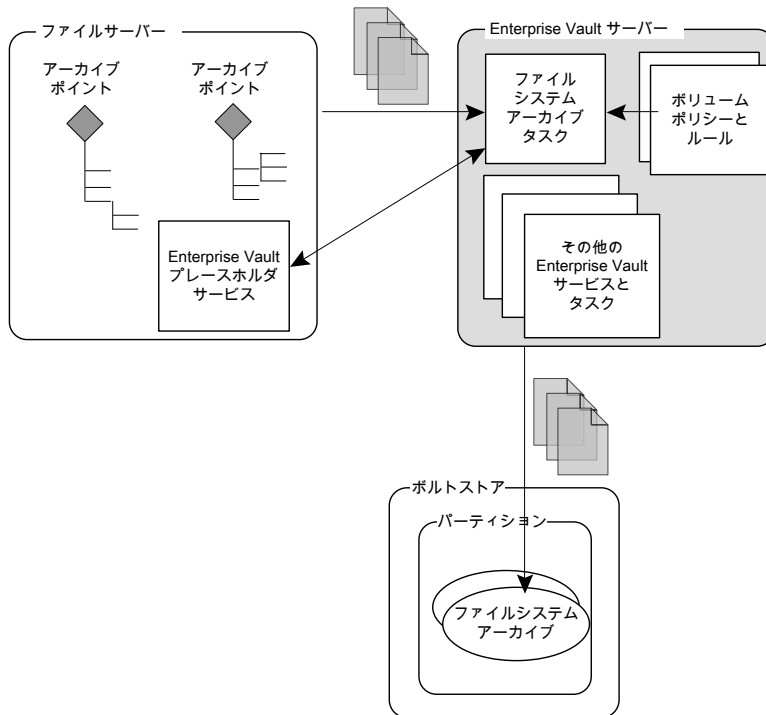
- ファイルの種類
- ファイルサイズ
- 最終のアクセス時刻または変更時刻
- 作成時刻
- ファイル属性

Enterprise Vault は、自動的に各アーカイブポイント用のアーカイブを作成し、ルールに従ってファイルを選択して格納します。次にファイルは、ポリシー設定に従って、ショートカットに置き換えられるかまたは削除されます。

ボルトストアのプロパティのセーフコピー設定によっては、ボルトストアがバックアップされるまで元のファイルが有効のまま残り、その後ショートカットに置き換えられる場合もあります。

図 6-2 は、ファイルサーバーからファイルをアーカイブするときに使われる Enterprise Vault コンポーネントを示しています。

図 6-2 ファイルシステムアーカイブ処理の例



この例では、プレースホルダショートカットがNTFSファイルシステムで使われるため、ファイルサーバーにはプレースホルダサービス (FSA エージェントの一部) がインストールされています。アーカイブ対象のフォルダ構造の最上部にマーク付けするために、2つのアーカイブポイントがファイルサーバー上に作成されています。これにより、2つのアーカイブ (アーカイブポイントごとに1つ) が作成されます。

Enterprise Vault サーバー上で、ポリシーにはアーカイブ対象のファイルを定義します。ファイルシステムアーカイブタスクは、タスクのスケジュールに従って、タスク制御サービスの制御下で実行されます。

ファイルがアーカイブされる際、Enterprise Vault Storage Service は、可能であればそのファイルを HTML に変換し、アーカイブにファイルを格納します。HTML を使って、インデックスサービスはファイルの詳細と内容にインデックスを付け、ユーザーがファイルを後で検索できるようにします。

多くのアイテムが一度にアーカイブされる場合、インデックスを無効にすることによってアーカイブ処理を高速化できます。Enterprise Vault Storage Service コンピュータが停止している場合、アーカイブインデックスを再構築することによって、後でアイテムにインデックスを付けることができます。

# ファイルシステムアーカイブによる古いバージョンのアーカイブファイルの処理

ファイルシステムアーカイブのバージョンを削除することによって、Enterprise Vault のアーカイブに格納されているファイルのバージョン数を制御できます。

アーカイブファイルが呼び戻されて修正されると、Enterprise Vault は新しいバージョンをアーカイブします。つまり、アーカイブにファイルの 2 つのバージョンが存在するようになります。ファイルが呼び戻されて修正されるたびに、ファイルの新しいバージョンがアーカイブに格納されていきます。

削除は、アーカイブファイルの古いバージョンを削除するプロセスです。このプロセスは、ファイルシステムアーカイブタスクのプロパティオプションで設定します。

## ファイルシステムアーカイブによる権限の同期

Enterprise Vault は、アーカイブ権限をフォルダ権限に自動的に同期させます。Enterprise Vault によってファイルがアーカイブされると、アーカイブに格納されるバージョンには、元のファイルが格納されていたフォルダと同じ権限が付与されます。

つまり、次のようになります。

- ファイルの権限が格納先のフォルダの権限と異なる場合、アーカイブされたバージョンにはフォルダの権限が付与されます。ショートカットにはファイルと同じ権限が付与されます。
- 元のフォルダへのアクセス権を持つユーザーは、ファイルの権限でアクセスが拒否されている場合でも、そのファイルのアーカイブされたバージョンを検索してアクセスできます。ただし、それらのユーザーはショートカットを使ってファイルにアクセスすることはできません。

同期は、ファイルシステムアーカイブタスクのプロパティの[同期]タブで設定できます。同期は 1 日に最大で 2 回実行され、常に完了するまで実行されます。

## ファイルシステムアーカイブレポート

ファイルシステムアーカイブでは、次の種類のレポートを作成できます。

アーカイブレポート このレポートは、標準モードでアーカイブを実行するたびに生成されます。このレポートは、アーカイブされたアイテムの詳細を示します。次の設定を使ってレポートの詳細レベルを制御できます。

- [簡略]。概略レポートを生成します。
- 完全。ルールと一致したそれぞれのファイルを一覧表示する詳細レポートを生成します。

- 削除レポート      このレポートは、削除を実行するたびに生成されます。次の設定を使ってレポートの詳細レベルを制御できます。
- [簡略]。各アーカイブから削除されたアイテムの数を示す概略レポートを生成します。
  - 標準。削除された各アイテムを一覧表示するレポートを生成します。
  - 完全。すべてのアイテムと、各アイテムの「Deleted」や「NeverExpires」などの状態を一覧表示するレポートを生成します。

レポートは、ファイルシステムアーカイブタスクのプロパティの[レポート]タブで設定できます。サイトプロパティの[詳細]タブにあるファイルシステムアーカイブ設定リストのオプションを使用して、Enterprise Vault にレポートを格納して保持させる方法を制御することもできます。

Enterprise Vault コンポーネントがインストールされている場合は、ファイルサーバーの状態についての詳細なレポートが作成されるように FSA レポート機能を設定できます。

p.97 の「[FSA レポート](#)」を参照してください。

## ファイルシステムアーカイブによるファイルの復元方法

ユーザーは、次の方法でファイルを復元できます。

- プレースホルダショートカットをクリックすると、アーカイブからファイルが呼び戻されます。

---

**メモ:** パススルー呼び戻しが有効になっている場合は、呼び出すアプリケーションが書き込み可能なバージョンを必要とする場合にのみ Enterprise Vault はファイルをファイルサーバーに呼び戻します。

p.95 の「[ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻し](#)」を参照してください。

---

プレースホルダショートカットはファイルサーバーに呼び戻されたファイルに置き換えられます。

- 呼び戻されたファイルが未修正のままの場合、Enterprise Vault によって、次のアーカイブサービスの実行時にファイルがプレースホルダに変換されます。唯一の例外は、アーカイブポリシーのショートカット作成ルールが最終アクセス時刻に基づいている場合です。その場合は、ショートカット作成ルールが満たされているときにだけ、Enterprise Vault によってファイルが元に戻されます。
- 呼び戻されたファイルが修正済みになっている場合は、Enterprise Vault によって、アーカイブポリシーのショートカット作成ルールに従ってファイルがプレースホルダに変換されます。

- インターネットショートカットをクリックすると、ファイルを開くかまたは保存することができます。いずれを行う場合でも、アーカイブからファイルが呼び戻されます。
- **Enterprise Vault Search** を使うと、ファイルを選択してから右クリックし、それらをコピーまたは移動できます。  
[コピー]を選択すると、選択した場所にアーカイブファイルのコピーが作成されます。  
[移動]を選択すると、選択した場所にアーカイブファイルのコピーが作成され、アーカイブからファイルが削除されます。

---

**メモ:** Internet Explorer を使ってインターネットショートカットから 4 GB を超えるファイルと呼び戻そうとすると、ファイルにアクセスできなくなります。Enterprise Vault によって、4 GB を超えるファイルは開けないことを示すメッセージが表示されます。この制限は Microsoft Internet Explorer の制限によるものです。プレースホルダショートカットには影響しないことに注意してください。

この制限に対処するために、Enterprise Vault Search の[ファイルシステムにコピー]または[ファイルシステムに移動]メニューオプションを使ってファイルを復元できます。

---

## FSAUtility について

FSAUtility は、次の処理が可能なコマンドラインユーティリティです。

- アーカイブポイントを元のパスに再作成します。
- アーカイブファイルのプレースホルダを元の場所に再作成します。
- プレースホルダがある場所から別の場所に移動し、対応する移動先のアーカイブ (パスのアーカイブポイントによって表される) にアーカイブファイルを移動します。
- アーカイブ済みのデータを移動せずに移行元パスから移行先パスにプレースホルダを移行します。
- 対応するアイテムがアーカイブ内に存在しない孤立したプレースホルダを削除します。
- すべてのアーカイブファイルか特定のファイルの種類のアーカイブファイルを、元の場所か新しい場所に復元します。
- フォルダにあるプレースホルダに対応するアーカイブファイルを呼び戻します。

このユーティリティは、Windows ファイルサーバー、NetApp Filer、Dell EMC Celerra/VNX デバイスのアーカイブポイントとプレースホルダを使って動作します。

ユーティリティについて詳しくは、『ユーティリティガイド』を参照してください。

Enterprise Vault でアーカイブされたコンテンツを持つファイルサーバーの移行と統合についての詳細は、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100004422>

## ファイルシステムアーカイブを使ったショートカットファイルのバックアップとスキャンの設定方法

Enterprise Vault のプレースホルダショートカットは、オフラインファイルのマーカーとしてオペレーティングシステムに認識されます。バックアッププログラムとウイルス対策プログラムには、オフラインファイルを無視するように設定できるものと設定できないものがあります。

次の点に注意してください。

- オフラインファイルを無視するようにバックアッププログラムまたはウイルス対策プログラムを設定できる場合、Enterprise Vault のプレースホルダショートカットのあるディスクでアプリケーションを実行する前に、その設定を行ってください。
- オフラインファイルを無視するようにバックアッププログラムまたはウイルス対策プログラムを設定できない場合、それらのプログラムがチェックするすべてのプレースホルダは、呼び戻されるオフラインファイルになります。この場合、Enterprise Vault のバックアップモードのプログラムを使って設定すると、スキャンまたはバックアップの実行前にファイルサーバーをバックアップモードにできます。

Enterprise Vault のバックアップモードのプログラムを使って設定すると、次のアイテムを指定できます。

- アーカイブ済みアイテムの呼び戻しを禁止するプログラム。これは、ファイルシステムのオフライン属性を適用しないウイルス対策プログラムまたはバックアッププログラムを使っている場合に便利です。
- バックアップモードを使う特定のユーザーグループ。この方法でバックアップモードを制限する場合、このグループ以外のユーザーは通常どおりファイルを読み戻せます。

## ファイルシステムアーカイブによるプレースホルダショートカットのパススルー呼び戻し

Windows と NetApp のファイルサーバーの場合は、プレースホルダショートカットのパススルー呼び戻しを実行するように Enterprise Vault を設定できます。Enterprise Vault はプレースホルダに対する読み込み要求を受信すると、呼び出し元のアプリケーションにデータを直接渡します。Enterprise Vault が権限に応じてファイルサーバーにファイルを読み戻すのは、呼び出し元のアプリケーションが書き込み要求を行った場合のみです。たとえば、アプリケーションが書き込み可能なファイルを要求した場合や、ユーザーがファイルに変更を保存しようとした場合などです。

パススルー呼び戻しは、次の場合に役立ちます。

- スナップショットなど、読み取り専用ファイルシステム上のプレースホルダの場合。読み取り専用のファイルシステムでは Enterprise Vault はファイルシステムに呼び戻し

されたファイルを書き込むことができないので、通常のプレースホルダの呼び戻しは失敗します。

- ファイルサーバー上の領域が限られている場合、またはユーザーに領域使用の厳密なクォータがある **Windows** ファイルサーバーの場合。通常、呼び戻されたファイルは対象のファイルシステム上の領域を占有するため、ユーザーの領域クォータに加算されます。**Windows** ファイルサーバーの場合は、ファイルサーバーボリュームごとに、パススルー呼び戻しを有効または無効にできます。

パススルー呼び戻しでは、ディスクキャッシュを使って、大容量ファイルの呼び戻し回数を減らします。**Windows** ファイルサーバーの場合は、ディスクキャッシュはファイルサーバー上にあります。**NetApp** ファイルサーバーの場合、ディスクキャッシュは **Enterprise Vault** サーバー上にあります。

次の点に注意してください。

- **Excel** などの一部のアプリケーションは、パススルー呼び戻しが有効な場合でも常にディスクへの呼び戻しを行います。
- **Dell EMC Celerra/VNX** ファイルサーバーの場合は、**Enterprise Vault** によって **Celerra/VNX** のパススルー機能がサポートされます。
- **NetApp** ファイルサーバーの場合、パススルー呼び戻し機能は読み取り専用のファイルシステムでのみ機能します。パススルー呼び戻しは、読み書き可能なファイルシステムでは無視されます。
- ボリュームポリシープロパティとフォルダポリシープロパティの[ショートカット]タブに、[プレースホルダが削除されたときにアーカイブファイルを削除]設定があります。この設定は、パススルー呼び戻しが有効になっている **Windows** ファイルサーバーボリュームでは無視されます。

## 保持フォルダとファイルシステムアーカイブ

保持フォルダ機能を使うと、ファイルサーバーに単一のフォルダまたはフォルダ階層を自動的に作成することができます。これらのフォルダは、**Enterprise Vault** によって管理され、割り当てられたポリシーに従ってアーカイブされます。指定した対象フォルダまたはそのサブフォルダにフォルダ階層を追加することができます。たとえば、すべてのユーザーのホームフォルダに保持フォルダの階層を作成することができます。保持フォルダに格納されたアイテムは、各フォルダに割り当てられた特定のポリシーに従って **Enterprise Vault** がアーカイブします。アーカイブポイントを作成する場所を指定して、保持フォルダに使うアーカイブを定義します。保持フォルダ階層内のフォルダを削除すると、次回 **FSA** アーカイブタスクを標準モードで実行したときに **Enterprise Vault** によってフォルダが再作成されます。

保持フォルダは、管理コンソールを使って設定します。設定手順は次のとおりです。

- 保持フォルダのデフォルトのフォルダポリシーとして使うのに適したフォルダポリシーを作成します。



- 保持フォルダポリシーを作成して、FSA 対象で作成するフォルダの階層と、各フォルダで使うフォルダポリシーを定義します。
- 保持フォルダを作成する FSA 対象を追加し、保持フォルダポリシーを割り当てて、アーカイブポイントの作成場所を指定します。保持フォルダ階層を FSA 対象のルートまたは各サブフォルダに追加するように指定できます。

フォルダは、次回に標準モードでアーカイブを実行するときにファイルサーバー上に作成されます。割り当てられた保持フォルダポリシーの効果をテストするために、レポートモードでアーカイブを実行することができます。コマンドラインインターフェースを使って、フォルダにポリシーを割り当てることもできます。

## FSA レポート

FSA レポートは、ファイルサーバー上のアクティブなデータや、そのサーバーからアーカイブされたデータについての概略レポートを提供します。FSA レポートのレポートには、次のような広範なアイテムについてのデータが含まれます。

- ファイルサーバーごとのアーカイブファイル数、アーカイブで使われた領域と保存された領域。ボリューム内で最もサイズの大きい 10 個のファイルを表示することもできます。
- アーカイブされたアクティブな領域の使用状況 (サーバーごと、アーカイブポイントごとのファイルグループ別)。
- アクセスされていないファイルまたは複製されたファイル数と、それらが占める領域。
- 各ファイルサーバーのドライブ上の使用済み領域と空き領域。

多くのレポートでは、FSA レポートが設定されているすべてのファイルサーバーの概要、または特定のファイルサーバーの詳細が示されます。

FSA レポートのレポートにアクセスするには、Microsoft SQL Server Reporting Services などの必要前提条件を備えたコンピュータに Enterprise Vault レポートコンポーネントをインストールし、設定する必要があります。レポートを表示するには、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションを使います。

また、レポートの取得対象の対象ファイルサーバーごとに、FSA レポートを設定する必要があります。管理コンソールのウィザードで次のことを実行できます。

- 初めて FSA レポートのファイルサーバー対象を設定するときに、ウィザードを使って FSA レポートのスキャンデータを保持するように FSA レポート用データベースを設定できます。

FSA レポートに別の対象ファイルサーバーを設定するとき、ファイルサーバーを既存の FSA レポート用データベースに割り当てるか、または別のデータベースを作成できます。多数のファイルサーバーについて FSA Reporting のデータを入手する場合、複数の FSA Reporting 用データベースで拡張性を高めることができます。

- **Windows** ファイルサーバーでは、エージェントがまだ存在しない場合、ファイルサーバーに **FSA** エージェントをインストールします。
- **Windows** 以外のファイルサーバー、つまり **NetApp Filer** および **Dell EMC Celerra/VNX** デバイスの場合、別のサーバーを選択して **FSA** レポートプロキシサーバーとして動作するようにします。**FSA** レポートのプロキシサーバーは 1 つ以上の **Windows** 以外のファイルサーバーについての **FSA** レポートのデータを集めます。  
次のサーバーは、いくつかの追加の前提条件に応じて **FSA Reporting** のプロキシサーバーとして機能します。
  - **Enterprise Vault** サイトの **Enterprise Vault** サーバー。
  - **Enterprise Vault** サイトのアーカイブ対象ファイルサーバーとして設定されている **Windows** サーバー。
  - ネットワーク上の **Windows** サーバー。

---

**メモ:** **NetApp C-Mode Filer** で **FSA** レポートを有効にするには、**Enterprise Vault 11.0.1** 以降の **FSA** エージェントをインストールしておく必要があります。

---

詳しくは、『レポート』ガイドを参照してください。

# Microsoft SharePoint サーバーのアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Microsoft SharePoint サーバーのアーカイブについて](#)
- [SharePoint アーカイブの設定方法](#)

## Microsoft SharePoint サーバーのアーカイブについて

Enterprise Vault を使って、次のいずれかが動作しているサーバーからコンテンツをアーカイブできます。

- Microsoft SharePoint Server 2010
- Microsoft SharePoint Foundation 2010
- Microsoft SharePoint Server 2013
- Microsoft SharePoint Foundation 2013
- Microsoft SharePoint Server 2016

スケジュールされた日時になると、Enterprise Vault は自動的に、SharePoint サーバーからコンテンツをコピーし、Enterprise Vault SharePoint アーカイブに格納します。アーカイブされた文書は、必要に応じて、SharePoint サーバーに残すことも削除することもでき、アーカイブされた文書のショートカットは、SharePoint Server 上に作成されます。

ドキュメントライブラリに対してバージョン管理が有効になっている場合は、アーカイブした後に SharePoint サーバーに残す文書のバージョン数を設定できます。Enterprise Vault バージョン履歴リンクを使うと、ユーザーは、SharePoint バージョン履歴ページから、アーカイブした文書のバージョンを確認できます。

アーカイブの検索 Web パーツを SharePoint サイトページに追加すると、SharePoint アーカイブを検索できます。文書は表示と保存を行うことができます。

SharePoint サーバーをアーカイブするメリットは、次のように要約できます。

- 古くなったコンテンツをオンラインアーカイブに移動させることにより、SharePoint の格納領域の増加を制御します。アーカイブはポリシーに従って自動的に実行されます。
- 古い情報の長期間の保存にコスト効果の高いストレージを使えるようにします。アーカイブはストレージの種類に依存しないため、ディスク、光ディスク、テープ、SAN、NAS、SSP など、コスト効果の高いストレージを選択できます。
- SharePoint に格納されている内容を始めとする知的所有物を保存します。
- 法律上の保存の必要条件を満たすために情報をアーカイブします。
- 分散した部門システムの情報を 1 つの場所で保存します。
- システムの統合を容易にします。

SharePoint は最新の変更対象となる情報を保持し、Enterprise Vault は大容量の古い情報を、長期にわたって管理するオンラインストレージを提供します。

SharePoint アーカイブには、別途 Enterprise Vault ライセンスが必要になります。

## SharePoint アーカイブの設定方法

SharePoint アーカイブを有効にするには、Enterprise Vault Microsoft SharePoint コンポーネントを SharePoint サーバーコンピュータにインストールし設定する必要があります。Enterprise Vault コンポーネントをインストールするには、対象サーバーに SharePoint がインストール、設定されている必要があります。Enterprise Vault Admin Service は、Enterprise Vault Microsoft SharePoint コンポーネントとともに自動的にインストールされます。

Enterprise Vault サーバーのアーカイブを設定するには、アーカイブに使う SharePoint サイトコレクションが SharePoint サーバーに存在する必要があります。この後、Enterprise Vault 管理コンソールで、SharePoint アーカイブタスク、ポリシー、アーカイブ対象に対するオブジェクトを作成できます。

## SharePoint アーカイブタスク

SharePoint タスクは、SharePoint サイトコレクションをアーカイブするプロセスです。タスクプロパティには、アーカイブスケジュール、プロセスで使うアカウント、生成するアーカイブレポートが含まれます。

単一のタスクで、Web アプリケーションまたはサイトコレクションなどの複数の SharePoint 対象がサポートされます。代わりに、必要に応じて、複数の SharePoint タスクを作成し、各タスクに対象を割り当てることもできます。SharePoint タスクは、タスク制御サービスの制御下で実行されます。

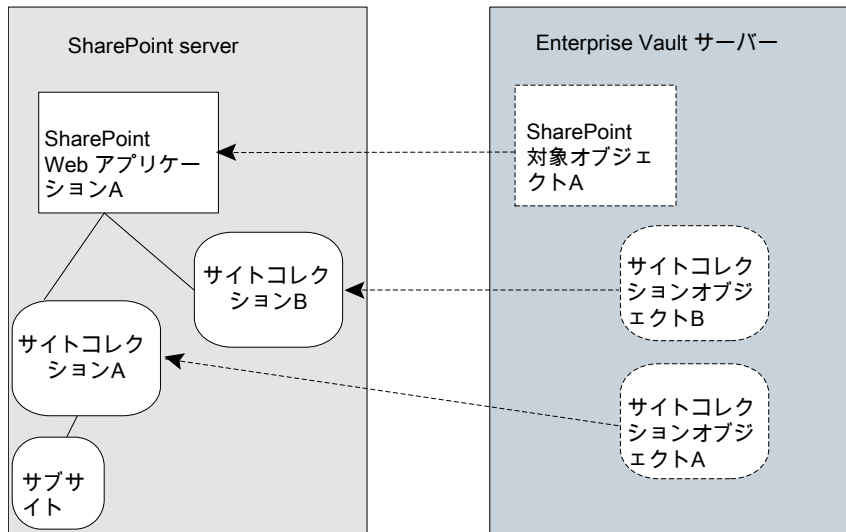
タスクに関連したすべての対象サイトを定期的にアーカイブするには、Enterprise Vault サイトのスケジュールを使うことも、SharePoint タスク用に別のスケジュールを設定することもできます。代わりに、アーカイブタスクが対象とするすべてのサイトに対して、または個々のサイトコレクションに対して、アーカイブの即時実行を開始することもできます。

## アーカイブ対象 SharePoint

アーカイブタスクでアーカイブされる SharePoint サーバーとサイトコレクションは、管理コンソールでアーカイブ対象を使って定義されます。これらは、SharePoint の構造を反映しています。サイトコレクション対象は SharePoint サーバーの最上位のサイトを示し、サイト対象はサブサイトを示します。

Enterprise Vault でアーカイブ対象を設定するには、あらかじめサイトコレクションが SharePoint 内に存在し、Enterprise Vault コンポーネントが SharePoint サーバーにインストール、設定されている必要があります。

図 7-1 アーカイブ対象 SharePoint



SharePoint 対象 URL を追加すると、サイトコレクションアーカイブを自動的に有効化して、使用するアーカイブタスク、ボルトストア、ポリシー、保持カテゴリや保持計画のデフォルト値を割り当てることができます。

サブサイトは、アーカイブ対象 URL のデフォルト設定を使って、自動的にアーカイブされます。新しいサブサイトが作成されると、これらは自動的にアーカイブに含められます。サイトコレクションからアーカイブしたコンテンツは、同じアーカイブに格納されます。

自動サイトコレクションアーカイブが有効になっていない場合、またはサイトコレクションのデフォルト設定を上書きする場合は、サイトコレクション対象とサブサイト対象を、アーカイブ

ブ対象 URL の下に手動で作成できます。たとえば、個々のサイトコレクションごとに別々のアーカイブポリシーを使う場合です。

サイトコレクションの場合、最上位の **Web** サイトのみ、サブサイトのみ、またはその両方にアーカイブの範囲を制限できます。

アーカイブタスクを実行すると、SharePoint サイトコレクションごとに SharePoint アーカイブが自動的に作成されます。管理コンソールツリーで、[アーカイブ] > [SharePoint] の順に選択した下にアーカイブが表示されます。そのサイトコレクションの最上位サイトとすべてのサブサイト内のコンテンツが、同じアーカイブに格納されます。

図 7-1 は、SharePoint 3.0 Web アプリケーションと SharePoint サーバー上のサイトコレクション (左側) と、Enterprise Vault 管理コンソールの関連するアーカイブ対象オブジェクト (右側) の関係を示しています。

## SharePoint のアーカイブレポート

レポートは、アーカイブタスクの実行ごとに生成されます。レポートに出力する情報の分量と、Reports フォルダ (たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Reports) に保存するタスクに関するレポートの数を選択できます。

## SharePoint アーカイブポリシー

ポリシーでは、アーカイブされる文書とアーカイブの方法を定義します。

SharePoint ポリシーでは、次のアーカイブ操作を設定できます。

- **SharePoint** に文書を残します。したがって、文書はアーカイブされた後も **SharePoint** から削除されず、ユーザーは、サーバーとアーカイブの両方ですべてのバージョンの文書にアクセスできます。
- アーカイブ後に **SharePoint** から文書を削除し、アーカイブした文書のショートカットを残します。
- アーカイブ後に **SharePoint** から文書を削除し、ショートカットも残しません。つまり、アーカイブされた文書は、**SharePoint** から削除され、アーカイブ以外では利用できなくなります。
- 文書のバージョンを指定した数に制限します。ドキュメントライブラリに対してバージョン管理が有効になっている場合は、アーカイブした後に **SharePoint** に残すアーカイブした文書のバージョン数を設定できます。それ以外のバージョンは、アーカイブ以外では利用できなくなります。
- 重複のない権限でアイテムをアーカイブする方法と、アイテムの下書きをアーカイブするかどうかを指定できます。
- ポリシーを使ってアーカイブする文書を選択するルールを作成します。

ショートカットの経過日数に従って **Enterprise Vault** でショートカットを自動的に削除できます。たとえば、1 年を超えているショートカットの削除を選択できます。

## アーカイブした SharePoint 文書へのアクセス方法

オプションのアーカイブの検索 Web パーツを **SharePoint** サーバーにインストールしてアーカイブの検索 Web パーツをサイトページに追加すると、**SharePoint** ユーザーは **Enterprise Vault SharePoint** アーカイブに格納されている文書を検索できるようになります。検索は **SharePoint Portal Server** の検索にとってもよく似ています。

アーカイブ検索を使って文書を **SharePoint** サーバーに表示、保存、復元できます。許可されている場合は削除することもできます。

文書のバージョン履歴を表示すると、**SharePoint** の文書のバージョンがバージョン履歴ページに表示されます。アーカイブタスクを初めて実行すると、文書のアーカイブバージョンにアクセスできるように **SharePoint** バージョンの下に新しいリンクが表示されます。

## SharePoint での Enterprise Vault ショートカットについて

ショートカットは、**SharePoint** 文書と同様に動作します。対応するアーカイブ済み文書と同じアイコンが使われます。ソーシャルコンテンツのショートカットは作成されません。

# Domino メールボックスアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino メールボックスアーカイブと Enterprise Vault について](#)
- [Domino プロビジョニンググループ](#)
- [Domino メールボックスアーカイブタスク](#)
- [Domino メールボックスアーカイブポリシー](#)
- [Domino メールボックスアーカイブの保持フォルダ](#)
- [Domino メールボックスアーカイブのデスクトップポリシー](#)

## Domino メールボックスアーカイブと Enterprise Vault について

Enterprise Vault のコンテキストでは、「Domino メールボックスアーカイブ」という用語は、Domino メールサーバー上のユーザーメールファイルのアイテムをアーカイブすることを表します。

Domino メールファイルには、さまざまな種類の情報（メッセージ、文書、表計算ワークシート、グラフィックなど）が保存されています。Enterprise Vault でアーカイブされるデフォルトのアイテムの種類は、使用する Domino フォームに従って、ディレクトリのプロパティ（[Domino フォーム] タブ）で指定できます。この一覧は、個々の Domino メールボックスポリシーに合わせて調整できます。

Domino メールボックスのアーカイブでは、ユーザーのコンピュータに格納された NSF ファイルに保存されている内容は自動的にアーカイブされません。ただし、NSF 移行を使って NSF ファイルの内容をアーカイブできます。



p.58 の「[NSF ファイルの内容のアーカイブ方法](#)」を参照してください。

Domino 用の Enterprise Vault のメールボックスアーカイブは、Enterprise Vault Domino Gateway と Enterprise Vault サーバーで構成されます。これらは同じコンピュータ上に置くこともできますが、大規模な Domino 環境をサポートできるように、通常は別のコンピュータ上に置かれます。


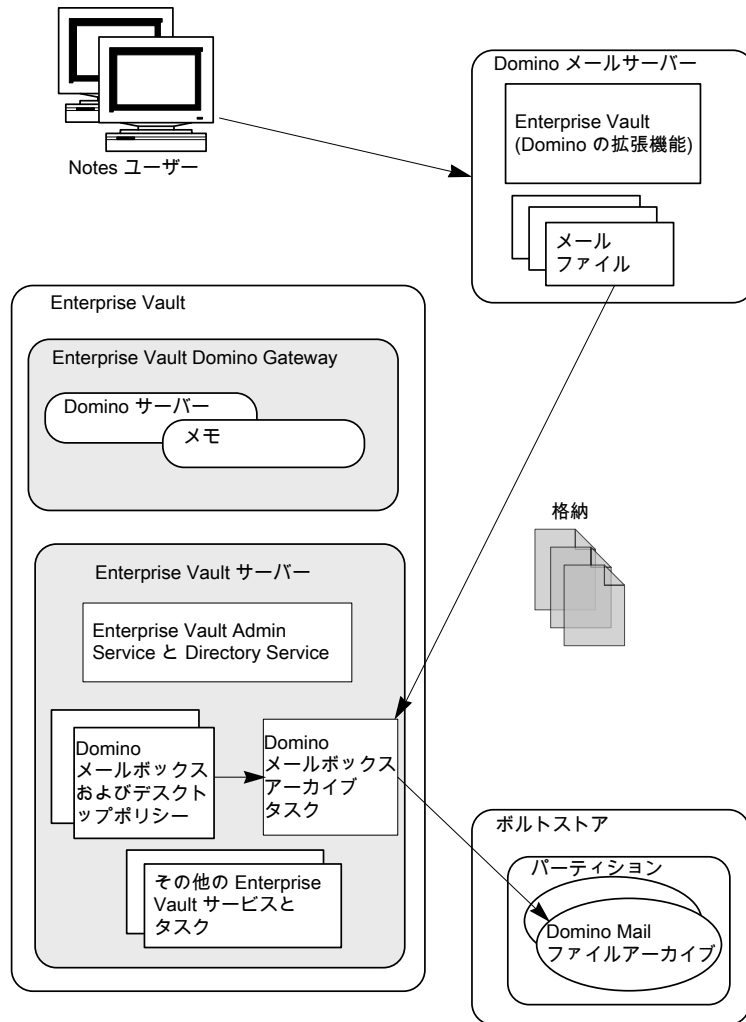
 **8-1** に Domino メールボックスアーカイブの概要を示します。

図 8-1 Domino メールボックスアーカイブの概要



Domino メールボックスのアーカイブを行うには、Domino ドメインごとに、少なくとも 1 つの Enterprise Vault Domino Gateway が必要です。このコンピュータには、Domino サーバー、Notes、Enterprise Vault をインストールしている必要があります。Enterprise

Vault サーバーとは別のコンピュータの場合は、Enterprise Vault Admin Service と Enterprise Vault Directory Service だけが必要です。Enterprise Vault Domino Gateway コンピュータにインストールされている Domino サーバーは、Domino ディレクトリと対象の Domino メールサーバーにアクセスするために Enterprise Vault によって使われます。

Domino メールサーバーをアーカイブする Enterprise Vault サーバーには、Notes をインストールする必要があります。

Enterprise Vault サーバーで、管理コンソールを使って、ユーザーメールファイルのアイテムをアーカイブする Domino メールボックスアーカイブタスクを作成します。このタスクでアーカイブする Domino メールサーバーとユーザーメールファイルはアーカイブ対象として定義します。Enterprise Vault では、アーカイブ対象のユーザーメールファイルごとにアーカイブが自動的に作成されます。

Enterprise Vault はメールインデータベースからアーカイブできます。この機能は何人かのユーザーが共有するメールアイテムのアーカイブを可能にします。ボルトキャッシュはメールインデータベースからアーカイブされるメールでは利用できません。

Domino メールボックスポリシーでは、メールファイルのアーカイブ方法を定義します。Domino デスクトップポリシーでは、Notes で利用可能な機能を定義し、クライアントがどのように機能するかを制御します。

必要に応じて、Enterprise Vault Domino Gateway ごとに複数の Enterprise Vault サーバーを設定できます。各 Enterprise Vault サーバーには、ローカルのボルトストアにアーカイブされる Domino メールボックスアーカイブタスクを最大 1 つ設定できます。

セカンダリ Domino サーバーを使ってユーザーのメールファイルのレプリカを保存する場合は、メールサーバーの代わりにこのセカンダリサーバーからアーカイブできます。多数のメールサーバーが存在し、セカンダリサーバーが少数である場合は、この方法によって設定を簡略化できます。

Enterprise Vault は、クラスタ化された Enterprise Vault Domino Gateway サーバーをサポートします。これらのサーバーは、IBM Domino サーバークラスタ化を使ってクラスタ化されます。

## Domino プロビジョニンググループ

プロビジョニンググループを使って、特定のメールボックスポリシーとデスクトップポリシーでアーカイブされるユーザーメールファイルをグループ化します。次に Domino プロビジョニングタスクを実行して、プロビジョニンググループに設定を適用します。

次の任意の種類の対象を選択してプロビジョニンググループと関連付けできます。

- ディレクトリグループ
- メールボックス (メールファイル)
- メールインデータベース

- 組織単位
- 社内階層

メールファイルのアーカイブを有効にするには、そのメールファイルがプロビジョニンググループに含まれている必要があります。

あるメールファイルが複数のプロビジョニンググループに表示される場合、そのメールファイルは最初に表示されたプロビジョニンググループに属します。プロビジョニンググループの順序を変更するには、管理コンソールで[プロビジョニンググループ]コンテナ ([対象]、[Domino]、[<domain>]内) のプロパティを編集します。

プロビジョニンググループのプロパティでは、メールファイルのアーカイブが有効になるように選択し、アーカイブで使うインデックスレベルを指定できます。個々のアーカイブについては、そのプロパティを編集してインデックスレベルを上書きすることができます。

## Domino メールボックスアーカイブタスク

管理コンソール内の必要な Enterprise Vault サーバー上の [Enterprise Vault サーバー] で、Domino メールボックスアーカイブタスクを作成します。この Domino メールボックスアーカイブタスクは、複数の Domino サーバーや複数の Domino ドメイン上でメールファイル进行处理することができます。

必要に応じて、複数のユーザーグループをプロビジョニングし、各グループを異なるポルトストアにアーカイブすることにより、複数の Enterprise Vault サーバーで同じ Domino サーバー进行处理することができます。

これらのタスクはタスク制御サービスで制御されます。

Domino メールボックスアーカイブタスクは、次の操作を実行します。

- 各メールファイルにアクセスし、メールファイルに設定されたポリシーに従ってアイテムをアーカイブします。タスクは、アーカイブされているアイテムを変換およびインデックス付けするインデックスサービスと連携します。

アーカイブされるアイテム数を、実際にアーカイブしないですべて予測するには、タスクをレポートモードで実行します。

デフォルトでは、Domino メールボックスアーカイブタスクは Enterprise Vault サイトで定義されたスケジュールに従って自動的に実行されます。このスケジュールは、タスクごとに個別に上書きできます。

各メールファイル进行处理する Domino メールボックスアーカイブタスクは、関連するポルトストアがホストされているストレージサービスと同じ Enterprise Vault サーバー上で動作します。つまり、アーカイブは、Domino メールファイル进行处理するアーカイブタスクに対してローカルに作成されます。

デフォルトでは、Domino サーバーのプロパティで定義されているボルトストアが使われますが、個々のプロビジョニンググループのプロパティを編集することにより、この設定を必要に応じて上書きすることができます。

## Domino メールボックスアーカイブポリシー

Domino メールボックスポリシーは、対象のメールファイル进行处理する際、使用するアーカイブタスクについて次のような情報を提供します。

- アーカイブ戦略。次の内容が含まれます。
  - 特定の期間を過ぎたすべてのアイテムをアーカイブ。
  - 元のアイテムの削除やアイテムをアーカイブした後のショートカット作成などのアーカイブ処理。
  - アーカイブ済みアイテムへのショートカットを作成するかどうかとショートカットに何を含めるか。
- 使用する Domino フォームの種類に従って、どのアイテムをアーカイブするか。
- 未読アイテムをアーカイブするかどうか。

メールボックスポリシーはまた Enterprise Vault が古いショートカットを削除するかどうかも定義します。この動作は次のように設定できます。

- ショートカットの経過日数に基づく削除。
- 孤立したショートカットの削除。これらはもはや対応するアーカイブ済みアイテムがないショートカットです。通常アーカイブ済みアイテムはユーザーかストレージの有効期限によって削除されました。
- 保持期間が経過した場合のショートカットの削除。対応するアーカイブ済みアイテムはストレージの有効期限によって削除されることがあります。アーカイブ済みアイテムを削除しないでショートカットを削除できます。

Enterprise Vault 管理コンソールで、[ポリシー]、[Domino]、[メールボックス]の順に選択して Domino メールボックスのアーカイブポリシーを作成します。

## Domino メールボックスアーカイブの保持フォルダ

保持フォルダ機能を使うと、単一のフォルダまたはフォルダの階層をユーザーのメールファイルに自動的に作成できます。Enterprise Vault は割り当てられたポリシーに従って、これらのフォルダをアーカイブします。ユーザーが保持フォルダ階層内のフォルダを削除した場合、Enterprise Vault はそれらを自動的に再作成します。

保持フォルダとその保持カテゴリを保持計画に指定します。必要な数の保持計画を作成することができます。

**注意:** これらの保持計画は、Enterprise Vault 12 で導入された Enterprise Vault 保持計画機能を使って作成できる保持計画と異なります。この機能を使うと、分類ポリシーなどの複数の他の設定に保持カテゴリを関連付ける保持計画を設定し、それらすべてを 1 つ以上のアーカイブに適用することができます。このセクションに記載された保持計画では、動作が異なります。

Enterprise Vault 保持計画機能について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

Enterprise Vault プロビジョニンググループを使って保持計画をメールファイルに適用します。したがって、各ユーザーは、適切な保持カテゴリを含む異なる保持フォルダを持つことができます。また、特定の計画が定義されていないすべてのユーザーに対して Enterprise Vault によって適用されるデフォルトの保持計画を定義することもできます。

ユーザーが保持フォルダを削除すると、フォルダ内に保持計画の設定が維持されなくなります。今後アーカイブされるアイテムは、新しい場所のフォルダに適用されるポリシーに従ってアーカイブされます。すでにフォルダからアーカイブされているアイテムに影響はなく、元の保持カテゴリが維持されます。

ユーザーが保持フォルダ内にサブフォルダを作成した場合、このサブフォルダは保持フォルダの設定を継承します。たとえば、「Projects」フォルダを作成すると、ユーザーは各プロジェクトのサブフォルダを作成できるようになります。サブフォルダは親の「Projects」フォルダ内の保持フォルダの設定を自動的に使うようになります。

保持計画を定義する XML ファイルを作成します。次に、EVDominoRetentionPlans コマンドラインツールを使って XML ファイルを Enterprise Vault にアップロードします。

Domino の保持計画を作成する方法について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドの「Domino の保持計画ツール」を参照してください。

## Domino メールボックスアーカイブのデスクトップポリシー

Domino デスクトップポリシーによって、Enterprise Vault Notes クライアントを使うときのエンドユーザーの使用範囲を定義します。この設定によって、クライアントが提供する Enterprise Vault の機能が決まります。

デスクトップポリシーの設定には、次のようなオプションがあります。

- [検索]、[格納]、[復元]、[削除]などの Enterprise Vault メニューオプションを表示または非表示にします。
- ボルトキャッシュの可用性や最大サイズを制御します。
- ボルトキャッシュの詳細設定を制御します。

Enterprise Vault 管理コンソールで、[ポリシー] > [Domino] > [デスクトップ]の順に選択して Domino デスクトップポリシーを作成します。プロビジョニンググループを作成する

とき、デスクトップポリシーをそのグループに割り当てます。異なるプロビジョニンググループで別のデスクトップポリシー設定を使う場合は、複数のポリシーを作成できます。

# Domino ジャーナルアーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino ジャーナルアーカイブについて](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブのポリシー](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブのデータベースの注意事項](#)
- [Domino ジャーナルアーカイブの設定方法](#)
- [クラスタ化された Domino ジャーナルデータベースのサポート](#)

## Domino ジャーナルアーカイブについて

このセクションでは、Enterprise Vault で、Domino ジャーナルデータベースの内容をアーカイブする方法について説明します。

Domino を設定すると、送受信されるすべてのメッセージのコピーをジャーナルデータベースに保存できます。これは、企業で電子メール監視ポリシーを導入する必要がある場合に特に有用で、後日法的証拠として電子メールの提出が必要となる可能性がある場合には、不可欠なものです。

Enterprise Vault を設定すると、Domino ジャーナルデータベースのすべてのアイテムをアーカイブできます。

## Domino ジャーナルアーカイブのポリシー

Enterprise Vault 管理コンソールでは、[ポリシー]、[Domino ジャーナル]の順に選択してアーカイブのポリシーを作成します。



Domino ジャーナルポリシーは、対象の場所にあるデータベースを処理するときに使うアーカイブタスク用の情報を提供します。現在利用できるオプションでは、アーカイブするときに配布リストを展開するかどうかの指定のみを行います。

## Domino ジャーナルアーカイブのデータベースの注意事項

Enterprise Vault は、サーバーのデータディレクトリにある指定されたフォルダ内のすべてのデータベースからアーカイブを行います。

Enterprise Vault の通常の設定では、アーカイブ済みアイテムが格納されているボルトストアをバックアップするまで、元のアイテムを保持します。バックアップを完了すると、Enterprise Vault は元のアイテムを削除します。Domino データベース管理機能が、この Enterprise Vault の処理に影響を与えないようにする必要があります。これは、何らかの理由でアイテムがアーカイブされなかった場合に、そのアイテムが失われる可能性があるため、「パージと圧縮」機能を使えないためです（パージと圧縮機能については、サーバーの設定についてのマニュアルでジャーナリングに関するセクションを参照）。

このため、サーバー設定についてのマニュアルのジャーナリングに関するセクションで説明されているように、Domino ジャーナルデータベースは、次のデータベース管理機能のいずれか 1 つに設定される必要があります。

- [Periodic Rollover]または[Size Rollover] - Domino は、古いデータベースをサーバーのデータフォルダ内に自動的に配置します。古いデータベースからすべてのアイテムがアーカイブされ、アーカイブがバックアップされたときにアイテムが削除されるようにするために、古いデータベースをジャーナルデータベースフォルダに戻す必要があります。
- [None] - この機能は、データベースが増大し続けるという影響があるため、手動の保守が必要になります。

Enterprise Vault で Domino ジャーナルデータベースをアーカイブできるように、そのデータベースを適切に設定する必要があります。

## Domino ジャーナルアーカイブの設定方法

Domino ジャーナルのアーカイブを設定するには、Enterprise Vault 管理コンソールで次の設定を行う必要があります。

- Enterprise Vault がアーカイブする Domino ジャーナルデータベースの場所ごとの Domino ジャーナルアーカイブ。
- アーカイブを実行する Domino ジャーナルタスク。必要に応じて、複数の Domino ジャーナルタスクを 1 台のコンピュータに作成できます。Domino ジャーナルタスクは、タスク制御サービスの制御下で実行されます。

- Domino ジャーナルポリシー。このポリシーを対象の場所に割り当てることにより、Domino ジャーナルタスクがデータベースからアイテムをアーカイブする方法を調整できます。たとえば、Domino ジャーナルタスクによる配布リストの展開を禁止する場合などがあります。
- アーカイブの対象となる場所。この場所を設定するには、Domino ドメインとサーバーを追加し、次に、Domino ジャーナルデータベースの場所を追加する必要があります。これらは、管理コンソールの[対象]の[Domino]セクションで設定します。

ジャーナルデータベース内のアイテムは、Enterprise Vault の設定に応じて、それをアーカイブした時点またはボルトストアをバックアップした時点で削除されます。

ジャーナルアーカイブへのアクセス権限を持つユーザーは、アーカイブ内のメッセージを検索できます。ジャーナルされたアイテムは機密情報である可能性があるため、このようなアクセス権限は少数の信頼できるユーザーにのみ指定することが重要です。

## クラスタ化された Domino ジャーナルデータベースのサポート

Enterprise Vault は、Domino アプリケーションクラスタを使ってクラスタ化された Domino サーバー上の Domino ジャーナルデータベースからアーカイブを行うことができます。

クラスタ化されたジャーナルデータベースをサポートするには、次の必要条件を満たす必要があります。

- クラスタ内の各 Domino サーバーがローカルデータベースへのジャーナルを独立して行う必要があります。
- メールジャーナルデータベースがクラスタ内の他の Domino サーバーにレプリケートされないように設定されている必要があります。これは、クラスタレプリケーションとスケジュールされたレプリケーションの両方に適用されます。
- Enterprise Vault がクラスタ内の各サーバー上の Domino ジャーナルデータベースからアーカイブするように設定されている必要があります。

# SMTP アーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault SMTP アーカイブについて](#)
- [SMTP アーカイブコンポーネント](#)
- [セキュリティと認証](#)
- [拡張性とディザスタリカバリ](#)

## Enterprise Vault SMTP アーカイブについて

Enterprise Vault SMTP アーカイブを利用すると、Enterprise Vault は、SMTP プロトコルを使って Enterprise Vault サーバーに送信されたデータをアーカイブできます。SMTP サーバーに情報を送信できるアプリケーションであれば、Enterprise Vault にデータを送信できます。

Enterprise Vault SMTP アーカイブによって、次のことが可能になります。

- Exchange ジャーナルの電子メールを SMTP で直接アーカイブします。Enterprise Vault Exchange ジャーナルのアーカイブを使用した Exchange ジャーナルの代わりに、この機能を使用できます。
- Office 365、Google Apps、Zimbra、Sun Mail System など、SMTP サーバーに送信できる他のメッセージングプラットフォームから電子メールをアーカイブします。
- SMTP サーバーへ電子メールを送信できるすべてのアプリケーションからのデータをアーカイブします。
- プリンタ、ファクシミリ、スキャナなどの物理デバイスからデータをアーカイブします。これは、電子メールルールの自動化と記録管理のワークフローに機会を提供します。
- SMTP ジャーナルフィードからユーザーのメールボックスアーカイブをポピュレートします。ユーザーが送受信するすべての電子メールは、ユーザーのメールボックスのアーカイブに格納できます。SMTP アーカイブとのフォルダの同期はありません。

図 10-1 SMTP アーカイブ概要

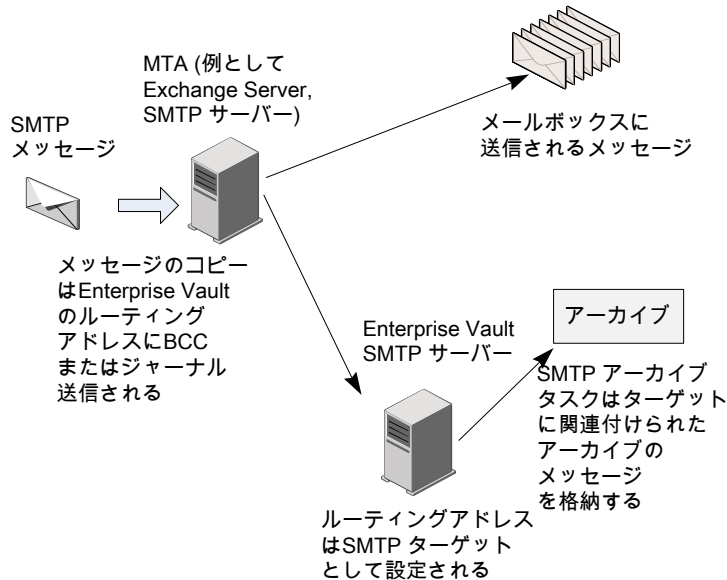


図 10-1 は簡単な SMTP アーカイブ環境の例です。

- メール配送エージェント(MTA)は、Exchange サーバーなどのアプリケーションから SMTP メッセージを受け取ります。
- MTA は宛先のメールボックスにメッセージを送信し、メッセージを Enterprise Vault SMTP サーバーの SMTP ルーティングアドレスにコピーするかジャーナルします。
- Enterprise Vault SMTP サーバーはメッセージを受信し、X-RCPT-TO ヘッダーとしてメッセージにルーティングアドレスを追加します。次に、SMTP サーバーはメッセージを電子メール (.eml) ファイルとして SMTP 保存フォルダに置きます。
- SMTP アーカイブタスクは保存フォルダのメッセージファイルを処理し、ターゲットアドレスに指定されているアーカイブにそれをアーカイブします。このタスクの処理時に、ターゲットのプロパティに指定されている保持カテゴリが適用されます。このようにして、ポリシーに一覧表示されているすべての X-Header に、Enterprise Vault が確実にインデックスを付けます。

Enterprise Vault SMTP アーカイブによって、次のメリットが提供されます。

- ジャーナルのアーキテクチャが単純化され、インフラストラクチャのコストが削減されます。MAPI の依存関係がなく、大規模なジャーナルメールボックスの管理の必要性もありません。ジャーナルフィードは、専用の Exchange サーバー上で複数のジャーナルメールボックスを維持する代わりに、Enterprise Vault に直接送信できます。

- 単一インスタンスストレージ。Enterprise Vault は、単一インスタンスストレージを使ってメッセージを重複排除します。
- プロビジョニンググループ。SMTP アーカイブ用に、複数のユーザーを同時にプロビジョニングすることができます。グループに追加する対象ユーザーには、**Active Directory** ユーザー、または **Active Directory** アカウントに関連付けられていない SMTP アドレスを指定できます。プロビジョニンググループの形式に応じ、メンバーのメッセージはすべて同じアーカイブに格納されるか、または各メンバーにはそれぞれのアーカイブがプロビジョニングされます。
- Enterprise Vault では、BCC アドレスなどのインデックスメタデータや、ジャーナルレポート情報をキャプチャできます。
- Enterprise Vault に送信されるメッセージに X-Header を追加すると、デフォルトの保持カテゴリまたはアーカイブ先を上書きできます。また、X-Header を使用して、Enterprise Vault インデックスに情報を追加できます。
- メッセージは既存のアーカイブまたは専用の SMTP アーカイブに格納できます。
- スケーラブルなアーキテクチャ。Enterprise Vault は、複数の SMTP サーバーをサポートできます。
- メッセージの追跡を有効にすると、各 SMTP サーバーが受信したメッセージの詳細をログに記録できます。

## SMTP アーカイブコンポーネント

表 10-1 に、SMTP アーカイブの主要なコンポーネントの概要を示します。Enterprise Vault 管理コンソールまたは Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを使って SMTP アーカイブを設定できます。

表 10-1 SMTP アーカイブコンポーネントの概要

コンポーネント	説明
Enterprise Vault SMTP サーバー	<p>SMTP サーバーは Windows サービスの Enterprise Vault SMTP サービスとして実装されます。このサービスは Windows サービスコンソールに表示されますが、Enterprise Vault 管理コンソールには表示されません。</p> <p>SMTP サーバーは SMTP 接続を管理します。Exchange Server や SMTP サーバーなどの MTA (Message Transfer Agent) を中継して、Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたメッセージを受信します。Enterprise Vault SMTP サーバーは、メッセージを .eml ファイルとして SMTP 保存フォルダに保存します。</p>

コンポーネント	説明
SMTP アーカイブタスク	<p>SMTP アーカイブタスクは、次のように保存フォルダの電子メールファイルを処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メッセージのルーティングアドレスが、アーカイブが有効になっている SMTP ターゲットであるかを検査します。SMTP グループまたはメールボックスジャーナルが設定されている場合は、[宛先]、[差出人]、[CC]、[BCC]、および[送信者]の各フィールドでも SMTP ターゲットアドレスを検索します。</li> <li>■ ポリシーを適用し、メッセージをアーカイブに格納して、保持カテゴリを適用します。</li> <li>■ 電子メールがアーカイブされたら、保存フォルダからファイルを削除します。</li> </ul> <p>SMTP グループジャーナルと SMTP メールボックスジャーナルで、特定のメッセージのデフォルト動作を変更できます。</p>
SMTP プロビジョニングタスク	<p>SMTP プロビジョニングタスクは、SMTP プロビジョニンググループを処理します。タスクは、グループポリシーを割り当て、各グループの対象ユーザーにアーカイブします。タスクは、1 日に 1 回または 2 回実行されます。優先度が最も高いグループから処理します。</p>
SMTP 保存フォルダ	<p>SMTP 保存フォルダは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられたローカルフォルダです。フォルダの場所は、SMTP アーカイブタスクのプロパティにあります。Enterprise Vault SMTP サーバーは、アーカイブタスクを処理するためにメッセージをフォルダに入れます。</p> <p>アーカイブが失敗したアーカイブタスクのメッセージは保存フォルダから自動的に削除されません。失敗したメッセージは[Failed]サブフォルダに置かれます。</p>
SMTP ポリシー	<p>SMTP ポリシーは SMTP ターゲットアドレスに割り当てられます。このポリシーにより、ターゲットアドレスを含むメッセージがアーカイブされるとき、SMTP アーカイブタスクがジャーナルレポートと X-Header を管理するしくみが決まります。</p> <p>ポリシーが適用されるターゲットアドレスとプロビジョニンググループは、ポリシーのプロパティにも表示されます。</p> <p>SMTP ポリシーは、管理コンソールの[ポリシー] &gt; [SMTP]に表示されます。</p>

コンポーネント	説明
SMTP ターゲットアドレス	<p>SMTP ターゲットアドレスは、Enterprise Vault SMTP サーバーと SMTP アーカイブタスクが Enterprise Vault SMTP サーバーに送信されたメッセージの中で検索する SMTP アドレスです。</p> <p>SMTP ターゲットアドレスは、手動ターゲットとして、またはプロビジョニンググループを使用して追加できます。</p> <p>SMTP ターゲットは、管理コンソールの[対象]、[SMTP]の順に選択すると表示されます。</p>
SMTP プロビジョニンググループ	<p>SMTP プロビジョニンググループを使用すると、複数の SMTP ターゲットにポリシーおよびその他の設定を同時に適用できます。グループ内の SMTP ターゲットには、Active Directory ユーザー、または Active Directory アカウントに関連付けられていない SMTP アドレスを指定できます。</p> <p>SMTP プロビジョニンググループは、管理コンソールで[対象]、[SMTP]、[プロビジョニンググループ]の順に選択すると表示されます。</p>
SMTP アーカイブ	<p>SMTP ジャーナルアーカイブを作成できます。これらは管理コンソールの[アーカイブ] &gt; [SMTP]に表示されます。</p> <p>SMTP ジャーナルまたは SMTP グループジャーナルを設定する場合、SMTP アーカイブタスクは、SMTP、共有、Exchange ジャーナル、または Domino ジャーナルのアーカイブタイプで SMTP メッセージを格納できます。SMTP メールボックスジャーナルの場合、インターネットメールと Exchange メールボックスのアーカイブのみがサポートされます。</p>

## セキュリティと認証

Enterprise Vault SMTP サーバーは、接続のセキュリティ強化および認証のために次の設定オプションを提供しています。

- SMTP 認証では、Enterprise Vault SMTP サーバーとの通信に SASL 認証を使用します。
- 接続のセキュリティでは、Enterprise Vault SMTP サーバーとの通信に TLS を使用します。
- 接続制御では、Enterprise Vault SMTP サーバーと通信可能なホストまたは IP アドレスを指定します。他のいずれのソースからも SMTP 接続は受け入れられません。

## 拡張性とディザスタリカバリ

大規模な環境でジャーナルデータを処理するには、`journal@ev.example.com` などの同じ SMTP ルーティングアドレスを持つ複数の Enterprise Vault SMTP サーバーを設定できます。また、Enterprise Vault SMTP サーバー用に、`journal1@ev.example.com`、`journal2@ev.example.com`、`journal3@ev.example.com` など複数の SMTP ルーティングアドレスを設定できます。負荷分散は、DNS MX レコードやネットワーク負荷分散などの負荷分散技術を使用して処理できます。

ルーティングアドレスまたは SMTP グループジャーナルプロビジョニンググループに複数のアーカイブを割り当てた場合、Enterprise Vault はアーカイブの負荷を複数のサーバーのアーカイブに自動的に分散します。

複数の Enterprise Vault SMTP サーバーを配備することにより、ディザスタリカバリが提供されます。いずれかの Enterprise Vault SMTP サーバーで失敗すると、ロードバランサは次に使用できるサーバーに接続要求を送ります。

また、クラスタ化サービスを使うと、Enterprise Vault SMTP サーバーの可用性を高めることができます。



# Skype for Business アーカイブ

この章では以下の項目について説明しています。

- [Skype for Business アーカイブについて](#)
- [Skype for Business アーカイブのライセンスについて](#)
- [Skype for Business アーカイブの概要](#)
- [Skype for Business アーカイブのコンポーネント](#)

## Skype for Business アーカイブについて

Enterprise Vault では、Skype for Business Server 2015 と Lync Server 2013 のインスタントメッセージング (IM) と会議 (ミーティング) の通信をアーカイブできます。これにより、業界および政府の規制で指定されている法規制順守の必要条件をサポートできます。

Enterprise Vault は次をアーカイブします。

- ピアツーピアのインスタントメッセージ
- マルチパーティインスタントメッセージの会議 (ミーティング)
- アップロードされたコンテンツ (配布資料など) およびイベント関連コンテンツ (参加、退席、アップロード、共有、表示の変更など) を含む会議のコンテンツ
- 会議中に共有されるホワイトボード、投票、質疑応答の各セッション

---

**メモ:** ホワイトボードや投票などの一部の会議機能のデータは、専用の Microsoft XML 形式で格納されます。Enterprise Vault はこの XML にインデックス付けできないため、これらのアイテム内のテキストは検索できません。また、Enterprise Vault はこれらを視覚的な形式で表示することができません。

---

Enterprise Vault は次をアーカイブできません。

- 常設チャットの対話
- ピアツーピアのファイル転送
- ピアツーピアのインスタントメッセージと会議のオーディオとビデオ
- ピアツーピアのインスタントメッセージと会議のデスクトップとアプリケーションの共有
- Microsoft Exchange Server ストレージ経由で収集されたアイテム

## Skype for Business アーカイブのライセンスについて

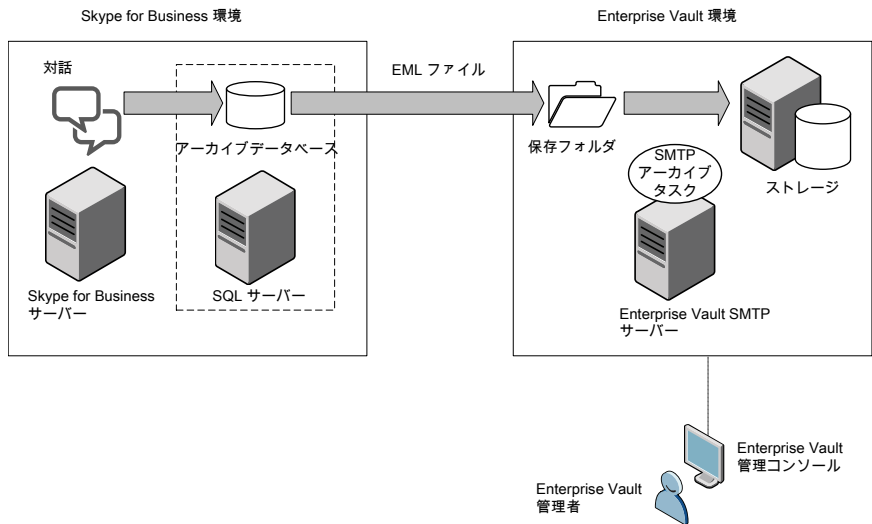
Skype for Business から対話をアーカイブするにはライセンスが必要です。ライセンスについて詳しくは、『インストール/設定』を参照してください。

## Skype for Business アーカイブの概要

Enterprise Vault による Skype for Business のアーカイブでは、Skype for Business Server と Enterprise Vault の環境がリンクされます。Skype for Business におけるアーカイブがユーザーグループまたは個人に対して有効になっていること、および適切なユーザーレベルのアーカイブポリシーが適用されていることが前提になっています。Enterprise Vault では、SQL Server ストアに対話をアクティブにアーカイブするように Skype for Business を構成する必要があります。これらの対話は、アーカイブ用の EML ファイルとして Enterprise Vault 環境に転送されます。

図 11-1 に、Skype for Business の対話をアーカイブする際のプロセスを示します。

図 11-1 Skype for Business アーカイブの概要



アーカイブのプロセスは次のとおりです。

- 1 対話は **Skype for Business** のユーザー間で行われます。
- 2 **Skype for Business** は、**Skype for Business** のアーカイブポリシーに基づいて対話をデータベースにアーカイブします。
- 3 **Enterprise Vault** は、データベースから保存フォルダに対話を電子メールファイル (.eml) としてエクスポートします。対話ごとに 1 つの .eml ファイルが作成されます。
- 4 **Enterprise Vault** はデータベース内の対話にページ済みとマーク付けします。
- 5 **SMTP アーカイブタスク**は、保存フォルダ内の電子メール (.eml) ファイルを処理して、**Skype for Business** ターゲットに指定されているアーカイブに保存します。このタスクの処理時に、ターゲットのプロパティに指定されている保持カテゴリまたは保持計画が適用されます。

## Skype for Business アーカイブのコンポーネント

表 11-1 に、Skype for Business アーカイブの主要なコンポーネントの概要を示します。Skype for Business アーカイブは、Enterprise Vault 管理コンソールまたは Enterprise Vault PowerShell の cmdlet を使って設定できます。

表 11-1 Skype for Business アーカイブのコンポーネントの概要

コンポーネント	説明
SMTP アーカイブタスク	<p>SMTP アーカイブタスクは、次のように保存フォルダの .eml 対話ファイルを処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Skype for Business ターゲットに関連付けられているポリシーを適用します。</li> <li>■ ターゲットに関連付けられているアーカイブに対話を格納します。</li> <li>■ ターゲットの保持カテゴリまたは保持計画を適用します。</li> <li>■ デフォルトでは、アーカイブが正常に完了した場合、保存フォルダから対話ファイルを削除します。エラーが発生した場合は、ファイルを削除しません。</li> </ul>
SMTP 保存フォルダ	<p>SMTP 保存フォルダは、SMTP アーカイブタスクに割り当てられたローカルフォルダです。フォルダの場所は、SMTP アーカイブタスクのプロパティにあります。対話ファイルはアーカイブタスクが処理するフォルダに配置されます。</p> <p>アーカイブタスクがアーカイブできなかった対話は、保存フォルダから自動的に削除されません。これらの対話は、[Failed] サブフォルダに置かれます。</p>
SMTP ポリシー	<p>Skype for Business アーカイブは SMTP ポリシーを必要としません。</p>
保持カテゴリと保持計画	<p>対話をアーカイブすると、それらの対話に保持カテゴリが割り当てられます。このカテゴリ分類によって保持カテゴリ別の検索が可能になるため、対話の取り込みが簡単になります。</p> <p>ユーザーは、保持カテゴリを選択して Skype for Business の対話に割り当てることができます。Enterprise Vault によってアーカイブされた対話は、適切な保持カテゴリが割り当てられた状態で格納されます。</p> <p>保持計画を使うと、分類ポリシー、期限切れ対話の破棄条件といった他の多くの設定を保持カテゴリに関連付けることができます。これらのすべての設定を 1 つ以上のアーカイブに適用できます。</p> <p>詳しくは、管理者ガイドの「保持カテゴリと保持期間の処理」を参照してください。</p>

コンポーネント	説明
Skype for Business ターゲット	<p>対話をアーカイブするターゲット Skype for Business サーバーです。ターゲットプロパティには次の設定が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Skype for Business コンピュータ。</li> <li>■ Enterprise Vault サーバー。</li> <li>■ 保持カテゴリまたは保持計画。</li> <li>■ アーカイブ。</li> <li>■ ボルトストア。</li> </ul> <p>Skype for Business ターゲットは、管理コンソールの[ターゲット]、[Skype for Business]に表示されます。</p> <p>Get-EVSkypeForBusinessTarget PowerShell cmdlet を使ってリストに表示することもできます。</p> <p>Enterprise Vault サーバーごとに 1 つの Skype for Business ターゲットのみがサポートされます。</p>
Skype for Business 対話のアーカイブ	<p>Skype for Business の対話を既存のアーカイブに保存するか、または新しいアーカイブを作成して対話を保存することができます。任意のアーカイブの種類を使うことができますが、Skype for Business ジャーナルに通常使われるアーカイブの種類は SMTP アーカイブ、共有アーカイブ、Exchange ジャーナルアーカイブ、または Domino ジャーナルアーカイブです。これらのアーカイブの種類はサンプリングをサポートします。Skype for Business ジャーナルには、Exchange メールボックスアーカイブまたはインターネットメールアーカイブを使わないことをお勧めします。</p>

# Enterprise Vault Accelerators

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault Accelerators について](#)
- [2 つの Enterprise Vault Accelerator の相違点](#)
- [Compliance Accelerator について](#)
- [Discovery Accelerator について](#)

## Enterprise Vault Accelerators について

Accelerator 製品は、Enterprise Vault 専用のアドオンアプリケーションです。

**Compliance Accelerator** を使うと、組織の電子メッセージのサンプリングと監視を実行できます。監視対象従業員の管理、メッセージのサンプリング、アイテムレビュー、エクスポートなどの機能があります。

**Discovery Accelerator** は、メッセージや文書検索などのデータマイニング用に設計されています。これにより、訴訟事例や内部調査に関連する証拠を提示できます。ケース管理、拡張マルチアーカイブ検索、アイテムレビュー、発行などの機能があります。

**Compliance Accelerator** と **Discovery Accelerator** には、どちらも個別のライセンスが必要です。

現在、同じコンピュータでの **Compliance Accelerator** と **Discovery Accelerator** サーバードウェアの同時実行はサポートされていません。

## 2 つの Enterprise Vault Accelerator の相違点

Compliance Accelerator と Discovery Accelerator は異なる目的で開発されていることを理解することが重要です。

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault のサービスやアーカイブと統合された、電子開示とレビューを行うシステムです。権限のあるユーザーは Discovery Accelerator によって、主任弁護士の調査や法廷で必要な提出物を用意するために、迅速かつ効率のいい方法で、電子メール、文書、その他の電子的なアイテムを検索し、取り込んで保存し、分析し、レビューし、マーク付けし、エクスポートしたり提出物を生成することができます。

大量のアイテムのレビューを法律の専門家や外部の弁護団に依頼すると、非常にコストがかかります。Discovery Accelerator を使うと、開示処理またはケースにレビューアの階層を作成し、レビューアのレベルごとに特定のレビューマークを割り当てることができます。この方法を使えば、弁護士補助のスタッフや法律専門以外のスタッフが検索結果や収集結果の初期レビューを行うことができ、特別なアイテム、関連するアイテム、問題のあるアイテムのみを弁護士に任せることができます。必要に応じて、関連するアイテムを、適切な「通し」番号付きで生成したり、PST、Domino NSF データベース、HTML、MSG、ZIP などのさまざまな形式で単に Discovery Accelerator からエクスポートしたりすることができます。

Compliance Accelerator により、企業は継続的な電子メッセージ監視ポリシーを導入し、会社や SEC などの業界規制団体の要件を満たすことができます。会社が部署の監視を設定するため、Compliance Accelerator での作業は部署および部署内の監視される従業員によって設定されます。Compliance Accelerator は、電子メール、ソーシャルメディアメッセージ、インスタントメッセージ、Bloomberg メッセージ、FAX を排他的に処理します。ファイルシステムアーカイブに保存されている文書の検索や表示は実行できません。

Compliance Accelerator は、メッセージがアーカイブされるとメッセージをサンプリングし、部門のレビューセットに自動的に追加します。レビューアには Discovery Accelerator レビューアと同様のルールがありますが、Compliance Accelerator のマーク付けスキームの方が簡単です。

いずれの Accelerator 製品にも自動検索機能があります。Compliance は、特定の動作（不適切な語句、企業外部への機密情報の送信など）に関して企業のメールを継続的に監視するために使えます。

## Compliance Accelerator について

Compliance Accelerator の使用はそれ自体組織を NASD 3010 および 3110 などの規制要件に準拠させるものではありません。ただし、Compliance Accelerator はコンプライアンス戦略を実装するためのツールを提供します。

企業のコンプライアンス戦略に必要なのは、一般的に次のような機能です。

- コンプライアンス担当者によって定期的にチェックできるよう、従業員の電子メッセージを特定の割合でキャプチャする機能。電子メッセージには、電子メール、ソーシャルメディアメッセージ、FAX、Bloomberg メッセージ (特に財務部門) などが含まれます。コンプライアンス戦略に従って、内部メッセージ (特定の部門間の従業員同士の送信メッセージ) または外部メッセージ (特定の部門の従業員と企業外部との送信メッセージ) を監視する必要があります。
- 不適切な語句や不法取引 (たとえばインサイダー取引など) の事例をキャプチャするために、電子メッセージ上で定期的に実行する検索機能。
- メッセージを数年間安全に格納し、随時簡単に取り込める機能。
- メッセージのレビュー履歴を表示できる詳細な監査機能。

Enterprise Vault を使用して、すべての企業メッセージの安全なアーカイブを提供できます。そのうえで、Compliance Accelerator は Enterprise Vault を基盤として、組織のコンプライアンス戦略の導入を支援するために、次の追加機能を実現します。

- さまざまなアーカイブ (Exchange または Domino ジャーナルメールボックス、SMTP、共有) のアイテムの設定可能なランダムサンプルを収集してレビュー用のメッセージセットに追加するオプション。
- 監視対象の従業員を定義し、会社内の部門を反映した組織的な構造にグループ化するシステム。上級管理者などの特定の従業員 (「例外従業員」と呼ばれる) のメッセージを別に保存し、特別に割り当てられたレビューアがレビューできます。
- 企業のコンプライアンス戦略の必要条件に適合するようにコンプライアンス管理者が Compliance Accelerator を設定するためのクライアントアプリケーション。たとえば、従業員の部門の管理、指定されたコンプライアンス担当者や管理者への細分化されたアクセス権限の割り当て、メッセージの自動検索のスケジュール、検索語句の追加と管理などを行うことができます。
- クライアントアプリケーションを使うと、指定されたコンプライアンス担当者またはレビューアは、キャプチャされたメッセージを精査してマーク付けできます。
- 監視対象のすべての従業員の履歴情報、キャプチャされたメッセージ、各メッセージに適用されるレビュー処理は、SQL データベースに安全に保存されます。

## Compliance Accelerator コンポーネント

表 12-1 に、Compliance Accelerator コンポーネントを示します。

表 12-1 Compliance Accelerator コンポーネント

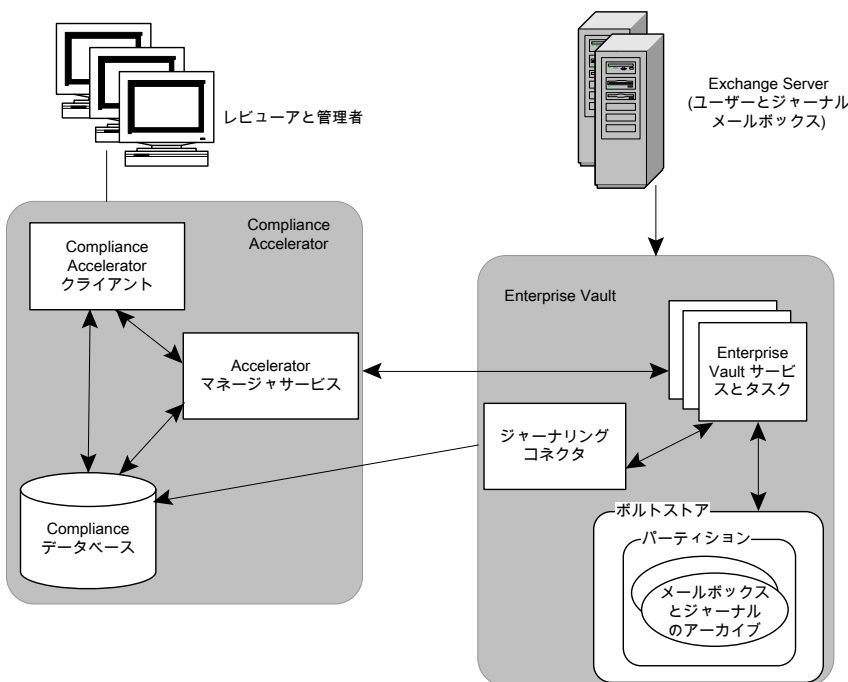
コンポーネント	メモ
Compliance Accelerator クライアント	このクライアントは、Compliance Accelerator の管理者がシステムの設定と管理を行ったり、レビューアがアイテムにアクセスしてマーク付けするのに使います。



コンポーネント	メモ
Accelerator マネージャ Web サイト	この Web サイトを使って、データを格納する複数の <b>Compliance Accelerator</b> データベースの設定と管理を行います。この機能を使うと、たとえば、データを日付範囲や組織単位で分割できます。
Enterprise Vault Accelerator Manager Service	<b>Compliance Accelerator</b> クライアントからの要求を処理し、 <b>Enterprise Vault</b> コンポーネントと連動してアーカイブへのアクセスや検索などを実行します。
カスタマーデータベース	<p>カスタマーデータベースは、<b>Compliance Accelerator</b> が部門の詳細、ユーザーロール、検索結果などを格納する <b>SQL</b> データベースです。</p> <p>複数のカスタマーデータベースを設定できます。</p>
設定データベース	設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する <b>SQL Server</b> 、データベースファイル、ログファイルの詳細を格納する <b>SQL</b> データベースです。

図 12-1 は、**Compliance Accelerator** コンポーネントが **Enterprise Vault** と連動してアーカイブデータにアクセスする方法を示しています。この図では、**Exchange Server** からデータがアーカイブされています。代わりに、**Domino** メールサーバーからデータをアーカイブすることもできます。

図 12-1 Compliance Accelerator と Enterprise Vault の連動方法



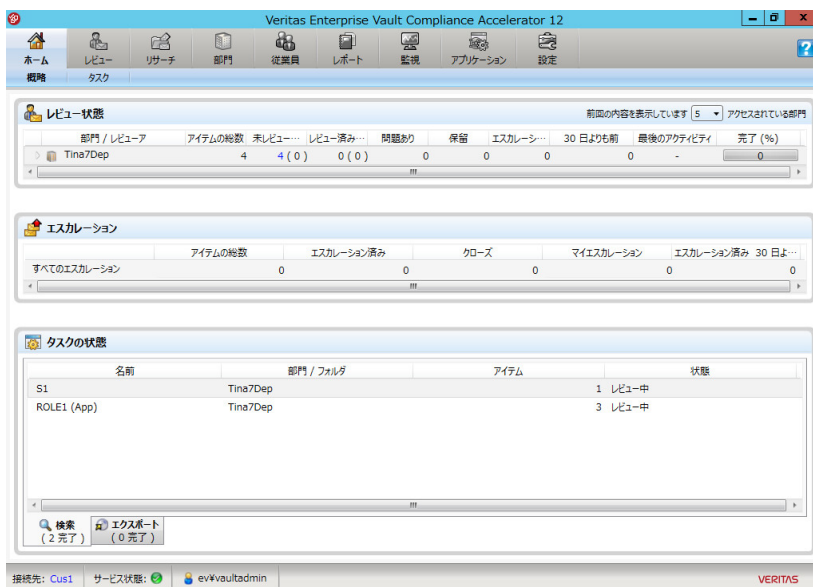
Accelerator マネージャサービスは、Enterprise Vault ディレクトリから、アーカイブ、Enterprise Vault のサービス、タスクの場所を見つけます。検索の実行には Enterprise Vault Indexing Service が使われ、メッセージのレビューには Enterprise Vault Storage Service が使われます。

小規模のインストールでは、Compliance Accelerator コンポーネントをすべて Enterprise Vault と同じコンピュータに常駐させることができます。大規模なインストールでは、Compliance Accelerator コンポーネントと Enterprise Vault を別のコンピュータに分散させて設定することを推奨します。

## Compliance Accelerator クライアントアプリケーション

クライアントアプリケーションを使うと、管理者はアプリケーションと部門管理機能を利用でき、レビューアはメッセージのレビューとマーク付け機能を利用できます。ログインユーザーに割り当てられたロールによって、利用できる機能が決まります。

図 12-2 Compliance Accelerator クライアント



## Compliance Accelerator を使った部門管理

Compliance Accelerator システム内で、監視対象従業員は部門に組織化されます。部門には、一般的には企業組織を反映させます。部門への従業員の追加やレビューの割り当てなどのタスクは、ドラッグアンドドロップまたは右クリックオプションで行えます。

Compliance Accelerator システム内のタスクを実行するには、ユーザーは適切なロールを割り当てられる必要があります。ロールには、設定可能な権限グループが含まれます。社内の組織に適合する新しいロールの作成や、大半のロールに割り当てられている権限の変更を行えます。

管理者をシステムのロールに割り当て、アプリケーションレベルのタスクの実行を許可できます。それ以外の管理者には、特定の部門のみを管理できるロールを割り当てることができます。レビューアのロールを使うと、コンプライアンス担当者は、メッセージのマーク付けとコンポーネントの追加、またはメッセージの表示のみを行えます。コンプライアンススーパーバイザのロールを使うと、上級のコンプライアンス担当者は、下級担当者の作業のチェック (または評価)、特定の従業員への例外状態の割り当て、それらの従業員が適切なレビューによってレビューされていることの確認などを行えます。

レビューアは、別のレビューアの権限を代行することもできます。

## Compliance Accelerator 検索

無作為なメッセージのサンプルを取得するだけでなく、不適切な語句やビジネス行為に関して従業員のメッセージの監視が必要な場合もあります。これを実行するには、**Compliance Accelerator** を使って、**Enterprise Vault** サービスによってアーカイブされたメッセージの検索を実行します。

**Compliance Accelerator** では、広範囲の検索基準を使えます。検索対象の単語とフレーズ、日付範囲、メッセージサイズ、種類と方向、作成者と受信者の詳細、添付ファイルの詳細があります。

メッセージまたは添付ファイルの内容のフレーズ検索では、**Enterprise Vault** のアーカイブのインデックスを「完全」に設定する必要があることに注意してください。

検索は検索実行のスケジュールを使って定期的に実行するか、または特定のタスクに対して手動で実行できます。アプリケーション管理者は複数の部門で検索を同時に実行するように設定できますが、部門管理者による検索実行は、その管理者が担当している部門のみに限定されます。検索から戻されたメッセージは、部門のレビューアが精査の対象とするレビューセットに追加できます。検索結果は、自動または手動で受け入れます。

デフォルトでは、**Compliance Accelerator** は検索の結果から重複したアイテムを識別して削除するため、それらはレビューセットに表示されません。1 つのアイテムが別のものと重複しているかどうかを判断するために、**Compliance Accelerator** は作成者の表示名、件名、添付ファイルの数のようなアイテムのメタデータプロパティを比較します。

**Compliance Accelerator** に検索が設定されると、**Accelerator** マネージャサービスは検索を実行するために **Enterprise Vault Indexing Service** に接続します。検索結果が受け入れられると、検索と結果の詳細はカスタマーデータベースに無期限に格納されます。

検索のスケジュールには、**SQL Server** エージェントサービスが使われます。

## Compliance Accelerator を使ったメッセージのレビュー

レビューアは、**Compliance Accelerator** クライアントを使って、キャプチャされた各メッセージを精査し、メッセージが受け入れ可能であるか、またはさらに調査が必要であるかを示すレビュー状態のマークを割り当てます。状態のマークは、社内のレビューシステムに適合するようにカスタマイズできます。

レビュー処理の監査記録があります。これは、メッセージがレビューされた日付、レビューア、レビューアが提案した処置の確認を可能にします。

## Compliance Accelerator レポート

レポートシステムを使うと、各種レポート(ユーザーに割り当てられたロール、部門の各従業員に対してキャプチャされたメッセージの割合、部門のメッセージレビューの進捗状況など)を生成できます。

## Compliance Accelerator によるメッセージのエクスポート

レビューによってマークとコメントが付けられたメッセージを Compliance Accelerator システムからエクスポートできます。これにより、Compliance Accelerator システムへのアクセス権限のないユーザーが、部門のレビューセット内のメッセージを参照できるようになります。

## Compliance Accelerator 設定データ

Compliance Accelerator システムの設定データ (部門、従業員、ロール、監視ポリシーなど) は、通常は Compliance Accelerator クライアントを使って追加されます。これを使うと、Windows のユーザーアカウントとユーザーグループを同期することで監視対象の従業員を追加できます。代わりに、XML ファイルを使って大量のデータをロードすることもできます。

## Discovery Accelerator について

Discovery Accelerator を使って、社内の Enterprise Vault のアーカイブ全体にわたる検索を実行し、特定の調査または法的事例に含まれる基準に合致する文書とメッセージを迅速に見つけることができます。すべての種類のアーカイブ (ユーザーとジャーナルメールボックスのアーカイブ、ファイルシステムアーカイブ、SharePoint アーカイブ、パブリックフォルダアーカイブ) を検索できます。

Discovery Accelerator は、Enterprise Vault で利用可能な検索機能を使いますが、法的開示の場合に必要な不可欠である安全性を付加します。検索基準と検索結果を安全に保管するために、Discovery Accelerator は、実行された検索、使われた条件、見つかったアイテムすべての詳細を格納します。これらの詳細は参照できますが、変更またはシステムから削除することはできません。

Discovery Accelerator のレビューシステムを使うと、検索で見つかったすべてのアイテムを正しい順序で効率よくチェックできます。このシステムを使って、許可を受けたユーザーは、検索で見つかったアイテムをレビューし、アイテムがケースに関連するかどうかに応じてレビューマークを割り当てます。レビューアは、別のレビューアが適用したマークを確認できるため、二重の手間をかけずに、作業が必要なアイテムのみをすばやく選択できます。ケース管理者は、ケースに関するすべてのレビューアの進捗状況を追跡できます。

弁護士によるレビュー作業は、アイテムが大量であればかなりのコストがかかる場合があります。Discovery Accelerator を使うと、ケースに対してレビューアの階層を作成でき、さまざまなレベルのレビューアが特定のレビューマークを割り当てることができます。このようにして、法律の専門家でない担当者が低コストで検索結果の初期レビューを実施し、関連するアイテムまたは疑いのあるアイテムのみを弁護士にまかせることができます。

その後、裁判所への証拠提出のために、関連アイテムに適切な通し番号を割り当て、発行できます (通常は PST ファイル)。アイテムが特定のケースの証拠として発行されると、

それらのアイテムは、レビュー履歴とともに **Discovery Accelerator** システムで安全に保存されます。この後レビューアがマークを追加したり、そのケースでアイテムを再公開したりすることはできません。裁判所の要求に応じて、特定のアイテムに適用されたレビュー処理を示すレポートを生成できます。

デフォルトでは、**Discovery Accelerator** はレビューセットとエクスポート実行のアイテムから重複したアイテムを自動的に識別して削除します。1 つのアイテムが別のものと重複しているかどうかを判断するために、**Discovery Accelerator** は作成者の表示名、件名、添付ファイルの数のようなアイテムのメタデータプロパティを比較します。さらに、分析が有効にされたケースのアイテムについてのみ、**Discovery Accelerator** はアイテムの内容を比較します。

ケースのアイテムが削除されないように、管理者はケースに関連するアイテムにリーガルホールドの状態を割り当てることができます。これにより、手動または自動的な削除 (Enterprise Vault による期限切れ削除処理) ができなくなります。

## Discovery Accelerator の分析機能

必要に応じて、**Discovery Accelerator** のケースで分析を有効にすることを選択できます。この機能によって、ケース内に収集したアイテムのメタデータと内容をさらに分析できます。分析による他の利点は、必要に応じて次の操作を実行できることです。

- ケースに追加するアイテムを自動的に **Discovery Accelerator** がマーク付けしたり、分類するためのルールを設定します。
- 人間による操作を少なくして大量のアイテムを分類すると、最終的には、手動レビューの対象となるレビューセットは効率のよい小規模なレビューセットになります。
- すべての対話スレッドを 1 つの画面で確認、レビューします。
- ケースのアイテム内でクイック検索または詳細検索を実行します。

これらの機能は、ガイド付きレビューと呼ばれる新しいレビュー操作を提供します。

## Discovery Accelerator コンポーネント

表 12-2 に、Discovery Accelerator コンポーネントを示します。

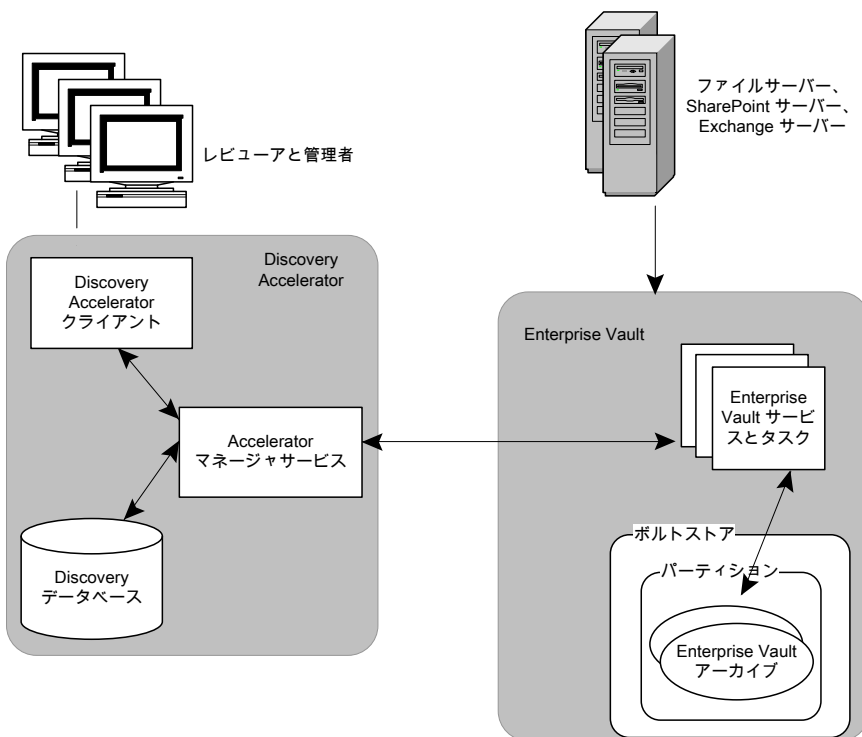
表 12-2 Discovery Accelerator コンポーネント

コンポーネント	メモ
Discovery Accelerator クライアント	このクライアントは、 <b>Discovery Accelerator</b> の管理者がシステムの設定と管理を行ったり、レビューアがアイテムにアクセスしてマーク付けするのに使います。

コンポーネント	メモ
Accelerator マネージャ Web サイト	この Web サイトを使って、データを格納する複数の Discovery Accelerator データベースの設定と管理を行います。この機能を使うと、たとえば、データを日付範囲や組織単位で分割できます。
Enterprise Vault Accelerator Manager Service	Discovery Accelerator クライアントからの要求を処理し、Enterprise Vault コンポーネントと連動してアーカイブへのアクセスや検索などを実行します。
カスタマーデータベース	<p>カスタマーデータベースは、Discovery Accelerator がケースの詳細、ユーザーロール、検索結果、レビューマークとタグなどを格納する SQL データベースです。</p> <p>複数のカスタマーデータベースを設定できます。</p>
設定データベース	設定データベースは、カスタマーデータベースの場所を指定し、使用する SQL Server、データベースファイル、ログファイルの詳細を格納する SQL データベースです。
カストディアンマネージャ Web サイト(オプション)	この Web サイトを利用して、Discovery Accelerator で検索する「カストディアン」(個々の従業員)とカストディアングループの詳細を格納できます。カストディアングループは、Windows グループまたは Domino グループと配布リスト、Active Directory 検索または Domino LDAP 検索、Active Directory コンテナなどの従業員の任意の集まりです。
Discovery Accelerator API Web サイト(オプション)	<p>この Web サイトで、Discovery Accelerator API を使って他社のツールをソフトウェアに統合し、データを Discovery Accelerator カスタマーデータベースに取り込んだり、カスタマーデータベースからエクスポートしたりすることができます。</p> <p>Discovery Accelerator API について詳しくは、Veritas サポートにお問い合わせください。</p>

図 12-3は Discovery Accelerator コンポーネントの概要とアプリケーションと Enterprise Vault の統合方法を示しています。

図 12-3 Discovery Accelerator と Enterprise Vault の連携方法



次の点に注意してください。

- Discovery Accelerator と Enterprise Vault 間のすべての通信は、Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスを介して行われます。
- Enterprise Vault Accelerator マネージャサービスは、Enterprise Vault Directory Service を使って、アーカイブ、データベース、サービスを検出します。Enterprise Vault Storage Service は、アイテムをプレビューし、元のアイテムをフェッチするために使われます。Enterprise Vault Indexing Service は、アーカイブでアイテムを検索するために使われます。

Discovery Accelerator をインストールする前に、現在の Enterprise Vault と SQL Server のインストール状態を検討し、Discovery Accelerator の統合方法を計画する必要があります。小規模なインストールでは、Discovery Accelerator を Enterprise Vault と SQL Server と同じコンピュータにインストールできますが、通常は別のコンピュータにインストールします。

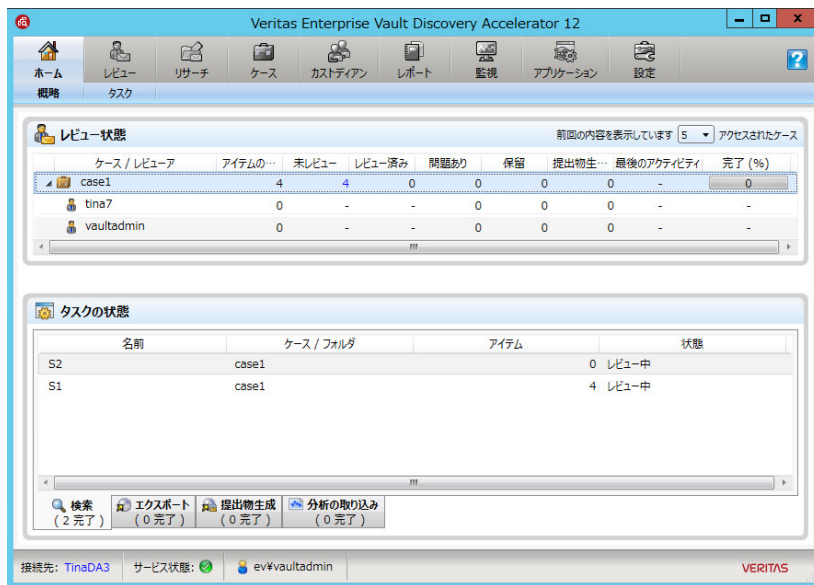
大企業の場合には、複数のサーバーに負荷を分散させるために、Enterprise Vault と Discovery Accelerator を別のコンピュータにインストールすることを推奨します。



## Discovery Accelerator クライアントアプリケーション

クライアントアプリケーションを使うと、管理者はアプリケーションとケース管理機能を利用でき、レビューアはケース内のアイテムのレビューとマーク付け機能を利用できます。ログインユーザーに割り当てられたロールによって、利用できる機能が決まります。

図 12-4 Discovery Accelerator クライアント



### Discovery Accelerator によるケースの管理

Discovery Accelerator システム内で、情報はケースに組織化されます。

ケースの内容は次のとおりです。

- ケース管理とレビューアのロール
- アイテムのレビュー時に使われるケースマーク付けスキーム
- 検索と検索結果
- メッセージの検索時に使われる対象のアドレス
- Discovery Accelerator から「提出物生成」(発行) またはエクスポートされるアイテム

Discovery Accelerator システム内のタスクを実行するには、ユーザーは適切なロールを割り当てられる必要があります。ロールには、設定可能な権限グループが含まれます。社内の組織に適合する新しいロールの作成や、大半のロールに割り当てられている権限の変更を行えます。

管理者をシステムのロールに割り当て、アプリケーションレベルのタスク (ケースの作成、複数のケースでの検索実行など) の実行を許可できます。それ以外の管理者には、特定のケースのみを管理できるロールを割り当てることができます。レビューアのロールを使うと、ユーザーは、アイテムのレビュー、特定のマークの適用とコメントの追加を行います。

## Discovery Accelerator 検索

Discovery Accelerator 検索の基準には、特定の日付範囲、特定のアドレスとやり取りされたメッセージ、ファイル内容の単語またはフレーズ (メッセージの添付ファイルを含む) などがあります。Enterprise Vault を使い組織のカスタム属性のインデックスを作成すると、これらのカスタム属性を Discovery Accelerator 検索でも使えます。

アイテム内容のフレーズ検索では、アーカイブのインデックスを「完全」に設定する必要があります。あることに注意してください。

検索結果は、受け入れることも拒否することもできます。受け入れられた結果は、精査の対象としてケースレビューアのレビューセットに追加され、特定のレビューアに割り当てることができます。検索結果は、自動または手動で受け入れます。

Discovery Accelerator に検索が設定されると、Accelerator マネージャサービスは検索を実行するために Enterprise Vault Indexing Service に接続します。検索結果が受け入れられると、検索と結果の詳細はカスタマーデータベースに無期限に格納されます。

## Discovery Accelerator を使ったアイテムのレビュー

レビューアは、Discovery Accelerator クライアントを使って、各アイテムをチェックし、アイテムがケースに関連しているか、またはさらに調査が必要であることを示すマークをケースマーク付けスキームから割り当てます。レビューアが使えるマークは、そのユーザーが割り当てられているロールによって異なります。

マーク付けスキームは、担当のケースに適合するようにカスタマイズできます。たとえば、弁護士によるアイテムレビューを最小限に抑えるために、レビューアの階層が必要だとします。マークのセットをレビューアの各レベルに割り当てることができます。

レビュー処理の監査記録があります。これは、アイテムがレビューされた日付、レビューア、レビューアが提案した処置の確認を可能にします。

レビューアは格納されたアイテムを参照してマークを付加できますが、実際のアイテムは一切変更できません。

## Discovery Accelerator によるアイテムの生成とエクスポート

すべてのレビューアがケース内のアイテムのチェックを終了した後、裁判所への証拠提出のために、Discovery Accelerator により適切な形式でそれらのアイテムを生成できます。アイテムの提出物を生成するとそれらのアイテムの状態は提出物生成済みに変更さ

れ、状態がそれ以上変更されないようにロックされます。提出物生成されたアイテムには、各ケースに関連する文書に定義する正式な通し番号も割り当てられます。

エクスポートオプションは、提出物生成のように正式なものではありません。このオプションを使うと、**Discovery Accelerator** へのアクセス権限のない従業員がレビューセット内のアイテムを参照できるようになります。エクスポートされたアイテムはロックされず、状態も変更されません。したがって、エクスポート後もアイテムの処理を続行できます。エクスポートされたアイテムにはエクスポート ID が付与されますが、これは通し番号とは異なります。

アイテムは、MSG、HTML、PST ファイルとして提出物の生成またはエクスポートできます。HTML を使うと、アイテムのコメントとレビュー履歴情報を含めることができます。PST 形式の場合、パスワードと各 PST サイズの限度の設定オプションがあります。

## Discovery Accelerator 設定データ

Discovery Accelerator システムの設定データ(ケース、対象のアドレス、ロールなど)は、通常は **Discovery Accelerator** クライアントを使って追加されます。代わりに、XML ファイルを使って大量のデータをロードすることもできます。

# 耐性のある構築

この章では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault と VCS について
- Enterprise Vault と Windows Server フェールオーバークラスタについて
- Enterprise Vault ビルディングブロックについて

## Enterprise Vault と VCS について

Enterprise Vault を VCS (Veritas Cluster Server) と統合すると、Enterprise Vault で高可用性ソリューションを実現できます。

## サポートされる VCS 設定とソフトウェア

---

**メモ:** このマニュアルでは終始、VCS と SFW HA (Storage Foundation HA for Windows) という用語を使っています。ただし、バージョン 7.0 のクラスタソフトウェアでは、これらの用語の代わりにそれぞれ Veritas InfoScale Availability と Veritas InfoScale Enterprise という用語を使っています。

---

アクティブ/パッシブ構成と N+1 構成はどちらもサポートされていますが、アクティブ/アクティブ構成はサポートされていません。

アクティブ/パッシブ構成は、各 Enterprise Vault サーバーに専用のスペアサーバーを用意して、プライマリサーバーの停止時に備えて待機させておく構成です。N+1 構成は、各 Enterprise Vault サーバーに 1 台のコンピュータを用意して、いずれかのアクティブサーバーのフェールオーバーに備えて 1 台以上のスペアサーバーを待機させておく構成です。

次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- サポート対象バージョンの VCS

- Enterprise Vault
- サポート対象バージョンの Windows Server

ソフトウェアのサポート対象バージョンについて詳しくは、Enterprise Vault [Compatibility Charts](#) を参照してください。

計画しているクラスタ内のサーバーには、Compliance Accelerator も Discovery Accelerator もインストールしないでください。これらの製品はクラスタ内ではサポートされません。ただし、クラスタ化されていない Compliance Accelerator または Discovery Accelerator はクラスタ化された Enterprise Vault 仮想サーバーを参照できます。

## Enterprise Vault とVCS GenericService エージェントについて

VCS GenericService エージェントは次の Enterprise Vault のサービスをオンラインにして、それらの状態を監視した後、オフラインに戻します。

- 管理サービス
- ディレクトリサービス
- インデックスサービス
- ショッピングサービス
- ストレージサービス
- タスク制御サービス
- SMTP サービス (Enterprise Vault サーバーに Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントをインストールして設定している場合のみ)

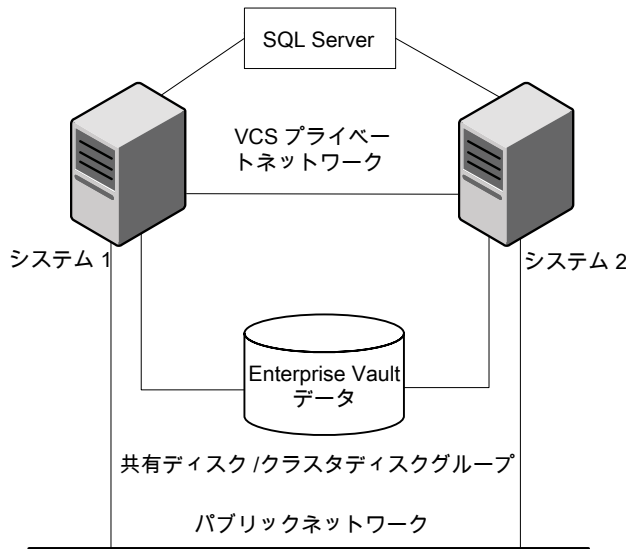
リソースの種類の定義、属性の定義、設定例など、GenericService エージェントについて詳しくは『Cluster Server 付属エージェントリファレンスガイド』を参照してください。

GenericService エージェントは、設定したサービスが実行されない場合にアプリケーションエラーを検出します。エラーが検出されると、Enterprise Vault サービスグループは、サービスグループのシステム一覧で次に利用可能なシステムにフェールオーバーし、サービスはその新しいシステム上で起動されます。これにより、Enterprise Vault が管理、アーカイブしているデータの可用性を維持できます。

## VCS クラスタでの一般的な Enterprise Vault 構成

図 13-1 は、一般的な構成を示しています。

図 13-1 アクティブ/パッシブフェールオーバー構成



この例では、Enterprise Vault サービスデータ用のボリュームが、共有ストレージのクラスタディスクグループに設定されています。Enterprise Vault 仮想サーバーはアクティブノード (システム 1) に設定されています。システム 1 でエラーが発生した場合、システム 2 がアクティブノードとなり、Enterprise Vault 仮想サーバーはシステム 2 でオンラインになります。

## Enterprise Vault と Windows Server フェールオーバークラスタについて

サポートされているバージョンの Windows Server のフェールオーバークラスタで Enterprise Vault をクラスタ化すると、Enterprise Vault で高可用性ソリューションを実現できます。

サポート対象バージョンについて詳しくは、Enterprise Vault [Compatibility Charts](#) を参照してください。

Enterprise Vault クラスタサーバーを作成し、クラスタ内の物理ノード間でフェールオーバーを可能にすることによって、高可用性が実現されます。クラスタサーバー上で実行される Enterprise Vault サービスは、仮想 IP アドレス、仮想コンピュータ名、仮想 Microsoft メッセージキュー、高可用性を備えた共有ディスクを使って動作します。エラーが発生した場合は、クラスタソフトウェアによって、サーバーのリソースがクラスタ内の別の物理ノードに移動されます。

## サポートされる Windows Server フェールオーバークラスタの構成

Enterprise Vault クラスタは次のノードで構成されます。

- 1 つ以上のプライマリノード。通常はそれぞれが Enterprise Vault クラスタサーバーをホストします。
- 1 つ以上のフェールオーバーノード。プライマリノードでエラーが発生した場合に Enterprise Vault クラスタサーバーのホストとしての役割を引き継ぐために待機します。

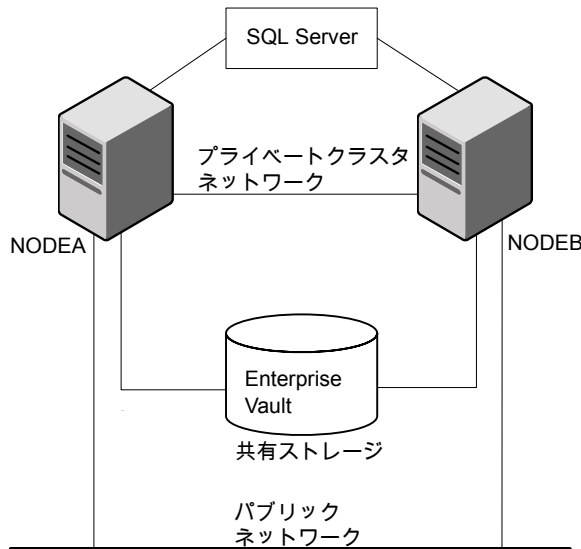
Enterprise Vault では、「アクティブ/アクティブ」クラスタ構成は許可されていません。つまり、クラスタノード上で実行できる Enterprise Vault クラスタサーバーは、常に 1 台のみです。この制限に対応したすべての操作モードで Enterprise Vault を設定できます。次に例を示します。

- アクティブ/パッシブフェールオーバーペア: プライマリノードに専用のフェールオーバーノードが存在する構成。
- N+1 (ホットスタンバイサーバー): 複数のプライマリノードが 1 台のフェールオーバーノードを共有する構成。一度に 1 台のノードエラーにのみ対応できます。
- N+M:N 台のプライマリノードと M 台のフェールオーバーノードでホットスタンバイの概念を拡張した構成。一度に M 台のノードエラーにのみ対応できます。
- N+M 多対多構成: N+M に類似しているが、フェールオーバー後、元のノードにフェールバックする必要がありません。元のノードが再度利用可能になると、そのノードはフェールオーバーノードとして動作します。

## Windows Server フェールオーバークラスタでの共通の Enterprise Vault の設定

図 13-2 は、一般的な構成を示しています。

図 13-2 アクティブ/パッシブフェールオーバー構成の Enterprise Vault



この例では、次のようになっています。

- NODEA と NODEB はフェールオーバークラスタにある 2 つの Enterprise Vault ノードです。NODEA はプライマリノードです。NODEB はフェールオーバーノードです。
- SQL サーバーと Microsoft Exchange もこのクラスタに設定されている場合があります。これらは Enterprise Vault に影響しません。
- Enterprise Vault サービスデータ用のボリュームが、共有ストレージに設定されています。
- Enterprise Vault クラスタサーバーはプライマリノード (NODEA) に設定されています。NODEA でエラーが発生した場合、クラスタサーバーのリソースが NODEB にフェールオーバーし、クラスタサーバーは NODEB でオンラインになります。

## Enterprise Vault ビルディングブロックについて

クラスタ化の代わりに、Enterprise Vault ビルディングブロックを実装することもできます。ビルディングブロックは、Enterprise Vault の拡張性と信頼性を向上させるための直接的な方法論の 1 つです。ビルディングブロックを使って構築されたソリューションでは、容量増加のための拡張が簡単にできます。また、ビルディングブロックは、アクティブ/パッシブ、アクティブ/アクティブなどのさまざまなフェールオーバー方式に合わせて設定できます。



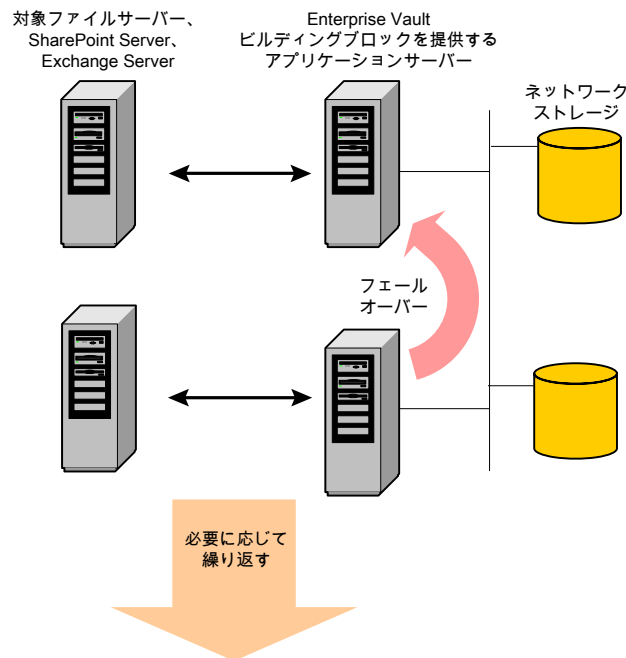
ビルディングブロックとは、アプリケーションサーバーが管理している繰り返し可能な Enterprise Vault の機能の単位のことです。最大のワークロードに対応できるように Enterprise Vault を拡張するには、図 13-3 に示すように、十分なビルディングブロックを追加します。

各ビルディングブロックは同じ機能を提供する Enterprise Vault サービスのセットで構成されます。

これらのサービスを組み合わせたものが、ビルディングブロックと呼ばれる単位です。ビルディングブロックは固有の名前により識別されます。

Enterprise Vault のビルディングブロックは、特定のサーバー上で管理されていますが、そのサーバー上でエラーが発生した場合には、ビルディングブロックを別のサーバーにフェールオーバーできます (クラスタ化する必要はありません)。フェールオーバーしても、デスクトップを再設定する必要がないため、ユーザーの操作には影響はありません。

図 13-3 Enterprise Vault ビルディングブロック



## ビルディングブロックと高可用性

N+1 アーキテクチャでは、N 台のサーバーの 1 台にエラーが発生すると、そのエラーが発生したサーバーに置き換えられるようにアイドルサーバーが待機しているため、ビルディングブロック方式を使えます。「+1」サーバーを IIS を実行する予備のホットスタンバイサーバー

バーとして使い、このサーバーへ他のサーバーのワークロードの一部を分散することもできます。

アクティブ/アクティブアーキテクチャでは、エラーの発生したサーバーのワークロードを既存のサーバーへ分散できます。サーバーの容量に余裕があり、処理量を増加できる場合には、アクティブ/アクティブソリューションを実装できます。空き容量の程度によっては、フェールオーバー後に実質パフォーマンスが低下することがあります。設計段階ではこの点についても検討しておく必要があります。

# コンポーネントのインストール計画

この章では以下の項目について説明しています。

- [コンポーネントのインストール計画について](#)
- [Enterprise Vault サーバーの有効なコンピュータ名について](#)
- [インストールを計画する場合の Enterprise Vault コンポーネントの前提条件](#)
- [Enterprise Vault コンポーネントの配備を計画する場合の考慮事項](#)
- [Enterprise Vault ディレクトリサービスのインストール計画](#)
- [Enterprise Vault のサービスとタスクの設定先](#)
- [Enterprise Vault データベースとそのインストールの計画](#)
- [ボルトストアグループとボルトストアインストール計画](#)
- [管理コンソールのインストール](#)
- [クライアントコンポーネントのインストール計画](#)

## コンポーネントのインストール計画について

このセクションは、Enterprise Vault サイトのコンピュータにインストールする必要のある Enterprise Vault コンポーネントを計画するのに役立ちます。

## Enterprise Vault サーバーの有効なコンピュータ名について

コンピュータ名に Unicode 文字が含まれている Enterprise Vault サーバーは、適切に動作しない可能性があります。Enterprise Vault サーバーのコンピュータ名には ASCII 文字のみ含めることを強く推奨します。

## インストールを計画する場合の Enterprise Vault コンポーネントの前提条件

大部分の Enterprise Vault コンポーネントで必要になるソフトウェアとシステムの設定に関する標準的なリストが用意されています。Enterprise Vault コンポーネントの一部をインストールすると、別のコンポーネントが自動的にインストールされることもあります。このため、各コンピュータ上で前提条件が正しく設定されていることを Enterprise Vault サイトで確認する必要があります。必要なすべてのソフトウェアと設定については、『インストール/設定』ガイドを参照してください。

## Enterprise Vault コンポーネントの配備を計画する場合の考慮事項

Enterprise Vault コンポーネントを配備するには、さまざまな方法があります。

Enterprise Vault の配備の方法に影響する要素は、次のとおりです。

- 格納するデータの予想量とデータを保持する予定期間。
- 使用できるコンピュータのリソースの量。つまり、ディスク領域やメモリ。
- コンピュータ間のネットワーク接続。
- Enterprise Vault の単一インスタンスのストレージを使うかどうか。
- インデックスサーバーグループを使うかどうか。
- オフラインのストレージ領域を使うかどうか。使用する場合、ボルトストアに必要なストレージ領域は減少します。

# Enterprise Vault ディレクトリサービスのインストール計画

Enterprise Vault Directory Service はディレクトリデータベースに接続できるようにする必要がありますが、データベースと同じコンピュータ上に Directory Service をインストールする必要はありません。

必要に応じて、複数の Enterprise Vault サイトで Directory Service とそれに関連付けられたディレクトリデータベースを共有できます。ディレクトリサービスでは、複数の DNS サイトのエイリアスを使って各サイトを識別します。アーカイブ可能なファイルの種類 (Exchange メッセージクラスまたは Domino フォーム) を除き、サイト間では設定情報は共有されません。

ディレクトリサービスとそれに関連付けられたデータベースは、ディレクトリサービスが動作する Enterprise Vault サイト内のすべてのコンピュータ (Compliance Accelerator や Discovery Accelerator を実行しているサーバーなど) でいつでも利用できるようにする必要があります。

ディレクトリデータベースは、SQL 管理ツールを使って管理されます。

p.159 の「[Enterprise Vault データベースとそのインストールの計画](#)」を参照してください。

Enterprise Vault では、最初に次に示すディレクトリデータベース用の固定ディスク領域が割り当てられます。

- データファイル用に 10 MB
- トランザクションログファイル用に 25 MB

データベースのポピュレート後、ディレクトリデータベース内のデータ量は、時間が経過してもあまり変化しません。

## Enterprise Vault のサービスとタスクの設定先

Enterprise Vault サーバーのコアコンポーネントは、次の主要なサービスで構成されています。

- 管理サービス
- ディレクトリサービス
- インデックスサービス
- ショッピングサービス
- ストレージサービス
- タスク制御サービス

アーカイブタスクと PST 移行タスクは、Enterprise Vault がインストールされて設定された後、必要に応じて作成されます。これらはタスク制御サービスで実行されるため、タスクを管理するすべてのコンピュータにタスク制御サービスをインストールする必要があります。

Enterprise Vault サーバーのインストール後、設定ウィザードを使って、そのコンピュータで実行する特定のサービスまたはアイテムを指定できるようになります。次のセクションでは、個別のサービスを設定する場所の詳細を説明します。

Enterprise Vault のサービスまたはタスクを実行するコンピュータに Enterprise Vault サーバーコンポーネントをインストールする必要があります。Enterprise Vault サーバーコンポーネントをインストールすると、自動的に Enterprise Vault 管理コンソールもインストールされます。

1 台以上の Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault SMTP アーカイブを設定するには、この機能を実行する各サーバーに Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントをインストールする必要があります。

Exchange Server コンピュータ上に実験的にインストールすることは可能ですが、本番環境に使うことは推奨しません。

表 14-1 は、Enterprise Vault のタスクとサービスを設定する場所を決定するのに役立つ情報の一覧です。

表 14-1 Enterprise Vault のタスクとサービスの設定先

タスクまたはサービス	Enterprise Vault サイトでの数	メモ
クライアントアクセスのプロビジョニングタスク	Active Directory ドメインまたは Domino ドメインごとに 1 つ。	単一のプロビジョニングタスクで複数のプロビジョニンググループを処理できます。
Domino ジャーナルタスク	アーカイブ対象の Domino ジャーナルの場所をアーカイブするのに必要な数	Enterprise Vault に Domino サーバー、ドメイン、ジャーナルの場所への正しいアクセス権があることを確認する必要があります。  Domino ジャーナルデータベースのデータベース管理機能を [Periodic Rollover]、[Size Rollover]、[None] のいずれかに設定する必要があります。

タスクまたはサービス	Enterprise Vault サイトでの数	メモ
Domino メールボックスアーカイブタスク	Enterprise Vault サーバー 1 台につき 1 つ	Enterprise Vault コンピュータには、複数の Domino メールボックスアーカイブタスクをインストールすることはできません。1 つのサイトの各タスクで、複数の Domino ドメインの複数の Domino メールサーバーをアーカイブできます。複数の Domino メールボックスアーカイブタスクで、同じ Domino メールサーバーをアーカイブできます。
Domino プロビジョニングタスク	Domino ドメイン 1 つにつき 1 つ	1 台の Enterprise Vault サーバーには、Domino プロビジョニングタスクを 1 つだけインストールできます。1 つのプロビジョニングタスクは、通常、複数のプロビジョニンググループを処理します。
Exchange ジャーナルタスク	リソースが利用可能であれば制限なし	Exchange ジャーナルタスクは、複数のジャーナルメールボックスを処理できます。  1 台の Enterprise Vault コンピュータに複数の Exchange ジャーナルタスクをインストールできます。  ボルトサービスアカウントは、アーカイブされる Exchange Server に関連する Exchange ドメインへのアクセス権限を Active Directory に持っている必要があります。
Exchange メールボックスアーカイブタスク	アーカイブ対象の Exchange Server の数 (Microsoft Exchange Server 1 つにつき 1 つ)	1 台の Enterprise Vault コンピュータに複数の Exchange メールボックスタスクをインストールできます。1 つのサイトの Exchange メールボックスタスクで、複数の Exchange ドメインの複数の Exchange Server をアーカイブできます。  ボルトサービスアカウントは、アーカイブされる Exchange Server に関連するドメインへのアクセス権限を Active Directory に持っている必要があります。

タスクまたはサービス	Enterprise Vault サイトでの数	メモ
Exchange プロビジョニングタスク	Exchange ドメイン 1 つにつき 1 つ	1 台の Enterprise Vault サーバーに複数の Exchange プロビジョニングタスクをインストールできます。1 つのプロビジョニングタスクは、通常、複数のプロビジョニンググループを処理します。
Exchange パブリックフォルダタスク	パブリックフォルダ階層を処理するのに必要な数	1 つの Exchange パブリックフォルダタスクで、階層の 1 つ以上のサブフォルダを処理できます。  ボルトサービスアカウントは、アーカイブされる Exchange Server に関連するドメインへのアクセス権限を Active Directory に持っている必要があります。
ファイルシステムアーカイブタスク	定義されたアーカイブポイントを処理するのに必要な数	このタスクは、ファイルサーバーアーカイブ対象の作成時に選択するストレージサービスと同じコンピュータで実行する必要があります。  ボルトサービスアカウントは、アーカイブされるファイルシステムへのアクセス権限を持っている必要があります。
アーカイブ移動タスク	Enterprise Vault ストレージサーバー 1 台につき 1 つ	このタスクは、アーカイブ移動ウィザードの実行時に Enterprise Vault にによって自動的に作成されます。  <a href="#">p.155 の「アーカイブ移動タスクのインストールの計画方法」</a> を参照してください。
SharePoint タスク	アーカイブ対象 SharePoint をアーカイブするのに必要な数	SharePoint タスクは、SharePoint タスクの作成時に選択するストレージサービスと同じコンピュータで実行されます。  1 台の Enterprise Vault コンピュータに複数の SharePoint タスクをインストールできます。



タスクまたはサービス	Enterprise Vault サイトでの数	メモ
SMTP アーカイブタ スク	Enterprise Vault SMTP サーバー 1 台につき 1 つ	<p>1 つのサイトは複数の Enterprise Vault SMTP サーバーを持つことができます。各 SMTP サーバーは、Enterprise Vault SMTP サービスと SMTP アーカイブタスクを持ちます。設定済み SMTP 対象アドレスを含むメッセージは、サイトのいずれかの SMTP サーバーによって処理できます。</p> <p>SMTP アーカイブタスクは、ローカル SMTP 保存フォルダに割り当てられます。このタスクは保存フォルダの .eml メッセージファイルを処理するため、タスクのログオンアカウントが保存フォルダへのフルアクセスを持っている必要があります。</p>
Accelerator サービ ス	1 つ	Compliance Accelerator と Discovery Accelerator は、同じコンピュータで実行しないでください。
管理サービス	他の Enterprise Vault サービスがイ ンストールされたコンピュータ 1 台に つき 1 つ	必須。管理サービスは、Enterprise Vault サーバーコンポーネントをインストールすると、自動的にインストールされます。
インデックスサービス	1 つ以上	<p>1 台の Enterprise Vault コンピュータに複数のインデックスサービスをインストールすることはできませんが、1 つのサイトに複数のインデックスサービスをインストールできます。</p> <p>インデックスを保存するのに十分なストレージ領域が必要です。</p> <p>インデックスサービスが正しく機能するために、年の形式がグレゴリオ暦に該当するコンピュータにインストールする必要があります (現在 2018)。</p>
ショッピングサービス	Enterprise Vault サーバー 1 台につ き 1 つ	<p>IIS が必要です。</p> <p>コンピュータ上に、ユーザーが削除するまでショッピングバスケットを保存しておくのに十分なディスク領域が必要です。</p>

タスクまたはサービス	Enterprise Vault サイトでの数	メモ
ストレージサービス	1 つ以上	1 台の Enterprise Vault コンピュータに複数のストレージサービスをインストールすることはできません。  ボルトストアを保存するのに十分なストレージ領域が必要です。
SMTP サービス	Enterprise Vault SMTP サーバー 1 台につき 1 つ	Enterprise Vault SMTP サービスは、Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントを Enterprise Vault サーバーにインストールする際に作成されます。  サイトには複数の Enterprise Vault SMTP サーバーが存在できます。最初の Enterprise Vault SMTP サーバーで設定した SMTP サーバー設定は、後でサイトに追加する Enterprise Vault SMTP サーバーと共有します。

## Exchange メールボックスアーカイブタスクのインストールの計画方法

ユーザーのメールボックスをアーカイブするには、Enterprise Vault サイトに配置されている Microsoft Exchange Server コンピュータごとに 1 つの Exchange メールボックスアーカイブタスクが必要です。Microsoft Exchange Server にサービスを提供できるのは 1 つの Exchange メールボックスアーカイブタスクのみです。ただし、Enterprise Vault サイト内の同じコンピュータで複数の Exchange メールボックスアーカイブタスクを実行し、複数の Microsoft Exchange Server にサービスを提供できます。

Exchange メールボックスアーカイブタスクは最も直接的に Microsoft Exchange Server (MAPI を使用)、ストレージサービス、インデックスサービスとのやり取りを行います。したがって、やり取りを行うストレージサービスとインデックスサービスと同じコンピュータ上にタスクをインストールするのが最も効果的です。これにより、ネットワークリンクを行き来する必要のあるデータの量を減少させることができます。

## Exchange ジャーナルタスクのインストールの計画方法

Exchange ジャーナルタスクによって、複数の Microsoft Exchange Server のジャーナルメールボックスからアーカイブできます。ただし、ジャーナルメールボックスにサービスを提供できるのは 1 つの Exchange ジャーナルタスクのみです。Enterprise Vault サイト内の同じコンピュータで複数の Exchange ジャーナルタスクを実行し、1 台以上の Microsoft Exchange Server で 1 つ以上のジャーナルメールボックスを処理できます。

Exchange メールボックスアーカイブタスクや Exchange パブリックフォルダタスクと同様に、Exchange ジャーナルタスクは最も直接的に Microsoft Exchange Server、ストレージサービス、インデックスサービスとのやり取りを行います。したがって、関連付けされたストレージサービスとインデックスサービスを管理する Enterprise Vault コンピュータに Exchange ジャーナルタスクをインストールすることを推奨します。

## Exchange パブリックフォルダタスクのインストールを計画する方法

複数の Exchange パブリックフォルダタスクをインストールできます。Exchange パブリックフォルダタスクプロセスごとに、Microsoft Exchange Server のパブリックフォルダ階層の 1 つ以上のサブフォルダを処理できます。

Exchange パブリックフォルダタスクでパブリックフォルダからアーカイブする場合、関連付けされた Exchange パブリックフォルダポリシーに管理コンソールで指定したアーカイブ設定が使われます。ただし、Outlook 内のパブリックフォルダを持つメールボックスでプロパティを変更することにより、個別のパブリックフォルダのアーカイブ設定を修正できます。Enterprise Vault Outlook アドインをインストールする必要があります。

Exchange パブリックフォルダタスクの必要条件は、Exchange メールボックスタスクの必要条件と同様です。Exchange パブリックフォルダタスクは、Microsoft Exchange Server、ストレージサービスとインデックスサービスとの直接的なやり取りを最も頻繁に行うため、関連付けされたストレージサービスやインデックスサービスと同じコンピュータ上にタスクをインストールするのが最も合理的です。これにより、ネットワークリンクを行き来する必要があるデータの量を減少させることができます。

## Domino ジャーナルタスクとメールボックスアーカイブタスクのインストールを計画する方法

これらのタスクを計画するための必要条件が複雑であるため、Enterprise Vault 環境を計画する場合は、『インストール/設定』ガイドの情報を参照することが重要です。

## アーカイブ移動タスクのインストールの計画方法

アーカイブ移動タスクは、アーカイブ移動ウィザードの実行時にストレージサーバー上に自動的にインストールされます。特定のストレージサーバーに関連付けされたアーカイブを初めて移動する場合、Enterprise Vault によってそのサーバー上にアーカイブ移動タスクが作成されます。このタスクは、タスク制御サービスを起動するたびに自動的に開始されるように設定されています。

## ストレージサービスのインストールを計画する方法

Enterprise Vault サイトごとに 1 つ以上のストレージサービスが必要です。1 台のコンピュータにインストールできるストレージサービスの数は 1 つのみです。Enterprise Vault サイトに複数のストレージサービスをインストールする場合は、個別のコンピュータで実行

する必要があります。通常、ストレージサービスをインデックスサービスと同じコンピュータにインストールするのが最良の方法です。

関連付けられているストレージサービスとインデックスサービスが個別のコンピュータにある場合、コンピュータ同士は高速接続を介して通信できる必要があります。

アーカイブの必要性が高く、ストレージの容量が大量に必要だと思われる場合は、サイトごとに複数のストレージサービスをインストールすることを検討します。これには、サイト内で Enterprise Vault を実行している複数のコンピュータが必要です。

## インデックスサービスのインストールを計画する方法

Enterprise Vault サイトごとに 1 つ以上のインデックスサービスが必要です。ただし、1 台のコンピュータにインストールできるインデックスサービスの数は 1 つのみです。Enterprise Vault サイトに複数のインデックスサービスをインストールする場合は、それぞれ異なるコンピュータにインストールしてください。通常、インデックスサービスをストレージサービスと同じコンピュータにインストールするのが最良の方法です。

---

**メモ:** インデックスサービスが正しく機能するために、年の形式がグレゴリオ暦に該当するコンピュータにインストールする必要があります (現在 2018)。たとえば、コンピュータのグレゴリオ暦をタイの暦に設定すると、インデックスサービスが失敗します。これは、タイ太陽暦の現在の年が、サービスがサポートする日付範囲から外れるために発生します。

---

大規模な配備または分散型の配備では、インデックスサーバーグループを使用してインデックス付けの負荷を分散することを検討してください。関連付けられたストレージおよびインデックスサービスは、同じ場所に配置するか、高速接続で通信できるようにします。

インデックスサービスを使うと、多数のアーカイブのインデックスを同時に管理でき、インデックスが複数のストレージサービス上の異なるボルトストアに格納されている場合でも、管理可能です。インデックスサービスに割り当てられたインデックスの場所には、インデックスデータを保存するのに十分なディスク領域が必要です。

インデックスは、次のように構成されます。

- 各アーカイブに独自のインデックスがあります。
- 各インデックスは、関連するファイルセットで構成されます。  
これらのファイルは、常に完全なセットとしてバックアップや復元が行われ、一部のファイルのみが復元されることはありません。  
ファイルの数は時間の経過とともに増減します。
- ファイルはフォルダ内に保存されます。多くのアーカイブでは、インデックスファイルに 1 つのフォルダ (インデックスボリューム) があります。インデックスボリュームがいっぱいになると、Enterprise Vault は自動的に新しいボリュームを作成します。これは FSA アーカイブ、Exchange または Domino ジャーナルアーカイブ、Exchange パ

ブリックフォルダアーカイブに対して行われる場合がありますが、通常のメールボックスアーカイブに対しては行われません。

設定時に、インデックスボリュームを作成するインデックスの場所を指定します。複数のインデックスの場所が必要な場合は、異なる物理デバイスに分散させることを推奨します (このような場所は、エラーメッセージや診断メッセージで「インデックスルートパス」と呼ばれることもあります)。

複数のインデックスの場所を指定する場合、新しいアーカイブのインデックスと新しいインデックスボリュームは複数の場所に分散します。インデックスサーバーグループを作成する場合、関連付けられたボルトストアのインデックス付けは、そのグループ内のすべてのインデックスサーバーで共有されます。インデックスボリュームは、グループ内のインデックスサーバーに割り当てられた複数の場所に分散します。

インデックスレベルを使って、アーカイブ内のアイテムに対してインデックスが設定される情報の量を選択できます (インデックスレベルには、簡略と完全があります)。たとえば、**Compliance Accelerator** や **Discovery Accelerator** を使って、アイテム内容のフレーズ検索を行えるようにする場合には、「完全」を使います。

1 つのアイテムに対してインデックスされる情報が多いほど、アイテムの検索が容易になります。ただし、1 つのアイテムに対してインデックスが作成される情報が多いほど、インデックスを格納するために必要なディスク領域が増加します。アイテムのインデックスデータのサイズは、インデックスレベルによって異なります。

表 14-2 に、インデックスの概算サイズを、インデックスレベルごとのアイテムの、アーカイブされていないサイズに対する割合で示します。

表 14-2 インデックスデータの概算サイズ

インデックスレベル	概算サイズ
簡略	4%
完全	12%

したがって、ボルトストアが数百 GB (または TB) もの領域を占めている場合、インデックスに GB (または数十 GB) の領域が必要となることが予想されます。

## ショッピングサービスのインストールを計画する方法

各 Enterprise Vault サーバーに 1 つのショッピングサービスがあります。

復元するアイテムを選択すると、アイテムがショッピングバスケットに保存され、ショッピングサービスコンピュータのショッピングストレージの場所に保持されます。

ショッピングデータを保存するために十分なディスク容量がコンピュータにあることを確認してください。

## ファイルシステムアーカイブのインストールを計画する方法

Windows ファイルサーバーでは、ブレースホルダショートカットを作成したり、FSA レポート用にデータを取得したりするファイルサーバーごとに、Enterprise Vault FSA エージェントをインストールする必要があります。これらの機能で必要なサービスは、FSA エージェントによって提供されます。

NetApp Filer と Dell EMC Celerra/VNX デバイスでは、ファイルシステムアーカイブの設定が異なります。FSA エージェントサービスまたはこれに相当するサービスは、ファイルサーバーではなく、Enterprise Vault サーバーまたは別の Windows サーバー上で実行されます。

## SharePoint アーカイブのインストールの計画方法

Enterprise Vault サイトの 1 つの SharePoint タスクで、複数の仮想 SharePoint サーバーまたは SharePoint サイトコレクションをアーカイブできますが、必要に応じて、Enterprise Vault サーバーに複数の SharePoint タスクを設定できます。Enterprise Vault サーバーの SharePoint タスクだけでなく、アーカイブ対象の各 SharePoint サーバーコンピュータにも Enterprise Vault SharePoint コンポーネントをインストールする必要があります。

ユーザーが Archive Search Web パーツを使えるようにするには、この Web パーツも各 SharePoint サーバーコンピュータにインストールする必要があります。

## SMTP アーカイブのインストールを計画する方法

SMTP アーカイブ機能を使って、SMTP メッセージをアーカイブする各 Enterprise Vault サーバーに Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントをインストールする必要があります。各 Enterprise Vault SMTP サーバーには、ローカル SMTP 保存フォルダ用の十分な領域が必要です。

SMTP アーカイブを設定すると、Enterprise Vault SMTP サーバー設定とターゲット設定情報がサイトのすべての Enterprise Vault SMTP サーバーで共有されます。これは、サイトの Enterprise Vault SMTP サーバーがサイトのすべての SMTP ターゲットに送信されたメッセージをアーカイブできることを意味します。

ジャーナルする SMTP メッセージの容量が大きい場合は、複数の Enterprise Vault ストレージサーバーにアーカイブ負荷を分散することを推奨します。異なるボルトストアで複数のジャーナルアーカイブを作成することによってこれを実行できます。異なる Enterprise Vault ストレージサービスで、各ボルトストアを管理する必要があります。

ターゲットの SMTP アドレスを含むメッセージを複数のアーカイブに格納する可能性がある場合は、単一のインスタンスストレージを実装すると便利です。対象アーカイブごとにどのボルトストアが使用されるかをチェックします。また、各ボルトストアに設定されたボルトストア共有もチェックする必要があります。

## Accelerator サービスのインストールを計画する方法

Accelerator マネージャサービスは Enterprise Vault コンピュータにインストールできますが、通常は別のコンピュータにインストールします。1 つのサイトには 1 つの Accelerator マネージャサービスのみインストール可能です。

現在、1 台のコンピュータでの Compliance Accelerator と Discovery Accelerator の同時実行はサポートされていません。

Accelerator Web アプリケーションには IIS が必要であり、一般的にはこのアプリケーションを Accelerator マネージャサービスコンピュータにインストールしますが、必要に応じて別の IIS コンピュータにインストールすることもできます。

Compliance Accelerator または Discovery Accelerator を使って大規模な検索が頻繁に実行される大規模なインストール済み環境では、インデックスサービスとストレージサービスが頻繁に使われることが予想されます。インデックスサービスとストレージサービスがインストールされているコンピュータのメモリを増設し、CPU を高性能にすると、パフォーマンスが向上する場合があります。

## Enterprise Vault データベースとそのインストールの計画

Enterprise Vault には、次のコアデータベースがあります。

- Enterprise Vault ディレクトリデータベース。この種類のデータベースは 1 つのみ存在し、複数の Enterprise Vault サイトで共有できます。
- ボルトストアデータベース。この種類のデータベースは、サイト内の各ボルトストアに 1 つずつ存在します。
- フィンガープリントデータベース。各ボルトストアグループに 1 つずつ存在します。考えられる 1 つの例外として、以前に Enterprise Vault 8.0 へアップグレードした場合に Enterprise Vault で作成されたデフォルトのアップグレードグループがあります。ユーザーが共有を設定するまで、Enterprise Vault はデフォルトのアップグレードグループのフィンガープリントデータベースを作成しません。
- Enterprise Vault 監視データベース。この種類のデータベースは、各 Enterprise Vault ディレクトリデータベースに 1 つずつ存在します。複数の Enterprise Vault サイトがディレクトリデータベースを共有している場合、監視データベースも共有する必要があります。監視データベースには、監視エージェントが Enterprise Vault サーバーについて収集した状態情報が保存されます。

FSA レポートを設定すると、Enterprise Vault はファイルサーバーから集めた FSA レポートデータを保持する場合にも 1 つ以上の FSA レポート用データベースを使います。

Enterprise Vault を設定する前に、SQL Server をインストールして設定しておく必要があります。SQL Server のインストールのソート順序または照合設定では、大文字と小文

字が区別されない点に注意してください。大文字と小文字を区別する SQL インストールはサポートされていません。

Microsoft SQL Server はディレクトリサービスコンピュータと同じコンピュータに存在する必要はありません。また、ボルトストアコンピュータ上に存在する必要もありません。各コンピュータ上で Microsoft SQL Server Management Studio や Microsoft SQL Enterprise Manager を実行して、インストールした SQL Server を登録します。

ネットワークの再設定を行うときに、ディレクトリデータベースを管理する SQL Server のインスタンスを変更することもできます。その手順については、管理コンソールヘルプを参照してください。

Enterprise Vault を設定するとき、次の情報を入力するように要求されます。

- ボルトサービスアカウントの詳細情報。これにより、Enterprise Vault によるディレクトリデータベースとボルトストアデータベースの作成が可能になります。
- SQL Server の場所と、Enterprise Vault ディレクトリデータベースのデータとログファイルの場所。
- SQL Server の場所と、Enterprise Vault 監視データベースのデータとログファイルの場所。

Enterprise Vault で作成されるデータベースの名前は、次のとおりです。

- EnterpriseVaultDirectory - ディレクトリデータベース用
- EVvaultstore - ボルトストアデータベース用
- EnterpriseVaultMonitoring - 監視データベース用

Enterprise Vault では、次のデータベースの場所も作成されます。

- VaultDev - ディレクトリデータベースのデータ用
- VaultLog - ディレクトリデータベースのトランザクションログ用
- EVvaultstore - ボルトストアデータベースのデータ用
- EVvaultstore - ボルトストアデータベースのトランザクションログ用
- 監視データベースのデータ用の場所
- 監視データベースのトランザクションログ用の場所

各ボルトストアデータベースには、関連付けされたボルトストアにアーカイブされる各アイテムのエントリが含まれるため、ボルトストアデータベースは時間の経過とともに大きくなります。アーカイブからアイテムが削除されるときのみ、そのアイテムへの参照が該当するボルトストアデータベースから削除されます。

ボルトストアグループを作成すると、Enterprise Vault ではそのグループに対するフィンガープリントデータベースが作成されます。新規ボルトストアグループウィザードには、データベースファイルグループ設定用に次のオプションがあります。



- 基本設定。**Enterprise Vault** では、1 つのデバイス上のプライマリファイルグループとプライマリ以外のすべてのファイルグループがここに格納されます。
- 32 個の非プライマリファイルグループに追加の場所を設定するオプション。

単一インスタンスストレージを使うと、プライマリ以外のファイルグループのサイズがすぐに増大する可能性があります。最適なパフォーマンスを得るには、プライマリ以外のファイルグループを複数の場所に分散させます。

初めて **FSA** レポートのファイルサーバーを設定する場合、ウィザードを使って **FSA** レポート用データベースを作成できます。**FSA** レポートの追加のファイルサーバーを設定するとき、既存の **FSA** レポート用データベースを使うか、追加のデータベースを設定するかを選択できます。

データベースストレージの必要条件については『インストール/設定』のストレージの必要条件に関する説明を参照してください。

**Compliance Accelerator** または **Discovery Accelerator** をインストールすると、それぞれに対して個別のデータベースが作成されます。**Accelerator** データベースは、**Enterprise Vault** データベースと同じ **SQL** サーバーで管理できますが、必要に応じて別のサーバーを使うこともできます。

**Compliance Accelerator** では、すべての部門、キャプチャされたアイテム、検索、レビューされたアイテムについてのデータがデータベースに無期限に保存されます。同様に、**Discovery Accelerator** では、ケース、検索、検索結果、レビューされたアイテムについてのデータがデータベースに無期限に保存されます。データベースファイルが増大しても十分なストレージ領域があることを確認します。データベースは、標準の **SQL** 管理ツールを使って管理できます。

## ボルトストアグループとボルトストアインストール計画

ボルトストアはボルトストアグループに含まれます。ボルトストアグループは、**Enterprise Vault** 単一インスタンスストレージ内の共有アイテムの外部境界を定義します。

p.26 の「[単一インスタンスストレージについて](#)」を参照してください。

ボルトストアは 1 つ以上のパーティションで構成されます。ボルトストアパーティションはストレージデバイスに存在します。**Enterprise Vault** を設定するときに、各パーティションが作成されるデバイスを指定します。

パーティションが **NTFS** ボリュームセットに作成される場合、単一の **NTFS** ボリュームセットに含まれる必要があり、パーティションを複数のボリュームセットに広げることができません。ボリュームセットには複数の物理ディスクを含められるため、パーティションは複数のディスクに広げられることに注意してください。1 つの **NTFS** ボリュームセットには複数のパーティションが存在できます。パーティションを含めるために **NTFS** ボリュームセットを作成したり拡張したりする必要がある場合、**Windows** 管理ツールを使用します。

ボルトストアに必要な領域量は次の内容によって異なります。

- アーカイブするアイテムの想定平均サイズ
- ボルトストアに 1 日にアーカイブする想定アイテム数
- 単一インスタンスストレージによるアーカイブ領域の減少
- ファイル圧縮によるストレージ領域の減少
- アーカイブ対象からアイテムをアーカイブする想定頻度
- ボルトストアにアーカイブ済みアイテムを保存する想定期間

---

**メモ:** ストレージのサイズ決定に関してサポートが必要な場合、Veritas 取扱店にご連絡ください。

---

このリストの最初の 2 つの項目は、単一インスタンスストレージまたは圧縮による保存前に 1 日にボルトストアに必要な領域量に対する参考になります。

単一インスタンスストレージと圧縮を利用すると、ストレージ領域を大きく節約できます。

有効期限を使用して、保持期間の最後にアーカイブ済みアイテムを自動的に削除する場合、必要な領域量は長期間それほど増大しません。

約 2 週間が経過後にアーカイブ対象からアイテムをアーカイブする積極的なアーカイブポリシーを設定する場合、ユーザーは、頻繁にこれらのアイテムにアクセスしようとする可能性があります。ユーザーが簡単に復元できるように、アーカイブ済みアイテムを一定期間ボルトストアでオンラインにしておきます。ボルトストアにデータを格納するため、十分なオンライン領域が必要となります。

一方で、アイテムがアーカイブ対象から約 6 カ月または 1 年アーカイブされないようにアーカイブを設定する場合、ユーザーがアーカイブ済みアイテムにアクセスしようとする可能性ははるかに低くなります。ほとんど待機期間を設定せずに、アーカイブ済みアイテムをボルトストアからセカンダリストレージに移すことができます。

アーカイブ対象を作成するときに、アーカイブのデフォルトのボルトストアを選択できます。

**Exchange** メールボックスのアーカイブでは、プロビジョニンググループ、**Exchange Server**、**Enterprise Vault** サーバーのレベルで異なるボルトストアを選択できます。パブリックフォルダのアーカイブでは、**Exchange Server** または **Enterprise Vault** サーバーのレベルで異なるボルトストアを選択できます。**Domino** メールボックスのアーカイブでは、プロビジョニンググループまたは **Domino** サーバーのレベルで異なるボルトストアを選択できます。

選択されたボルトストアは、対象に関連付けされている自動的に有効にされたアーカイブに使用されます。同様に **SharePoint** のアーカイブでは、選択されたボルトストアは、対象に関連付けされている自動有効化されたサイトコレクションアーカイブに使用されます。

ボルトストアデータベースは、ボルトストアと同じコンピュータ上にある必要はありません。データベースは **SQL Enterprise Manager** を使って管理されます。

p.159 の「[Enterprise Vault データベースとそのインストールの計画](#)」を参照してください。

## 管理コンソールのインストール

Enterprise Vault サーバーコンポーネントをインストールすると、自動的に管理コンソールもインストールされます。

1 つの Enterprise Vault サイトに複数の管理コンソールをインストールできます。

管理コンソールと一緒に、次のものがインストールされます。

- PST 移行
- NSF 移行ソフトウェア
- アーカイブのエクスポート
- Microsoft Exchange フォーム
- Enterprise Vault マニュアル

## クライアントコンポーネントのインストール計画

ユーザーは、次の機能を使って電子メールクライアント内からアーカイブ済みのアイテムにアクセスできます。

- Enterprise Vault Outlook アドイン。Outlook 2013 以降のユーザーは Enterprise Vault Office メールアプリケーションの機能を使うこともできます (配備するように選択した場合)。
- Mac OS X 用 Enterprise Vault クライアント
- OWA 用の Enterprise Vault 拡張機能。
- Notes と Domino Web Access クライアント用の Enterprise Vault 拡張機能。

さらに、アーカイブ済みアイテムには、Enterprise Vault 検索機能などを使ってスタンドアロンのブラウザからアクセスできます。

p.16 の「[アーカイブ内のアイテムへのアクセス方法](#)」を参照してください。

## Outlook Web App (OWA) のためのインストール計画および HTTP コンポーネント上の RPC

これらのコンポーネントの計画の必要条件は複雑であるため、Enterprise Vault 環境を計画する場合は、「インストールと設定」ガイドの情報を読むことが重要です。

# アーカイブ戦略の計画

この章では以下の項目について説明しています。

- [アーカイブ戦略について](#)
- [Enterprise Vault サイトのデフォルト設定先](#)
- [ユーザーに柔軟性を許容する方法](#)
- [アーカイブするアイテムの種類の計画方法](#)
- [ユーザーメールボックスに対するアーカイブポリシーの定義方法](#)
- [ジャーナルメールボックスに対するアーカイブポリシーの計画方法](#)
- [Exchange パブリックフォルダのアーカイブ戦略の計画方法](#)
- [FSA のアーカイブ戦略の計画方法](#)
- [SharePoint アーカイブの戦略を計画する方法](#)
- [保持カテゴリの設定を計画する方法](#)
- [アーカイブ済みアイテムの自動削除の計画方法](#)
- [PST の移行を計画する方法](#)
- [NSF 移行を計画する方法](#)
- [共有アーカイブの計画方法](#)
- [ボルトストアおよびパーティションの計画方法](#)
- [単一インスタンスストレージの計画方法](#)
- [Enterprise Vault のレポートについて](#)

## アーカイブ戦略について

このセクションでは、組織でアーカイブを実施する方法を決定する際に考慮する必要のある要点を取り上げ、戦略を実施するための設定について説明します。アーカイブ戦略は **Enterprise Vault** の設定方法を決定します。

次の考慮事項を検討する必要があります。

- ファイルサーバーまたは **SharePoint** サーバー上のユーザーメールボックスアイテム、ジャーナルアイテム、パブリックフォルダ、ファイルなど、アーカイブするデータの種類
- アーカイブの対象とするメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダ、ファイルサーバー、**SharePoint** サーバー。
- アーカイブ対象をアーカイブする頻度。
- 個々のアーカイブに使うボルトストア。
- 必要なインデックスレベル。
- 各アーカイブ対象に必要なポリシー。
- 定義する保持カテゴリまたは保持計画
- **Enterprise Vault** がアーカイブするアイテムを分類する分類機能を使うかどうか
- ショートカットとアイテムを削除する方法とタイミング。
- メールボックスとファイルサーバーで使うショートカットの種類。
- メールボックス、パブリックフォルダ、**SharePoint** サイトコレクションの自動アーカイブの有効化の要、不要。
- セーフコピーを保存するかどうかとその保存場所。
- サイト間で適用する設定。
- ユーザーアーカイブに対する単一インスタンスストレージの設定方法。
- **PST** ファイルと **NSF** ファイルの保管場所とアーカイブ方法。
- ユーザーに与える柔軟性。
- ユーザーのデスクトップに表示する **Enterprise Vault** の機能。

これらのオプションやその他のオプションについて、以降のセクションで説明します。

## Enterprise Vault サイトのデフォルト設定先

表 15-1 に **Enterprise Vault** サイト全体に適用されるデフォルト設定を示します。

表 15-1                      サイトプロパティ

タブ	設定
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボルトサイトエイリアスと説明。</li> <li>■ <b>Web Access</b> アプリケーションで使用するプロトコルとポート。</li> <li>■ <b>Web Access</b> アプリケーションのユーザーのシステムメッセージ (必要な場合)。</li> <li>■ <b>PST</b> 保留領域詳細のサイトプロパティ設定は <b>Exchange Server</b> アーカイブにのみ適用されます。</li> <li>■ 管理者用のメモ (必要な場合)。</li> </ul>
アーカイブの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルトの保持カテゴリ。</li> <li>■ ユーザーがアーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新する可能性がある処理を実行したときに更新を許可するかどうか。</li> <li>■ アーカイブ内のアイテムの削除をユーザーに許可するかどうか。</li> <li>■ ユーザーが削除したアイテムを回復できるかどうか。</li> <li>■ 削除済みアイテムが回復に利用可能である期間。</li> <li>■ アーカイブのトランザクション履歴を保持する期間。</li> </ul>
ストレージの有効期限	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ストレージの有効期限機能を実行するためのスケジュール。この設定に従って、割り当てられた保持期間よりも古いすべてのアイテムがアーカイブから削除されます。</li> <li>■ 有効期限の計算をアイテムの変更日、またはアーカイブ日から開始するか設定。</li> </ul>
サイトスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動バックグラウンドアーカイブを実行するためのスケジュール。</li> </ul>
アーカイブの使用限度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必要に応じて、アーカイブサイズの限度を設定できます。</li> </ul>
インデックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インデックスレベル: [簡略]または[完全]。</li> <li>■ <b>Disclaimer</b> など、インデックス付けすべきではない電子メールの内容。</li> <li>■ インデックスサブタスクが削除されるまでの保留期間。</li> </ul>
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Enterprise Vault</b> サイト内での <b>Enterprise Vault</b> のインデックス付け動作の調整に使える詳細設定。</li> </ul> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、[インデックス]設定は変更しないでください。</p>
監視	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>Enterprise Vault</b> を監視するためのパフォーマンスカウンタ。</li> </ul>

これらの一部は、個々のアーカイブ対象で上書きできます。たとえば、**Exchange Server** アーカイブの[アーカイブの設定]のデフォルト設定は、プロビジョニンググループ、**Exchange Server**、および **Enterprise Vault** サーバーのレベルでも定義できます。計画

対象のサイトの構造を検討し、これらのデフォルト値を定義する必要がある箇所を判断します。

サイトプロパティでは、サイト内のアーカイブの一部の定義を全体的に制御できます。これには、アーカイブを実行するスケジュール、ユーザーがアーカイブ内のアイテムを削除できるかどうかが含まれます。アーカイブ対象とポリシーの設定では、特定のアーカイブ対象またはユーザーのグループに合わせてアーカイブを調整できます。

サイトプロパティの設定については、管理コンソールヘルプで説明します。これらの設定について詳しくはヘルプを参照してください。

## ユーザーに柔軟性を許容する方法

**Exchange Server** メールボックスとパブリックフォルダのアーカイブの場合、ユーザーが各自のプロファイルに合わせてアーカイブ設定を変更できるように設定できます。このように設定するには、ポリシープロパティで適切な[ロック]のチェックマークをはずします。これにチェックマークを付けると、ユーザーは設定を変更できなくなります。

ユーザーに変更を許可する設定を決定し、その設定をロックされないままにしておきます。

## アーカイブするアイテムの種類の計画方法

**Exchange Server** のアーカイブでは、アーカイブされるメッセージファイルの種類は、メッセージクラスによって定義されます。**Domino** メールボックスのアーカイブでは、アーカイブされるファイルの種類は、**Domino** フォームによって定義されます。**Enterprise Vault** によってアーカイブされるメッセージクラスまたは **Domino** フォームのデフォルトの一覧は、ディレクトリプロパティで定義されます。これらは、ディレクトリを使うすべてのサイトに適用されます。

アーカイブのポリシーでは、対象から、アーカイブされるメッセージの種類を選択できます。

電子メールシステムによっては、アーカイブするメッセージの種類が他にもある場合があります。これらのメッセージは他社から提供される場合や、管理者が独自に定義した場合もあります。**Enterprise Vault** でアーカイブするメッセージファイルの種類を決定します。

## ユーザーメールボックスに対するアーカイブポリシーの定義方法

アーカイブするユーザー別のグループ (プロビジョニンググループ) とメールボックスの自動アーカイブで各グループに対して使うポリシーを決定する必要があります。

メールボックスからのアーカイブは、次のいずれかの戦略に基づきます。

- 経過日数: **Enterprise Vault** では、指定した経過日数に達するとアイテムが自動的にアーカイブされます。
- クォータ: アーカイブでは、ユーザーごとに **Exchange** メールボックスの空き容量の限度の割合が維持されます。(クォータに基づいたアーカイブは、**Exchange** パブリックフォルダには適用されません)。
- 経過日数とクォータ: **Enterprise Vault** は経過日数に基づくアーカイブを最初に行います。経過日数に基づくアーカイブで必要なメールボックスの空き容量の限度の割合が確保できない場合は、必要な割合に達するまでクォータに基づくアーカイブが続行されます。

経過日数のみ、またはクォータのみでは期待する結果が得られない場合は、経過日数とクォータに基づくアーカイブを検討してください。経過日数だけに基づいてアーカイブを行うと、アイテムが十分にアーカイブされず、一部のメールボックスをクォータ内に維持できない場合があります。アーカイブがクォータのみを基準としている場合、一部の **Exchange** メールボックスの空き容量が限度に達していないことがあります。この場合、**Enterprise Vault** ではあまり古くないアイテムもアーカイブされます。

最小日数制限を設定することによって、新しいアイテムがアーカイブされないようにしてアーカイブ基準を満たすことができます。

また、最も大きいアイテムから順にアーカイブできるため、アーカイブするアイテムの数を少なくできるというメリットがあります。このオプションは、経過日数とクォータ、またはクォータに基づくアーカイブを使う場合、特に便利です。

たとえば、次の設定を使うことができます。これらの設定を使うと、**Enterprise Vault** では 30 日以上経過した 3 MB を超えるアイテムが最初にアーカイブされます。次に 60 日以上経過したすべてのアイテムがアーカイブされます。

- 30 日未満のアイテムをアーカイブしません。
- 3 MB より大きいアイテムから開始します。
- アイテムが 60 日以上経過したらアーカイブします。

別の例では、次の設定を使うことができます。これらの設定を使うと、**Enterprise Vault** では 1 MB を超えるアイテムが最初にアーカイブされます。次に各メールボックスの空き容量が限度の 10% に達するまでアイテムがアーカイブされます。

- 30 日未満のアイテムをアーカイブしません。
- 1 MB より大きいアイテムから開始します。
- メールボックスの空き容量が 10% に達するまでアイテムをアーカイブします。

**Enterprise Vault** は、利用可能な空き容量の割合が達成されなくても、最小日数制限に従います。

経過日数とクォータ、またはクォータに基づくアーカイブについて詳しくは『管理者ガイド』を参照してください。



## メールボックスの有効化の計画方法

新しいメールボックスのアーカイブを自動的に有効にするオプションがあります。このオプションを選択した場合、**Enterprise Vault** で新しく設定されたすべてのメールボックスは、プロビジョニンググループに対して設定されたデフォルト値を使って同じ方法で処理されます。新しく有効になったメールボックス用に自動的に作成されたアーカイブはデフォルトのボルトストアに格納され、メールボックス内のアイテムがデフォルトの保持カテゴリに割り当てられます。メールボックス内のアイテムは、デフォルトのインデックス設定に従ってインデックスが付けられます。

ユーザーがアーカイブのデフォルト値を変更することを想定する場合、自動的に有効になった新しいメールボックスのアーカイブを最初に中断できます。新しいメールボックスのユーザーがアーカイブを有効にするまで、アーカイブは開始されません。これにより、ユーザーはアーカイブのデフォルト値を変更できるようになります。

初めて **Enterprise Vault** を使う場合は、**Enterprise Vault** のユーザーを徐々に増やしていくようにしてください。最初に、新しいメールボックスが自動的に有効にならないように選択することを推奨します。このようにして、**Enterprise Vault** を使うユーザー数を制御でき、必要条件と **Enterprise Vault** のパフォーマンスを評価できます。管理コンソールのメールボックスの有効化ウィザードを使って、メールボックスを手動で有効にします。

**Enterprise Vault** の使用に慣れるに従い、必要なリソースについて予測可能になったときに、新しいメールボックスの自動アーカイブを選択することも可能になります。

## デスクトップの外観の制御を計画する方法

次のユーザーの場合、デスクトップポリシーの設定を使って、**Enterprise Vault** のメニューオプション、ボタン、プロパティをクライアントインターフェースで表示しないように制御できます。

- Outlook アドインをインストールしている Outlook ユーザー
- OWA ユーザー
- Notes ユーザー
- Mac OS X 用の **Enterprise Vault** クライアントをインストールしている Mac OS X ユーザー

ボルトキャッシュと仮想ボルトを操作している Outlook ユーザーのクライアントの外観を制御することもできます。

その他の電子メールクライアントを使っているユーザーの場合、アーカイブ済みアイテムにショートカットからアクセスできるようにカスタマイズされたショートカットを、メールボックスポリシーで設定できます。

## ジャーナルメールボックスに対するアーカイブポリシーの計画方法

ジャーナルアーカイブの実施は、アーカイブ戦略が法規制の順守の必要条件を満たす必要がある場合に重要になります。**Compliance Accelerator** または **Discovery Accelerator** をサイトにインストールしている場合、完全なインデックスを付けてジャーナルアーカイブを使うことを強く推奨します。

**Enterprise Vault** では、**Domino** サーバージャーナルアーカイブと **Exchange Server** ジャーナルアーカイブがサポートされています。

ジャーナルポリシーでは、ジャーナルタスクで配布リストを拡張するかどうかなど、多数の設定を指定できます。

特定のメッセージを特定の方法で処理する場合、カスタムフィルタの使用を検討できます。これは、『**Exchange Server** アーカイブの設定』と『**Domino** サーバーアーカイブの設定』で詳しく説明しています。

ジャーナルアーカイブには機密情報が含まれているため、ジャーナルアーカイブでの検索アクセス権をどのユーザーに与えるかは、慎重に検討してください。

## Exchange パブリックフォルダのアーカイブ戦略の計画方法

パブリックフォルダ内のアイテムは通常、多くの人が読めるように設定されているため、個別のユーザーに適用されるオプションの一部は適切でないことがあります。

パブリックフォルダの最も重要な制御は、アイテムをアーカイブする期限です。たとえば、90 日間ではなく、60 日間変更されていないアイテムをアーカイブするように設定することなどができます。アイテムが頻繁に使われることが予想される場合は、アーカイブするのが早すぎると、ユーザーが頻繁にアーカイブアイテムを取り込むことになります。

最小期限の組み合わせとともに、サイズを基準にしてアーカイブを制御することもできます。

たとえば、次の組み合わせの設定では、10 MB を超えるすべてのアイテムがアーカイブされるようになります。

- 0 日未満のアイテムをアーカイブしません。
- 10 MB を超えるアイテムからアーカイブを開始します。
- 残りのアイテムをアーカイブします。最初に最も古いアイテムから開始し、99 年以上経過したすべてのアイテムがアーカイブされたら終了します。

または、次の設定を行うと、90 日以上経過したすべてのアイテムがアーカイブされますが、最初に 5 MB を超えかつ 60 日以上経過したアイテムからアーカイブされるようになります。

- 60 日未満のアイテムをアーカイブしません。
- 5 MB を超えるアイテムからアーカイブを開始します。
- 残りのアイテムをアーカイブします。最初に最も古いアイテムから開始し、90 日以上経過したすべてのアイテムがアーカイブされたら終了します。

ただし、小さいアイテムよりも大きいアイテムを先にアーカイブするように選択することもできます。この設定は、**Exchange** パブリックフォルダポリシーで行います。

ストレージ領域の確保が重要な問題になる場合は、アーカイブ済みアイテムのセーフコピーを保存しないこともできます。代替手段は、ストレージキューにセーフコピーを保存することです。セーフコピーをストレージキューに移動すると、**Exchange** サーバーの領域はすぐに増加します。

アーカイブするアイテムの種類はボルトサービスで定義します。

p.167 の「[アーカイブするアイテムの種類](#)の計画方法」を参照してください。

## パブリックフォルダの有効化の計画方法

パブリックフォルダのアーカイブを設定する場合、**Exchange** パブリックフォルダタスクを追加し、パブリックフォルダ階層内の 1 つ以上のパブリックフォルダルートパスを、そのタスクに割り当てます。また、使用するタスク用にボルトストアも指定します。

新しいパブリックフォルダのアーカイブを自動有効化することができます。この場合、指定したルートパスの下に作成された新しいパブリックフォルダごとに、新しいアーカイブが自動的に作成されます。

この機能は、パブリックフォルダの作成が厳格に制御されているところでのみ、注意して使う必要があります。

## FSA のアーカイブ戦略の計画方法

ファイルシステムアーカイブを実装する理由は、アーカイブ戦略を決定する上で大きなウェイトを占めています。たとえば、業界の規制に準拠するために、法的文書や財務文書を一定期間保存しなければならないことがあります。どのファイルを、ファイルシステム内のどこに保存する必要があるかを検討する必要があります。当然、ファイルシステムが整理されているほど、アーカイブするファイルを定義する作業は簡単になります。

どのファイル サーバーをアーカイブに含める必要があるかを決定したら、アーカイブポイントの作成場所を決定する必要があります。アーカイブポイントは、単一アーカイブ内に格納する必要がある各フォルダ構造の最上部を示します。アーカイブが非常に短時間でいっぱいにならないようにするため、各アーカイブポイントの下フォルダ構造のサイズを考慮する必要があります。

アーカイブポイントの下のファイルをアーカイブする方法は、対象のアーカイブポイントにアーカイブポリシーを割り当てることで決定されます。アーカイブポリシーには、アーカイ

ブするファイルをフィルタするためのルールや、割り当てる保持カテゴリ、ファイルに関する権限の処理方法、作成されるショートカットの種類などの設定が含まれます。フォルダ構造全体にボリュームポリシーを使ったり、フォルダポリシーを使って特定のフォルダの設定を上書きしたりできます。たとえば、特定のアーカイブポイントのほとんどのフォルダでは、文書をアーカイブし、ショートカットを残す必要があるとします。ところが、フォルダによって、アーカイブ済みファイルのコピーのみが必要で、元のファイルはそのフォルダ内に残したい場合があります。ファイルシステムが整理されていない場合、このアーカイブポリシーは非常に複雑になる可能性があります。ポリシーの単純性を維持することによって、ファイルシステムのアーカイブは管理しやすくなります。

ファイルをアーカイブするときにファイルサーバーからファイルを削除する場合は、ショートカットを残すのか、それとも保存されたデータのアーカイブをユーザーが検索するように設定するのかを検討する必要があります。いずれを選択するかは、アーカイブファイルにアクセスときのユーザーの操作性や、操作の透明性をどの程度維持するのかによって、ある程度決まります。

ショートカットを使う場合は、プレースホルダショートカットやインターネットショートカットのように、使用するショートカットの種類を決定する必要があります。プレースホルダショートカットは、インターネットショートカットよりも透明性が高くなります。使用しているストレージデバイスの種類によっても選択は異なります。

プレースホルダショートカットを使う場合は、バックアップアプリケーションやウイルススキャンアプリケーションがファイルシステムのオフライン属性を利用していることを確認してください。これらのアプリケーションがファイルシステムのオフライン属性を利用しない場合は、実行中またはスキャン中に各ファイルが呼び戻されることがあります。**Enterprise Vault** には、アプリケーションを実行する前にファイルサーバーをバックアップモードに切り替えるためのバックアップモードプログラムが組み込まれています。このプログラムを使うと、ファイルが呼び戻されなくなります。

変更頻度の高いファイルにショートカットを使うと、保存されるファイルのバージョン数が多くなる場合があります。**Enterprise Vault** の削除プロセスをときどき実行して、ファイルシステムアーカイブ内にある古いバージョンのファイルを削除することを検討してください。

**Enterprise Vault** によって作成および管理される対象のファイルシステムに専用フォルダを設定する場合は、管理フォルダ機能を使うことができます。

## SharePoint アーカイブの戦略を計画する方法

ファイルシステムアーカイブと同様に、SharePoint アーカイブを実施する目的により、実施するアーカイブポリシーを決定します。この目的には、コンプライアンスの規制を順守するため、またはサーバーでのディスク領域の使用率を制御するため、またはその両方の場合があります。コンプライアンス規定の順守が必須になっている場合、こちらが優先されます。

どの **SharePoint** サーバーをアーカイブするかを決定したら、アーカイブ対象として含めるサイトコレクションと、それぞれに適用するアーカイブポリシーを考慮することも必要になります。

サイトコレクションの自動有効化とは、アーカイブ対象の最上位サイトの下に作成された新しいサイトが、自動的にアーカイブを有効にされ、サイトコレクションのポリシーを割り当てられることを意味します。これは、手動による管理作業の必要性を軽減しますが、サイトが十分に定義され構成されていることが必要になります。たとえば、**SharePoint** サーバーでサイトコレクションを作成し、サブサイトの一部をアーカイブしないことにした場合、自動有効化を有効に設定せず、作成した新しいサブサイトごとにサイトコレクションオブジェクトを手動で作成する必要があります。

ユーザーが **SharePoint** サイトページからアーカイブ済みアイテムを検索できるようにするには、アーカイブ対象の各 **SharePoint** サーバーに **Archive Search Web** パーツをインストールする必要があります。この場合、必要に応じて、**Archive Search Web** パーツをサイトページに置くこともできます。**Archive Search Web** パーツは、**SharePoint Portal Server** 検索と非常に類似した方法で動作しますが、ユーザーがすでに熟知している場合もあります。

バージョン管理を有効にした場合、アーカイブされている文書の以前のバージョンをユーザーが確認できるようにするために、バージョン履歴リンクも追加する必要があります。

承認された文書にアクセスできても下書きにはアクセスできないユーザーが存在する場合は、下書きをアーカイブするときに、**SharePoint** アーカイブポリシーで選択する **SharePoint** 下書きオプションについて、慎重に検討する必要があります。

## 保持カテゴリの設定を計画する方法

保持カテゴリを使用してアーカイブ済みアイテムを分類できます。保持カテゴリの設定には、アイテムが格納される期間を定義する保持期間も含まれます。

保持カテゴリには、次を可能にする設定も含まれます。

- [保持期間切れアイテムの自動削除を禁止]。
- ユーザーによるアイテムの削除を禁止。

**Enterprise Vault** には、デフォルトの保持カテゴリと呼ばれる 1 つの定義済みの保持カテゴリがあります。保持期間は無期限です。

必要に応じて、その他の保持カテゴリを作成できます。次に例を示します。

- 10 年間保持する必要がある法的必要条件に関する文書がある場合、保持期間が 10 年の **Legal** という名前の、新しい保持カテゴリを作成できます。
- 定期的に行われるミーティングの議事録を 3 年間保存する場合を考えます。この場合、**Minutes** という名前のもう 1 つの新しい保持カテゴリを作成し、3 年間という保持期間を設定します。

定義済み、またはその他の保持カテゴリの 1 つを選択し、サイト内のすべてのアーカイブに適用するデフォルト値とします。

許可されている場合、**Outlook** ユーザーは各自の **Exchange Server** メールボックス、または選択されているフォルダの保持カテゴリを変更できます。**Outlook** ユーザーが特定の保持カテゴリを使ってアーカイブしないようにする場合は、利用可能な保持カテゴリの一覧で、その保持カテゴリを非表示にできます。この場合も、ユーザーは非表示になっている保持カテゴリを使ってアーカイブされているアイテムを検索できます。

保持カテゴリは、まだアーカイブ内のアイテムに割り当てられている可能性があるため、削除できません。

保持フォルダや分類機能など、**Enterprise Vault** の特定の機能は、アーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新し、カテゴリがユーザーによって変更されないようにすることができます。保持について詳しくは、『管理者ガイド』を参照してください。

## 保持計画について

保持計画では、他の多数の設定に保持カテゴリに関連付けて、それらのすべてを 1 つ以上のアーカイブに適用できます。保持計画で適用できる追加設定には次の内容が含まれます。

- 分類ポリシー
- 1 つ以上の保持フォルダ
- 期限切れアイテムの破棄条件

保持計画をアーカイブに適用すると、アーカイブ内のアイテムの保持期間をより高度に制御できます。特に、保持計画では **Enterprise Vault** でアイテムをアーカイブするときに自動的に指定されたのとは異なる保持期間を指定することによって、アーカイブ済みアイテムを破棄できます。たとえば、**Enterprise Vault** で最初に割り当てられた保持カテゴリではなく、保持計画に関連付けられた保持カテゴリに従って、影響を受けるアイテムが **Enterprise Vault** によって期限切れになるように保持計画を構成できます。

### 分類ポリシーについて

保持計画で分類ポリシーを設定することを選択する場合、保持計画を割り当てるアーカイブに対して、分類ポリシーで次について決めます。

- **Enterprise Vault** がインデックスを付けてアーカイブするのと同様アイテムを分類するかどうか。**Enterprise Vault** によって分類タグが適用されると、**Compliance Accelerator** や **Discovery Accelerator** などのアプリケーションのユーザーは分類タグを使って、検索やレビューを実行するときにアイテムをフィルタ処理できます。
- ユーザーが手動でアイテムを削除する、または **Enterprise Vault** が自動的にそれらを期限切れにするときに、アイテムを分類するかどうか。

分類機能について詳しくは、『分類』ガイドを参照してください。

## 保持フォルダについて

**メモ:** ここに記載されている保持フォルダは、Enterprise Vault マニュアルの他の場所に記載されている Domino とファイルシステムアーカイブの保持フォルダとは異なります。Domino とファイルシステムアーカイブの保持フォルダは、Enterprise Vault がアイテムをアーカイブするアーカイブ元に作成しますが、ここに記載されている保持フォルダはアーカイブ自体の中に作成します。

このリリースでは、Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブ内でのみ、この 2 番目の種類の保持フォルダを作成できます。

保持フォルダ機能を使用すると、ユーザーのアーカイブ内のアーカイブ済みアイテムの保持と有効期限をフォルダレベルで管理できます。この機能を使用すると、これらのアーカイブに単一の保持フォルダまたはフォルダの階層を作成できます。各保持フォルダに設定された属性によって、Enterprise Vault がこのフォルダ内のアイテムに適用する保持および有効期限設定が決まります。たとえば、保持期間が 1 年の保持カテゴリをアイテムに適用するフォルダを作成して、Enterprise Vault がこれらのアイテムに以前に適用した保持カテゴリを上書きできます。さらに、保持フォルダのサブフォルダが保持フォルダの保持および有効期限設定を継承するのか、それとも独自の設定を持つのかを選択できます。

保持フォルダに対して定義する保持および有効期限設定は、関連する保持計画やサイトレベルなど、別の場所の Enterprise Vault で定義する設定を上書きします。

ユーザーは仮想ボルト、Enterprise Vault 検索、IMAP などの機能を使って、保持フォルダにアクセスしたり、保持フォルダとの間でアイテムを移動したりできます。

## アーカイブ済みアイテムの自動削除の計画方法

Enterprise Vault では、不要になったアイテムをアーカイブから自動的に削除できます。ストレージの有効期限はサイトプロパティで設定します。

削除は、アーカイブ済みアイテムの保持カテゴリで定義した保持設定に基づいて実行されます。たとえば、Enterprise Vault がアイテムをアーカイブした日から 5 年間の保持期間を指定できます。また、2021 年 12 月 31 日など、特定の日付を期限にした保持期間を指定したり、アイテムを永続的に保持するように指定することもできます。

## PST の移行を計画する方法

PST ファイルのアーカイブの実施は、アーカイブするファイル数、PST ファイルの使用に関する企業のポリシー、ユーザーが高速ネットワーク接続にアクセスする頻度に応じて異なります。

PST ファイルを Enterprise Vault へインポートするには、いくつかの方法があります。

- ウィザードを使った移行は、少数の PST ファイルに適しています。
- **Enterprise Vault Policy Manager** を使ったスクリプトによる移行は、多数の PST ファイルを一括して移行する場合に最適な方法です。
- 検索移行型ツールは、**Enterprise Vault** のタスクを使って、ユーザーのコンピュータ上の PST ファイルを検索し、それらのファイルを 1 か所にコピーしてからインポートします。PST 検索中に含む、または除外する特定のパスを設定できます。検索移行型ツールは、ユーザーのコンピュータから PST ファイルを収集する手間を最小限に抑えるように設計されており、手動での作業が最小限で済みます。
- クライアント主導型移行は、検索移行型ツールと似ていますが、PST ファイルの検索と収集場所への送信は、**Enterprise Vault** サーバーのタスクではなくユーザーのコンピュータが自動的に行う点が異なります。たとえば、ノートパソコンを使い、週に 1、2 回しか出社しないため、他の方法によって自分の PST ファイルを取得することが難しいユーザーがいる場合などに便利です。また、ユーザーに PST ファイル移行の権限を与えることができます。クライアント主導型移行は、管理コンソールで有効にする必要があります。

PST の移行を支援するため、ユーザーが **Outlook** を起動するときにデスクトップクライアントがメールプロファイルに一覧表示されている各 PST ファイルにマーカーを書き込むように、デスクトップクライアントを設定できます。後でマーク付けされた PST ファイルがインポートされる際、マーカーは所有しているメールボックスを示します。

PST 移行は『PST 移行』ガイドで説明されています。

PST の移行を計画するときには、次の点を考慮してください。

- すべてのユーザーに対する PST 移行を同時に有効にしないでください。小さなグループのユーザーの PST ファイルを移行してから、次のグループに進んでください。
- PST の一般的な転送率は、2 GB/時です。
- 管理者は、インポートする前に各 PST ファイルにアクセス権限を与える必要があります。
- PST をインポートする前に、各 PST のプロパティでの言語設定が正しいことが重要です。

## NSF 移行を計画する方法

**Enterprise Vault** は、NSF ファイルからアイテムを移行できる次の 2 つのツールを提供します。

- NSF 移行ウィザードを使うと、NSF ファイルからユーザーのアーカイブにアイテムを移行できます。NSF 移行ウィザードについて詳しくは『NSF の移行ガイド』を参照してください。



- **Enterprise Vault Policy Manager** を使うと、NSF ファイルからのアイテムの移行をスクリプトで実行できます。この方法は大規模な移行に最適です。**Policy Manager** について詳しくは『ユーティリティガイド』を参照してください。

## 共有アーカイブの計画方法

ファイルサーバー上のユーザーメールボックスまたはフォルダをアーカイブすると、元のフォルダで設定されていたアクセス権限が、アーカイブ内の対応するフォルダでも設定されます。したがって、元のフォルダへのアクセス権を与えられていたユーザーは、アーカイブ内のフォルダへのアクセス権も与えられることになります。これには、**Outlook** での代理アクセス権も含まれます。フォルダのアクセス権限を新しいアーカイブで設定するには、フォルダとアクセス権限を同期させる必要があります。

代わりに、管理コンソールでアーカイブのプロパティを修正するか、管理コンソールの新規アーカイブウィザードを使って共有専用のアーカイブを作成するかのどちらかにより、アーカイブへのアクセスを共有することもできます。新規アーカイブウィザードを使って作成したアーカイブには、フォルダ構造は含まれません。

## ボルトストアおよびパーティションの計画方法

ホルトストアとパーティションを作成する場所、および使用するストレージデバイスの最も適切なタイプを検討します。たとえば、一部のデバイスは妥当なコストで大量のセキュアストレージ (WORM) を提供するため、コンプライアンスアーカイブ戦略に適している可能性があります。

標準のボルトストアパーティションの場合、**Enterprise Vault** のパーティションロールオーバー機能では、1 つのパーティションから別のパーティションへの自動ロールオーバーによって、継続的なアーカイブがサポートされます。たとえば、オープンパーティションをホストする物理ディスクが許容量に達した場合、**Enterprise Vault** でそのパーティションを自動的に閉じ、別のパーティションを開くことができます。このロールオーバー機能は、スマートパーティションでは利用できません。一方で、複数のスマートパーティションをアーカイブ用に同時に開くことができます。これは、標準のパーティションには当てはまりません。標準のパーティションでは、各ボルトストアで開くことができるパーティションは 1 つに限られます。

**Dell EMC Centera** 以外の非 WORM デバイスにボルトストアパーティションが保持されている場合、**Enterprise Vault** の「コレクション」機能を使用してボルトストアバックアップの速度と効率性を向上させることができます。この機能は、複数の小規模なファイルを **CAB** ファイルに収集します。コレクションは重複排除の消失の原因になるため、重複排除を実行するデバイスでは推奨しません。

**Dell EMC Centera** デバイスでは、次のように、コレクションでの処理が異なります。

- **Centera** コレクションファイルが **CAB** ファイルの代わりに使われます。

- ファイルは、スケジュールに従って収集されるのではなく、アーカイブ後すぐに収集されます。

## セーフコピーの処理を計画する方法

セーフコピーは、アーカイブ済みアイテムのコピーです。メールボックスでは、アーカイブ待ちアイコンで、セーフコピーが識別されます。ボルトストアを設定するときに、**Enterprise Vault** でいつセーフコピーを削除するかを指定する必要があります。

**Enterprise Vault** を実行している環境の種類は、セーフコピーの処理の設定に影響します。

ユーザーのデータを保存する必要がないテスト環境にパイロットシステムを構築する場合、**Enterprise Vault** でアーカイブの直後にセーフコピーが削除されるようにボルトストアを設定します。

稼働中の環境にパイロットシステムをセットアップする場合は、**Enterprise Vault** のテスト後に再びデータの取得が必要なことがあります。この状況では、**Enterprise Vault** で元のアイテムが削除されないようにボルトストアプロパティを編集します。

各ボルトストアのプロパティでは、セーフコピーの格納先として、元の場所またはストレージキューを選択できます。セーフコピーをストレージキューに保持する場合、**Enterprise Vault** はアーカイブ後すぐに元のアイテムを削除するため、元の場所の領域はまもなく回復します。たとえば、アイテムが **Exchange Server** メールボックスからアーカイブされるとき、メールボックスアイコンは、数分以内に「アーカイブ保留」から「アーカイブ完了」に変わります。ストレージキューの場所には、ボルトストアパーティションの次のバックアップまたはレプリケーション後までセーフコピーを保持するのに十分な領域が必要です。

テストが完了すると、選択したタイミングでセーフコピーを削除するように **Enterprise Vault** を設定できます。

## セーフコピーの場所を選択する方法

デフォルトでは、**Enterprise Vault** はアーカイブされているアイテムのセーフコピーを保持します。**Enterprise Vault** は、アーカイブされたセーフコピーが格納されているボルトストアパーティションがバックアップまたはリストアされるまでセーフコピーを保有します。

デフォルトは、**Enterprise Vault** が元のアイテムをセーフコピーとして使うためのものです。このデフォルトは、元のアイテムを削除する前にボルトストアパーティションがバックアップまたはリストアされるまで **Enterprise Vault** が待機する必要があることを意味します。元のアイテムはバックアップまたはレプリケーションが完了するまで元の場所にある必要があります。

ボルトストアパーティションをホストするデバイス上のすべての変更内容が、重複デバイスに即時にレプリケートされる場合は、セーフコピーは必要ありません。

セーフコピーには代替の場所があり、**Enterprise Vault** がストレージキューにセーフコピーを保持できるようにボルトストアを設定できます。この機構は、**Enterprise Vault** が元のアイテムをアーカイブ後すぐに削除できることを意味します。元の場所のストレージ領域はすぐに回復されます。

アイテムが **IMAP** アクセスを使ってアーカイブされると、セーフコピーを元の場所またはストレージキューで保持するのかが選択するかどうかにかかわらず、**Enterprise Vault** では、常にストレージキューでセーフコピーを保持します。

ストレージキューの場所は、耐障害性に優れたデバイス (**RAID 1** 以上) にする必要があります。デバイスには、キュー内のすべてのアイテムを収容するための十分な容量が必要です。ストレージキューをセーフコピーのために使う場合は、次のバックアップが終わるまで、それらのコピーを保持できるだけ十分な容量を確保する必要があります。

ストレージサービスプロパティのストレージキュータブにあるストレージキューの場所を変更できます。

各ボルトストアのプロパティで、メールジャーナルアイテムのための特定のセーフコピーオプションを設定できます。たとえば、アーカイブ後すぐにジャーナルアイテムを削除するが、他のソースからアーカイブされるアイテムのセーフコピーは保持する選択をします。

**Enterprise Vault** は、ストレージサービスが開始されてバックアップモードがボルトストアから消去されるときにセーフコピーをチェックして削除します。

## 単一インスタンスストレージの計画方法

**Enterprise Vault** では、単一インスタンスストレージを使ってアーカイブストレージ領域を最適化することができます。**Enterprise Vault** の単一インスタンスストレージのメカニズムは、サイズの大きいメッセージ添付ファイルなど、共有するのに適したアイテムのパーツを、単一インスタンスとしてアーカイブします。**Enterprise Vault** は単一インスタンスストレージのパーツ (**SIS** パーツ) をボルトストア内で共有したり、ボルトストアグループ内の複数のボルトストア間で共有したりできます。ボルトストアグループは共有の外部境界を形成します。

**Enterprise Vault** の単一インスタンスストレージメカニズムを使う場合は、組織のデータ共有に関する必要条件を満たし、ネットワーク接続速度に適している共有設定を作成する必要があります。アーカイブを開始する前に、必要な共有設定の種類を検討します。

**Enterprise Vault** はアイテムを適及的に共有できません。また、**Enterprise Vault** がアイテムを共有した後に変更できる内容も制限されています。

次の点に注意してください。

- **Dell EMC Centera** デバイス上のパーティション。アイテムが、**Dell EMC Centera** デバイス上でホストされているパーティションに格納されている場合、**Enterprise Vault** の単一インスタンスストレージは実行されません。**Centera** のデバイスレベルの共有メカニズムが必要な場合は、これを使うように **Dell EMC Centera** デバイスのパーティションを設定することができます。**Enterprise Vault** は **Centera** デバイスが保存セッ

トの共有可能なパーツを共有できるように、それらを別のデータ BLOB として格納します。

- スマートパーティション。Enterprise Vault は、同じスマートパーティション内のアイテム間で SIS パーツを共有しますが、スマートパーティションとその他のパーティション間では SIS パーツを共有しません。

たとえば、2 人の従業員が、添付ファイルを含む同じ電子メールを受信するとします。コンプライアンス上の理由から、Enterprise Vault では 1 人の従業員の電子メールがスマートパーティションにアーカイブされ、もう 1 人の従業員の電子メールが標準のボルトストアパーティションにアーカイブされます。電子メールとその添付ファイルが最初に標準パーティションにアーカイブされると、その後電子メールがスマートパーティションにアーカイブされるとき、通常添付ファイルは再度アーカイブされません。これは、スマートパーティション上のデータが完全には適合しなくなることを意味します。ただし、この場合 Enterprise Vault では電子メールと添付ファイルの両方が再度アーカイブされます。

単一インスタンスストレージの設定について詳しくは、『インストール/設定』の「ストレージの設定」を参照してください。

## Enterprise Vault のレポートについて

Enterprise Vault のタスクはレポートモードで実行できます。このモードで実行すると、処理は行われませんが、タスクが正常に実行された場合の処理を示すレポートが作成されます。

メールボックスタスクと Exchange パブリックフォルダタスクで作成したレポートには、タスクを標準モードで実行するときにアーカイブされるアイテムの数と合計サイズ、削除可能な期限切れのショートカットの数に関する詳細が含まれます。

メールボックスのアーカイブでは、メールボックスが有効、無効、新しく作成されたものであってもレポートが作成されます。このレポートにより、より多くのメールボックスのアーカイブを有効にすることによって、節約できる領域量を判断できるようになります。

プロビジョニングタスクは、簡略レポートまたは完全レポートを生成するように設定できます。完全レポートには、処理されるメールボックス、割り当てられたプロビジョニンググループ、使われるポリシーが一覧表示されます。レポートは、このタスクによって通常の実行でも生成されます。

ファイルシステムのアーカイブタスクと SharePoint アーカイブタスクは、レポートモードで実行できますが、通常のアーカイブの実行に対してレポートを生成するように設定することもできます。また、必要なレポートのレベルも指定できます。

ファイルシステムアーカイブのレポートには、複数のレベルのレポートがあります。

- 簡略レポートでは、ボリュームとアーカイブポイントごとに、アーカイブされるアイテムの数と合計サイズの概略が含められます。それぞれのポリシーとルールが、基準を満たすアイテムの数と合計サイズとともに一覧表示されます。

- 完全レポートには、それぞれのルールを満たすアイテムの詳細が含まれます。同様に **SharePoint** のアーカイブでも、複数のレベルのレポートがあります。
- 簡略レポートでは、サイトコレクションごとに、アーカイブされる文書の数と合計サイズの概略が含まれます。それぞれのポリシーとルールが、基準を満たす文書の数と合計サイズとともに一覧表示されます。この概略には、バージョン削除と、削除の結果として節約される容量に関する情報も含まれます。
- 完全レポートには、それぞれのルールを満たす文書と、削除された文書バージョンの詳細が含まれます。

どの種類のアーカイブでも、レポートは **Enterprise Vault** のインストール先フォルダの **Reports** サブフォルダにテキストファイルとして保存されます。このテキストファイルにはタブ区切りのフィールドがあり、表計算プログラム (**Microsoft Excel** など) にファイルの内容を簡単にインポートできます。これらのレポートを使って、複数の設定条件でのアーカイブタスクの使用状況を判断します。

## Enterprise Vault Reporting の機能

**Reporting** 機能によって、**Enterprise Vault** にエンタープライズレベルのレポートが提供されます。この機能では、レポート機構として **Microsoft SQL Server Reporting Services** が使われます。管理者は、レポートサービスのレポートマネージャ **Web** アプリケーションを使って、レポートの内容を管理し、レポートを表示します。

**Enterprise Vault Reporting** の使用について詳しくは『レポート』を参照してください。